

建陽縣	水田	麥田 茶田	小作人は保證人連署 賃借書を地主に交付 し納付すべき小作料 額を約定す	普通六、七割 山手餘田四、五 割	普通三、四割 山手餘田五、六 割	
閩清縣	根田 面田		根田地主は小作人を 招き、又は更迭する權 利あるも、面田所有者 は斯かる權限なし	半分或は十分の 六、七	十分の三、四或 は半分	

(民國二十三年中國經濟年鑑)

第四項 主要農作物の植付面積及產量

本省主要農作物に關し民國二十四年十月編纂の福建省統計概要に依れば、全省六十二縣の稻田面積一千四百五十八萬畝中、第二區南平縣の百六十六萬九千畝を首とし、永泰縣の百九萬一千畝之に亞ぎ、古田縣の九十六萬九千畝、第三區建甌縣の九十一萬二千畝、第三區浦城縣の五十五萬二千畝、第六區永定縣の五十四萬六千畝、第一區閩侯縣の四十七萬畝、第五區平和縣の四十六萬七千畝、第四區莆田縣の四十五萬八千畝等が順次之に亞ぐ。稻米總產額四千四百六萬餘擔中、第二區南平縣の五百二十四萬擔を首とし、永泰縣の三百四十二萬餘擔、古田縣の三百四萬餘擔、第三區建甌縣の二百八十六萬餘擔等が順次之に亞ぎ、其の他百萬擔を越ゆるものは第一區閩侯、寧徳の兩縣、第三區邵武縣、第四區莆田、

南安、安溪の三縣、第五區平和縣、第六區寧洋、永定の兩縣等である。

外に糯稻の田地面積百八十七萬畝、產額五百十九萬餘擔あり、其の多きを占むるものは第七區連城縣を首とし、第六區上杭縣、第二區永安縣、第四區莆田縣、第五區雲霄縣、第二區古田縣、第四區南安、永春の兩縣等が順次之に亞ぐ。以上米作面積は總耕作地面積の七割二分弱を占めてゐる。甘蔗は作付面積十七萬七千畝、產額四百十二萬五千餘擔中、第三區建甌縣の作付面積二萬四千畝、產額五十五萬九千餘擔を首とし、同區建陽縣、第四區南安、仙遊の兩縣、第二區古田縣等が順次之に亞ぐ。

大豆は作付面積百四十萬六千畝、產額百八十八萬八千餘擔中、第五區莆田縣の作付面積二十二萬九千畝、產額二十五萬三千餘擔を首とし、第二區南平縣、第三區建甌縣、第二區古田、永安の兩縣、第七區連城縣等が順次之に亞ぐ。小麦は作付面積三百九十六萬畝、產額五百二十七萬八千餘擔中、第二區永安縣及第三區建甌縣の作付面積各二十二萬八千畝、產額各三十一萬二千餘擔を首とし、第一區寧徳縣、第二區古田縣、第三區浦城、邵武の兩縣、第六區上杭縣等が順次之に亞ぐ。

落花生は主產地少く、作付面積四十一萬二千畝、產額八十萬六千餘擔中、第四區莆田縣の作付面積十一萬四千畝、產額二十一萬五千擔を首とし、第一區平潭、長樂兩縣が順次之に亞ぐ。

各縣主要作物平年作付面積及產額 (面積單位千畝)  
(產額單位千斤)

南平	永泰	閩清	古田	屏南	尤溪	沙縣	永安	將樂	順昌	第三區	浦城	建甌
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	產面積	同	同

一六六九	一〇九二	一〇九二	一〇九二	一〇九二	一〇九二	一〇九二	一〇九二	一〇九二	一〇九二	一〇九二	一〇九二	一〇九二
三三八五	二九八七	二九八七	二九八七	二九八七	二九八七	二九八七	二九八七	二九八七	二九八七	二九八七	二九八七	二九八七
一六〇五	二〇七〇	二〇七〇	二〇七〇	二〇七〇	二〇七〇	二〇七〇	二〇七〇	二〇七〇	二〇七〇	二〇七〇	二〇七〇	二〇七〇
一六六七	一九六九	一九六九	一九六九	一九六九	一九六九	一九六九	一九六九	一九六九	一九六九	一九六九	一九六九	一九六九
一七五〇	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八
一七五五	二六九〇	二六九〇	二六九〇	二六九〇	二六九〇	二六九〇	二六九〇	二六九〇	二六九〇	二六九〇	二六九〇	二六九〇
一七五五	二六九〇	二六九〇	二六九〇	二六九〇	二六九〇	二六九〇	二六九〇	二六九〇	二六九〇	二六九〇	二六九〇	二六九〇
九〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇

一七五

第一區	長樂	閩侯	連江	羅源	福清	平潭	霞浦	寧德	福安	福鼎	第二區
產面積	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	產面積

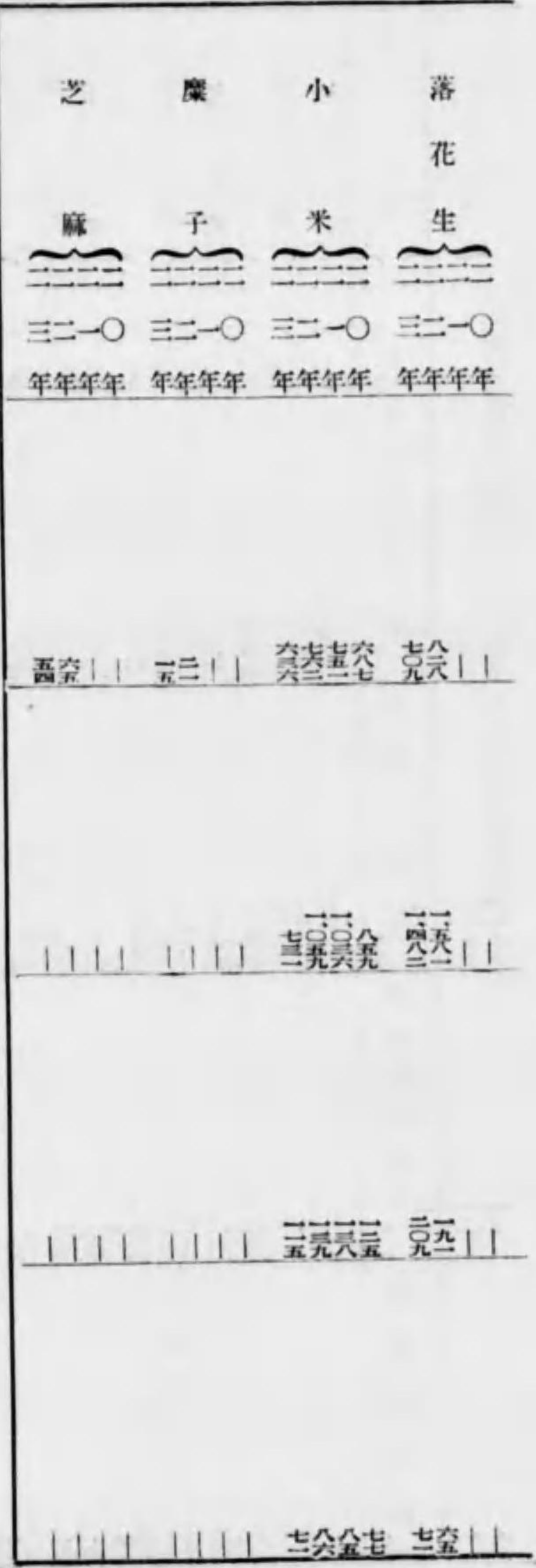
一六七五	五二六九	一〇三三	三二六三	四七〇〇	一四七六	三〇九九	二四〇五	二四〇五	二四〇五	二四〇五	二四〇五	二四〇五
九九七一	八二八〇	一〇〇〇	一五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇
三三〇〇	二六五二	二六五二	二六五二	二六五二	二六五二	二六五二	二六五二	二六五二	二六五二	二六五二	二六五二	二六五二
八〇九〇	七三三六	七三三六	七三三六	七三三六	七三三六	七三三六	七三三六	七三三六	七三三六	七三三六	七三三六	七三三六
八〇九〇	七三三六	七三三六	七三三六	七三三六	七三三六	七三三六	七三三六	七三三六	七三三六	七三三六	七三三六	七三三六
一九二八	一〇二二	一〇二二	一〇二二	一〇二二	一〇二二	一〇二二	一〇二二	一〇二二	一〇二二	一〇二二	一〇二二	一〇二二
一九二八	一〇二二	一〇二二	一〇二二	一〇二二	一〇二二	一〇二二	一〇二二	一〇二二	一〇二二	一〇二二	一〇二二	一〇二二
二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八
二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八
二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八
二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八	二七〇八

一七四









第五項 各縣土地の利用狀況

第一 土地の用途及分割

土地を農場に用ふるは、作物面積を除き、尙ほ農舎、道路、水塘、墳墓、牧場、樹木兼牧場、森林、水面、柴山、可墾荒地等がある。下表に示すが如く、五縣農場總面積中、南平縣は森林多く、全農場面積の八〇・一%、柴山は一八・三%、作物面積は僅かに一・六%を占むるの外、其の他四縣の作物面積は平均して約各農場總面積の九一・四%を占め、

残りの八・六%は其の他の用途である。

農場總面積中各種用途の占むる百分率

縣	別	作物	農舎	道路水塘	墳墓等	牧場	樹木兼牧場	森林	水面	柴山	可墾荒地	總計(不可墾荒地を含まず)
南平	侯	20	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100
南平	平	16	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100
南平	安	83	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100
南平	溪	22	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100
南平	田	93	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100

墳墓は一般人民の迷信に依て占むるので其の面積は特に多く、南平、惠安兩縣の墳墓は大部分可墾の荒地中に在るが、閩侯、龍溪、莆田三縣の墳墓の耕地中に在るものは約三三・七%、可墾の荒地中に在るものは約三〇・四%、不可墾の荒地中に在るものは二二・八%である。

各縣の平均毎農家の耕地内に在る墳墓面積の田場總面積に對する百分率、並に墳墓の耕地中に在つて作物面積を占むる百分率等の分配状態は下表の如くである。

農場面積中墳墓の數目及面積

縣別	平均毎農家耕地内の墳墓數	墳墓の田場總面積に對する百分率	墳墓耕地内の作物面積の百分率	墳墓各面積中占むる所の百分率	
				耕地	可墾の荒地
關南	〇五	〇四	〇三	三九	二九
南平	〇〇	〇〇	〇〇	一〇〇	—
惠安	〇〇	〇〇	〇〇	九六	—
龍溪	〇三	〇四	〇四	三〇	三六
蕭田	二一	二六	二二	五九	三三

田地の分割は零星の各地域に分布してゐる。各農家所有田地塊數も區々である。五縣の平均は毎農家約四・八箇の田地を有し、毎塊は〇・七四ヘクタールであつて、若し坵を以つて計れば則ち七・二坵に當り一坵は十畝、〇・一〇ヘクタールである。

田地と農舎との距離は、農場の工作效率及生産費用等に對する關係が極めて大である。五縣平均に於て田地と農舎との平均距離は一・二軒であつて、所有田地と農舎との平均距離は〇・六軒である。各縣毎田地、田坵の平均大小の情形は下表の如くである。

毎農家田地の塊數、坵數、距離及大小

縣別	田地塊數目	田坵數目	田塊平均距離(軒)	田坵平均距離(軒)	毎田塊の平均大小(ヘクタール)	毎田坵の平均大小(ヘクタール)
關南	四九	七二	一〇	二五	一九	二二
南平	四三	一〇一	一八	二二	九	一
惠安	六九	一〇一	一三	七	五	—
龍溪	四〇	四五	一〇	五	三	—
蕭田	三八	三八	〇四	三	三	—

縣別	農場面積		作物面積		作物(ヘクタール)合計面積	
	平均數	中數	平均數	中數	平均數	中數
關南	〇八六	〇七一	〇八三	〇六九	一六六	一三三
南平	〇六八	〇三三	〇三七	〇三三	〇三七	〇三三
惠安	〇六八	〇四一	〇五七	〇三三	〇五七	〇三三
龍溪	一三三	〇九七	一三〇	〇九四	一八三	一七三
蕭田	〇七七	〇四三	〇四四	〇四〇	〇九五	〇八五

第二 農場面積及作物面積

五縣平均の農場面積、作物面積、及作物總面積の平均數は〇・七四ヘクタール、〇・六四ヘクタール、及一・〇六ヘクタールである。而して其の中數は〇・五七ヘクタール、〇・五四ヘクタール及び〇・九五ヘクタールである。平均數は下表の如く中數に比して概して高いのは大農場が存する爲である。

農場面積作物面積及作物(ヘクタール)合計面積の中數及平均數 (單位ヘクタール)

縣別	農場面積		作物面積		作物(ヘクタール)合計面積	
	平均數	中數	平均數	中數	平均數	中數
關南	〇八六	〇七一	〇八三	〇六九	一六六	一三三
南平	〇六八	〇三三	〇三七	〇三三	〇三七	〇三三
惠安	〇六八	〇四一	〇五七	〇三三	〇五七	〇三三
龍溪	一三三	〇九七	一三〇	〇九四	一八三	一七三
蕭田	〇七七	〇四三	〇四四	〇四〇	〇九五	〇八五

作物面積中各種作物の分配があり、惠安縣大部の面積は甘薯、大麥、落花生等を種植し、南平縣の九七・六%の面積は稻を栽培し、閩侯、龍溪、莆田等三縣は九〇%の面積に早稻、晚稻約作物を栽培してゐる。

各季作物ヘクタール總面積中各種作物占むる所の百分率

縣別	大麥	稻	早稻	晚稻	小麥	穀其他	綠豆	蠶豆	黃豆	白豆	豆其他	落花生	菜子
閩侯	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
南平	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
惠安	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
龍溪	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
莆田	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
總計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

若し上表中の各作物を以て類を按じ合併せば、則ち五縣の各類作物面積に對して占むる所の百分率は、更に明かとな

縣別	馬鈴薯	甘薯	薯	紅蘿蔔	菓品类	蔬菜類	樹類	甘蔗	其他作物	芋	總計
閩侯	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
南平	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
惠安	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
龍溪	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
莆田	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
總計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

るのである。下表中、惠安縣の種子類作物の總面積六六・七%及塊莖類並に根類の三三・三%を除けば、其他四縣に在つては、種子類作物は均しく九〇%内外を占め、就中穀類が特に多い。

各種作物面積各季作物ヘクタール總面積中占むる所の百分率

縣別	種子類作物				塊莖類及根類	水菓	菓蔬	樹木	其他	未詳	總計
	穀類	豆類	油仔類	總計							
閩侯	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
南平	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
惠安	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
龍溪	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
莆田	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
總計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

耕地は一年一回、二回或は三回の三作がある。五縣を綜觀するに、莆田は一年三回作の耕地があるが、南平耕地中には休耕地あり、甚だしきは一年全く收穫なきものがある。閩侯、惠安、龍溪等の三縣には平均一年二回作の耕地がある。

農場の愈々大なるものに至りては、複雑を極むるが、小農場に於ける土地利用の程度は比較的精密で、其の結果土地休耕の機會は自ら比較的少ない。

作物複種指數と田場大小の關係



縣別	田場大小分組の指數					
	小	中	大	小	大	合計
關侯	100	100	100	100	100	100
南平	100	100	100	100	100	100
惠安	100	100	100	100	100	100
龍溪	100	100	100	100	100	100
莆田	100	100	100	100	100	100
平均	100	100	100	100	100	100

第三 作物の産量

土地生産能力の高低も亦土地利用程度を測定する重要な標準の一である。稻の生産に在つては、南平縣では毎ヘクタール三、五二九疔、惠安縣は三、五八三疔の産量である。山芋の如きは南平を除くの外は、最高産量は莆田で毎ヘクタール二〇、七九八疔、最低は龍溪で毎ヘクタール僅かに一、九八六疔、閩侯、惠安では、毎ヘクタール約一六、〇〇〇疔前後の産量である。

作物生産は固より主要産品を掲ぐるもので、大部分の副産物は燃料、飼料及家内工業等の用途に係るに因つて、農家に對して實に重大な關係がある。五縣副産物毎ヘクタールの通常産量情態は下表の如くである。

各種主要作物副産品毎ヘクタールの通常産量 (單位百疔)

縣別	穀類						豆類		油子類	塊根類
	稻	草	大麥	小麥	黃豆	蠶豆	落花生	甘薯		
關侯	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
南平	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
惠安	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
龍溪	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
莆田	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
平均	100	100	100	100	100	100	100	100	100	

作物産量は各年豊凶不同である。下表の如くに五縣平均に於て年實際の平均産量は通常産量に比して五・二%多く、豊年産量は通常産量に比して一八・五%多く、而して最高産量は通常産量に比して三一・八%多い。

作物指數の平均産量、豊年産量、最高産量及通常産量の比較

縣別	通常産量の作物指數を100とす	
	平均産量	最高産量
關侯	100	100
南平	100	100
惠安	100	100
龍溪	100	100
莆田	100	100
平均	100	100



各労働者等数（即ち一人常年全副労働の農場に在つて工作する者を一労働者等数とし、或は工作時期の合計が十二箇月或は三百六十五日に等しきものを一労働者等数とする）の生産量を以て計算し、五縣を綜覽するも、亦閩侯を最高とする。毎労働者数の平均産量は約三、四八九・六疔、最低は惠安で、僅かに五二七・七疔である。而して塊根類作物は又惠安が最高で、毎労働者等数の平均生産量は約一、九九八・九疔、最低は南平で僅かに三四・六疔である。是れ労働者の勤惰から直接影響を受くるが、土壤の肥沃及農耕適地も亦正比例の關係を有する。蔬菜類の如き、五縣平均の毎労働者等数は七二・六疔である。

毎工人等数の平均生産量（疔）

縣別	穀類作物	塊根類作物	蔬菜類	水菓類	其他
閩侯	三、四九六	四、二二一	三、三二一	一、六九二	二、六四
南平	二、九七八	三、四六	二、八六六	—	—
惠安	五、七七七	一、九九九	一、〇〇五	—	—
龍溪	二、〇九九	一、八〇〇	二、七一一	—	—
莆田	一、三七八	一、〇六八	四、八	—	—

第四 肥料

五縣の平均に於て毎作物ヘクタールの産出する人畜糞數量は、中小農場（大中小別は畝数を單位とす）を最多と爲し、

約九、〇九一ヘクタールある。蓋し農場大なれば家畜數量亦多かるべきも、作物耕作面積と家畜數量の比例に就いて言へば、小農場に於ける毎作物面積の家畜數量が及つて高率を示して居る。小農場に於ける毎作物面積の家畜數量が既に大農場に比し多いたらば、其の家畜の生産する肥料も、若し毎作物面積を以て計算すれば、自然小農場の方が多くなるわけである。五縣中大小農場に於ける毎作物面積より産出する肥料平均數量は次表の如くである。

大小各農場産出の人畜糞數量

縣別	每作物公項産出の人畜糞數量（公斤）							所有家畜の平均數	
	小	中	小	中	大	大	最大		
閩侯	—	—	四、五〇四	二、八〇一	二、二〇〇	二、四四四	三、〇九七	一、六四三	一、一四一
南平	—	—	二、五七七	一、五七三	—	五、三〇〇	八、四〇六	—	一、〇六五
惠安	—	—	三、二八七	一、五七三	—	七、〇一八	四、八七七	—	六、九六
龍溪	—	—	三、五〇五	三、六一	—	四、〇六	一、九三	—	六、九六
莆田	五、五七	七、四九三	—	六、一〇三	五、七〇七	五、九三	—	—	六、〇〇三

第五 工人及工作

土地利用と農場内の勞工供給とは密接な關係を有して居る。農場大過ぎれば常に勞力不足を感じ、其の結果耕作粗放或は工賃過大を來し、却つて不經濟になる。之に反し農場小過ぎれば常に勞力の需要少く、其の結果多くの閑暇を生じ、工人の能率却つて低減さる。左表は五縣農場の大小に依つて之を八級に區別し、其の各級農場に於ける男工一人の

閑暇月数を示すものである。

大小各級農場男工一人の閑暇平均月数

農場級別	閩					南					惠					龍					莆				
	小	中	小	中	大	小	中	小	中	大	小	中	小	中	大	小	中	小	中	大	小	中	小	中	大
小	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
中	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
大	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
最大	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
特大	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
最大	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
特大	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

農閑時期に關しては其の時期の長短に留意すべきのみならず、閑暇の季節には特に注意を拂はねばならぬ。次表を綜観すれば五縣農民の閑暇季節は大概冬春の頃で、若し此の時期を善く利用し、壯丁の訓練を勵行すれば、農時を誤らずして兵を農に寓する効果が收められる。

農閑時期の毎月分配百分率

月別	閩					南					惠					龍					莆				
	一月	二月	三月	四月	五月	一月	二月	三月	四月	五月	一月	二月	三月	四月	五月	一月	二月	三月	四月	五月	一月	二月	三月	四月	五月
一月	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
二月	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
三月	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
四月	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
五月	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
六月	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
七月	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
八月	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
九月	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
十月	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
十一月	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
十二月	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
總計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

縣別	閩					南					惠					龍					莆				
	侯	平	安	溪	田	侯	平	安	溪	田	侯	平	安	溪	田	侯	平	安	溪	田	侯	平	安	溪	田
男工	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250
女工	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
童工	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
備農	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
精農	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
工業	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
商業	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
軍界	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
政界	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
學界	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
職業	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
苦力	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
其他	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
農中	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
他中	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
總收	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000

五縣農民は農場工作に従事する外、多數成年男工は平均一工人等数の半分即ち一人に付半年の時期を其他の工作に従事し、其の工作部門の内譯表は次の通りである。農場總收入中農場工作以外の收入百分比率も同表記載の如く南平が最も多く、四三%を占めて居り、同縣農民にして精農工作に従事する者割合に多きが爲である。次は惠安縣百分の一五%、最少が莆田縣の百分の一である。同縣農民は商界に服務する者僅か二・一%に過ぎざる故に收入も亦少いのである。

農場以外の雑工及其收入表

縣別	閩					南					惠					龍					莆				
	侯	平	安	溪	田	侯	平	安	溪	田	侯	平	安	溪	田	侯	平	安	溪	田	侯	平	安	溪	田
男工	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250
女工	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
童工	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
備農	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
精農	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
工業	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
商業	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
軍界	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
政界	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
學界	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
職業	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
苦力	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
其他	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100							

工人等數と農場大小との關係

縣別	農場別	農場大小を以て區別する各級農場の工人等數									
		小	中	小	中	中	大	大	較	大	均
南	平	一三	一七	一七	一九	二四	二四	三三	三三	一〇	二二
關	安	一	二	二	一六	二四	二七	二四	二二	二〇	二二
惠	侯	一	一	一	一六	二四	二七	二四	二二	二〇	二二
南	平	一	一	一	一六	二四	二七	二四	二二	二〇	二二
關	侯	一	一	一	一六	二四	二七	二四	二二	二〇	二二
縣	別	均	均	均	均	均	均	均	均	均	均

次に農家人口の多少と農場面積の大小とは、實に密接な關係がある。蓋し一般農民は大抵其の能力及經驗を基準と爲し、而して其の經營に最適なる農場面積を決定して居る。五縣を綜觀するに左表の如く、人口四人前後ある農家は、中小或は中等農場の、五人前後の家庭は中大、七人前後は較大農場の經營に適合して居る。

家庭大小と農場大小との關係

縣別	農家々庭の大小	農場大小と農家々庭の大小(一家の人口)									
		最小農場	中小農場	中等農場	中大農場	較大農場	最大農場	極大農場	特大農場	所有家數の平均人口	均
南	平	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
關	侯	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
縣	別	均	均	均	均	均	均	均	均	均	均

附表一、農場大小の區別標準(單位畝)

縣別	農場別	小	中	小	中	中	大	大	較	大	最	大	極	大
惠	安	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
龍	溪	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
南	田	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

附表二、各種農家數調査

縣別	農場別	調査した大小各農場に於ける農家の家數										調査の期日		
		小	中	小	中	中	大	大	較	大	均			
南	平	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
關	侯	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
縣	別	均	均	均	均	均	均	均	均	均	均	均	均	均

惠安	龍溪	莆田
五	三	三
三	五	七
四	三	三
三	七	五
四	一	
三		
二〇	九	九
自一九〇〇年一月	自一九〇〇年二月	自一九〇〇年七月
至一九〇〇年三月	至一九〇〇年一月	至一九〇〇年七月
		至一九〇〇年四月

要するに南平縣は唯一の森林地帯で之を良く養護するに於ては林木は繁殖し、水旱兩災も未然に防止することが出来る。惠安縣は甘薯、大麥、落花生等の栽植に適し、閩侯、龍溪、莆田三縣は早稻、晚稻の耕作に適し、培植法宜しきを得れば必ず充分の産量が期せられる。墳墓は土地利用上一大障礙物で南平、惠安兩縣墳墓の大部分は、皆開墾價値のある荒地で、農民は徒らに損失を蒙つて居る。近來省政府は各縣市に共同墓地の創設に就き指示して居るが、若し各地散布の墳墓を悉く開墾價値のなき不毛地に移轉し得れば、土地利用上寔に機宜の處置であり、亦農村救済の良策と謂ふべきである(福建省統計時報第二卷第七期及第八期)。

第六項 重要農産物

第一 米

米は福建の重要食糧品なれど、其の産地は主として福州、連江、邵武、漳州等一帶の比較的平原地とし、北部三郡地方及沿岸地の礫礫で米の産出を見ない地方に在つては甘薯を常食とする。近年稻米産額は四、五千萬擔に達するも、年の豊凶に依つて著しき變動があり、自給に不足し年々之を内外の移輸入に俟ち、其の數量は少くも五、六十萬擔、多きは

三百萬擔内外に達する狀況であるから、之が改良増殖を計るは重要な事項である。

米の耕作は閩侯縣等福州附近の諸地方及従來の泉漳二府下の諸縣に多く、二毛作であり、早稻は舊曆三、四月の交に挿秧し、六、七月頃に收穫し、晚稻は九月に植付け、十二月に刈取るを常とする。然れども早稻の發育中に其の空間を利用して晚稻を下苗し、十月頃收穫するものがある。邵武、汀州諸地方は概して一毛作であり、米を收穫する前後に芋、又は甘薯、其の他の副産物を栽培するを常とする。又春季より秋季に互り二期の米を穫る外に、田に依つては冬季蔬菜を作り、都合三毛作をする所もある。

水田の灌溉は龍骨車で揚水するが、近來は石油發動機、又は電氣モーターを以て揚水し、好成績を擧げてゐる處もある。米の種類には梗(俗に杭)、糯(俗に秣)及占があり、梗を除くの外は皆二毛作である。梗は一毛作であるから價も最も高く、福建では粘氣が多い爲に飯にしては食はず、病人が食するか、餅に搗いて白粿として食する。福州附近では北嶺、北門附近に産する。在留邦人は日本米と少しも異なる所がないので、高價なるも之を常食とする。糯は製酒用に供し、又は製粉して年末の糰粿、端午の粽、冬至の陽丸等種々の餅を作るに用ふる。

占は一般人民の常食米であり、粘氣少く煮て粥飯とする。古記録(湘山野錄)に依れば、九百餘年前宋代に安南の南方より種子を取り寄せて播植したものであるから之を占城稻と稱すると。其の種類には紅白の別があり、又早熟、晚熟の別がある。早稻は又早占城、烏洋、赤城、聖林、清甜、半冬の六種に分れ、烏洋が最も優る。晚稻は晚占城、白粳、金黍、冷水香、楠倉、奈肥、黃倭、銀城、黃香、銀朱の十種に分れ、白粳、冷水香が最も佳である。早種は粥を作り、晚

種は飯を炊くに適する。晚占の良質のものを黄占と名づけ、従来福清縣に産し、占種中最高の地位に在り、又古田、永安、永春諸縣に産するものも純白で、光澤、粘力共に日本米に似てゐる。其の他多くの地方に産するものは品質概して不良で、所謂南京米に一括せらる種類である。殊に連城、德化兩縣には紅米多く、當地農民及労働者は之を常食とする。

以上三種の外に畚稻(岡穂)があり。福州附近では之を晏稜、漳州では香稻、汀州では香禾と云ふが、俗に之を畚稻と稱するのは、畚民の植ふる稻の義である。水なき産地に作り、二、三年にして處を易へて耕種する。

米價は處に依り時に依り區々であるが、梗を首位とし、糯、黄占、紅米等が順次之に亞ぐ。約十年前に於ける福州市場の値段は梗一石十四弗五十仙、糯は十二弗六十仙、黄占は十一弗二十仙、紅米は九弗五十仙であり、普通の米は黄占と紅米の間に位する。最近福州に於ける月平均一石の小賣相場を擧ぐれば下表の如くである。

福州市場月平均石當小賣價格表

井北尖 長樂尖 邵武溪尖 本洋碎(碎米)	民國二十四年六月		同二十五年六月
	城內	南臺	
	一〇・八元	一〇・七元	一〇・七元
	一〇・八元	一〇・六元	一〇・六元
	一〇・三元	一〇・一元	一〇・五元
	六・四元	六・六元	六・二元

嶺北(糯)

一二・四

一一・九

一一・六

(福建省統計月刊第一卷第一期、第三卷第二期)

本省の産米は食用に不足するので、年々多額の米を外省より仰ぐの外に、又香港、印度、支那、暹羅等より輸入する。移輸入額は近年概して増進を示したが、年の豊凶其の他事情に依つて異同著しく、一八九九年には百三十七萬擔、一九〇二年は百六十一萬擔、一九〇三年は百九十二萬擔(外米百十八萬擔を占む)に達し、其の後減退し、三、四十萬擔乃至八、九十萬擔に在り、一九二五年以降三箇年及一九三二年以降は又百萬擔を越え、一九三三年は三百二十九萬四千餘擔(輸入八九〇、五九九擔移入二、四〇三、四四〇擔)、價額二千百十四萬餘元(輸入五、二二四、三五八元)に達した。

一九三四年以降最近三箇年間の輸移入貿易を見るに、左表の如くに一九三四年は前年に比し減退しても、尙ほ二百八十九萬餘擔、價額一千九百萬を占めたが、一九三六年は盛時に比し、數量は約七分の一、價額は十分の一以下に激減した。

福建省最近三箇年輸移入米穀統計 (單位市擔同千元)

年次	外國よりの輸入			内國よりの移入		總計
	三都澳	福州	廈門	小計	三都澳	
一九三四年	數量(市擔) 二〇九、一一一	價額(千元) 二、五五三、三三三	數量(市擔) 一、六九四、四四四	價額(千元) 一、二二二、二二二	數量(市擔) 一、九〇三、五五五	價額(千元) 三、七七五、五五五
一九三五年	數量(市擔) 二〇九、一一一	價額(千元) 二、五五三、三三三	數量(市擔) 一、六九四、四四四	價額(千元) 一、二二二、二二二	數量(市擔) 一、九〇三、五五五	價額(千元) 三、七七五、五五五
一九三六年	數量(市擔) 二〇九、一一一	價額(千元) 二、五五三、三三三	數量(市擔) 一、六九四、四四四	價額(千元) 一、二二二、二二二	數量(市擔) 一、九〇三、五五五	價額(千元) 三、七七五、五五五

米穀の移出は一九三六年には、四萬九千餘擔、價額五十二萬九千餘元を占めた (C. M. C. The Trade of China, Vol. 1, 1936, 福建省統計月刊第三卷、期三)。

第二 蔬 菜

一 笋 (筍)

本省は竹の産出多く、従つて笋の生産は全國に冠たり、土人は之を食用に供するの外に、干笋として上海方面に移出する。笋の種類は産出期に依つて區別すれば、春笋と冬笋とあり、春笋は其の産出多きも質粗で味佳ならず、冬笋は之に反し産出少きも、建寧縣下南雅口及峽陽地方に産し、頗る味美で殊に玉蘭片と稱せらるゝものは内外人に賞賛される。春笋は香港地方に、冬笋は上海地方に需要が多い。産地及需要地別に依れば、沙笋及衡庄笋に別れ、沙笋は沙縣及永安地方に産し、方簍と圓簍とあり、衡庄笋は拿口地方に産するもので、湖南衡州地方に供給するので此の名がある。殊に沙縣及永安地方は有名な笋の産地で、同地方に産するものは之を湖尖片と稱し、其の上等なものは更に之を上尖、上湖及上片の三種に分ち、其の稍下等なものに至つては單に之を尖湖片と稱する。其他品質に依つて別れば標筍、項尖筍等があり、輸出品は乾笋とし、其の製法に依つて之を烏笋、白笋、笋糸又は牙笋と稱し、牙笋を最上等とし、白笋之に亞ぎ、烏笋を下等とする。

現今の産出地方は閩江上流の南平縣、建陽縣等に多く、冬笋は北支にも移出する。製法は四、五月の候筍の發生する時に之を掘り取り、鍋釜に入れ蒸し、更に取り出し、日光に晒すこと二、三日後、再び鍋に入れて煮る。其の製したも

のは水分を含むことなく、乾燥するので年を経て腐敗することはない。斯く製した干笋は之を食用に供せんとするとき水中に浸し、柔軟となるを待ち、之を刻み煮て食膳に供する。干笋は支那料理としては上等のものではないが、藝菜の一として冬季他の蔬菜が缺乏した時に使用する。殊に冬季に之を食するは世人の珍重する所であり、其の需要も多い。

地方仕出の干笋の集散地は福州であり、福州の外厦門より又移出するが、汕頭經由で仕出すものもある。仕向先は上海を主とするが、香港其の他の海外にも若干輸出する。笋の輸移出額は一九三一年には八萬五千擔、價額百四十二萬餘元に達し、其の後は左表の如く、一九三三、四年は二百萬元を越えたが、一九三五年は再び減退した。

一九三三年	二、二六九千元	一九三四年	二、二五六千元
一九三五年	一、四八二千元 (外國一、二〇二千元)		

二 蕈 (茸)

蕈は筍と共に本省蔬菜品の双璧であり、就中椎茸を主とし、本省西北部の山林中に多く之を産する。蕈は支那料理には珍品として賞味されてゐる。但し蕈丈けでは料理用に供せず、他の食料と共に調理する。殊に肉類の料理には缺くことの出来ない味付であると同時に、蕈自體も亦一層其の甘味を増すものである。蕈は枯木の幹又は腐敗した材木に野生するか、又は人工的に培養するのである。

(一) 野生種

野生種には有毒のものがあるが、食用に供し得るものには數種あり、例へば雷公菰、松花菌、紅菰等の如きものである。



雷公菰は春季福州附近の山地に産し、松花菰は松樹より落下した葇果に産する。而して紅菰は本省の特産に屬し、閩清、永安、沙縣、洋口、歸化、將樂、建寧等西北部に産する。就中閩清産は品質最も優り、刈り集める期間は七月初から九月初迄の二ヶ月である。其の間に降雨があれば有るほど肉厚く大型で水分を含み、香味が佳良であるが、乾燥又は過分の場合は量質共に低下する。紅菰は香菰（推茸）の暗黒色であるに反して、紅色を帯び稍大型であり、價格は香菰と同じく割高で、一斤四十仙乃至五十仙であるが、漸次聲價を高めてゐる。上記各縣よりの産出は氣候に左右せられ、大概五百斤乃至一千斤位であり、莆田、仙遊、各縣が主なる消費地である。

紅菰は香菰同様に又薬用として使用し、病人の血液を新鮮に化する效能ありと信ぜられ、特に陣疾に苦しむ婦人に對して推奨されてゐる。

## (二) 培 養 種

培養種には香菰（推茸）を首とし、其他冬菰、春菰、菊花菰の三種がある。本省産の香菰は食用茸の中で最も著名のものであり、之は培養が甚だ困難であり、浙江人の特殊技能に俟つのである。即ち福建人が場處を提供し、浙江人が専門に之を培養するのである。浙江人は龍泉、慶元及景寧三縣の出身者であり、其の培養は祖先傳來の秘訣である爲に殆んど其の獨占業と謂ふべきである。彼等の毎年香菰の産出期に本省に入り込むものは甚だ多い。

以前福州に多量に輸入される日本産の推茸との競争があり、香菰の値段は八十仙許の低價に取引されたが、排日貨運動起り、後には若干高値を示した。又品質に於て日本品に比して風味も長ずる故に、日本品は自然に淘汰された傾向

に在つた。一時香菰の市價は一斤一弗八十仙を唱へたこともある。主なる消費地は香港であるが、一九二五年の排英事件當時は香港仕向が杜絶したことがあり、又上海市場に於ても江蘇、浙江兩派間に確執があり、一時市價一斤三十仙に暴落したこともある。然し其の後恢復し、一九二八九年頃に上等品一斤三弗、中等品二弗、下等品一弗を唱へたのである。

推茸は低地では二年、高地では三年で成熟するが、年々成熟したものを收穫することが出来る。收穫期間が十月から翌年四月迄の六箇月中第一回の收穫のものを冬菰と云ひ、上海に於ける廣東料理店では之を珍味としてゐる。春季に收穫するものは春菰と云ひ、四月末に至れば其の成長を見ない。香菰中で最も珍重せらるゝものは菊花菰と云ひ、盛冬中に成長するもので、霜夜繼續し、且つ快晴の候になると、菊花菰は肉厚く水分を多量に含み、片々に切れて斑點が付き、恰も菊花の如き觀を呈するので、其の名を得たのである。本種は香味絶佳で口觸りが良い。本省は此の種菰の生産に適する様に霜夜快天の久しき天候に恵まれてゐる。

菰の培養法を見るに、杉、樟等を除けば、本省山地の如何なる樹幹にも之を培養することが出来る。特に白檀の樹幹に培養せられたものは味最も佳く、場所は山腹又は比較的低地が好適である。高地では香菰は *Paddy cutia* 屬の樹木—普通には同屬の赤皮又は白皮の樹木に依つて培養せられるが、勿論他屬の樹木にも培養せられ得る。

之が培養には若木を使ふのであるが、先づ樹木を伐り倒し枝を拂ひ、樹皮はその儘に置き、樹皮の上に適當な間隔を置いて刻み込む。樹皮の厚さに従つて深く刻み込み、其の刻み目に菰が培養せらるのであるが、之が刻み方は専門家で

なくば、培養に適する様に出来ない。

生薑の風味は絶佳であるが、産地に住する者に限り之を賞味し得る。普通は火で乾燥したものを食するが、火で焙つた方が薑本来の味を損じない爲に、多く此の方法を採るのである。

本省北部の香菰生産量は年額二十萬斤、價額は約五十萬元と評價され、大部は上海、香港に積出され、生産地で消費されるものは僅かに一、二割に過ぎない。

薑の輸出は海關統計に依れば從來年額五十萬海關兩に止り、其中九割迄は香港に於て需要され、他は馬來半島の華僑に消費される。其他朝鮮、佛領印度支那、蘭領印度、新嘉坡、比律賓等にも若干の輸出を見る。内國消費に關しては上海、漢口を中心として、年額十五萬元乃至二十萬元に達するが、戎克に依つて移出するものが相當あるものと想像せらる。支那全國の中で薑の仕出は福州が第一位を占め、年額平均約四十萬元に上り、九江、天津が之に亞ぎ、年額各平均二十萬元である。天津仕出の薑は之を蘆菰と稱し、灰白色で、戈壁沙漠の動物の遺骨に野生するものと云ふ (Chinese Economic Journal, vol. V, Sept. 1929, No. 3, pp. 750-53)。

福建省貿易統計書に依れば、香菰の輸移出額は一九二一年より激増し、一九三二年は五千九百四十四擔、價額九十四萬四千餘元に、一九三三年は最高七千二百四十擔、價額一百萬元を越えたが、其の後は激減して一九三四年は五十四萬元に下り、一九三五年は四十二萬元で、蔬菜類總額の二割九分に止り、一九三六年の海關統計に依れば、移出のみで七千六百四十四擔、價額五十三萬元に達してゐる。

### 三 其の他の蔬菜類

其の他の蔬菜類は大頭菜(蕪菁)、黑木耳、蒜頭、金針菜、生薑、乾胡椒、馬鈴薯其の他を含み、一九三二年の移輸出額は十七萬三千餘元を占めてゐる。

### 第三 果 物

#### 一 柑 橘

近年支那全國柑橘の年生産額約一千五百萬元に對し、輸入高は約五百萬元を占め、之等は米國輸入の甜橙、檸檬及葡萄柚と日本輸入の温州蜜柑等である。福建は支那南部に位し、氣候溫和であり、閩北は耐寒性の橘類及紅橘類を産し、閩南は高溫に適する柚(文旦)、柑、蕉柑、甜橙及檸檬等を産する。年産額は約二百萬元(漳州約百萬元、浦南)とし、廣東省の約六百二十萬元には遙かに及ばないが、浙江省の約百五十萬元に比すれば多い。種類別産額は漳州は盧柑九割、紅橘及桶柑各五分、浦南は柚九割、紅橘及桶柑各五分、福州は全部福橘(紅橘)である。

福建省の農家は耕地面積十畝(一畝は我約百八十坪)未滿のものが半數以上を占むるが如くに、小農に屬するので、農業經營方式は集約農法に依る。之は小面積内に多く資本を投じ、多くの勞力を使用し、収入を増加すべきものなるが故に、本省に於て、柑橘を栽培するは最も合理的である。中央農業實驗所農情報告に依れば、本省の農家で果樹栽培を主業とする者は閩侯、永泰、漳浦、莆田等は約八割を占め、之を副業とする者は二割乃至八割を占めてゐるので、本業が重要な地位に在ることが知られる。



之等各種柑橘の種類及品種の解説を下に掲ぐ。

紅橘 一名福橘と名づけ、福州に産するものは塘棲産の綠橘、温州産の漳橘等と同一品種である。福州の南港及郊外義嶼、盤嶼、其の他から特に多く生産せられ、最上品を産するは澤苗郷で、螺江郷が之に亞ぎ、兩地から年々各數千擔を産する。一九二七、八年頃全省の年産額は二十五萬擔で約百萬元の價額ありと評價された。福橘の特色は樹は半圓形で枝が疎生し、倒折し易く、節間は長く、葉は楕圓形で兩端は尖り、翼葉は細長である。果實は扁圓形を呈し、縦徑四・五二種、横徑六・六五種、果重一〇四瓦あり、先端は凹入し、基部稍尖り、肋起がある。果梗は細く綠色、萼は小で綠色を呈し、果面は光澤あり、朱紅色を帯び、油胞密生し、多く果面に在り、平生或は凸出し、凹入するものは甚だ少い。果皮は剥け易く厚〇・五乃至一・〇耗で甚だ薄くして脆く、佳良の香氣がある。囊囊は九乃至十一瓣で腎臟形をし、心皮薄く、果心は大で空洞を成し、果肉は橙黄色を呈し、甘くして僅に酸味あり、品質は中等で種子多く、十六乃至十九粒あり、小にして卵形を成し、先端に長嘴形突起あり、子葉は綠色、内種皮は紫褐色を帯び、多胚性である。果實は十二月初旬に成熟する。

各産地の紅橘果實を比較すれば左の如くである。

産地	重量(瓦)	大	小(種)	果皮厚(種)	囊囊數	種子數
浙江塘棲	五三		四三三×四八九	〇・三		八

産地	重量(瓦)	大	小(種)	果皮厚(種)	囊囊數	種子數
浙江温州	八三		四〇〇×六〇四	〇・五		三
福建螺州	一〇四		四三三×六六五	〇・七		二
福建漳州	一三三		五二〇×六五五	〇・三		三

上表の紅橘は南部産が優り、重量大で品質佳良である。

福建紅橘の優劣を擧ぐれば、優點としては成熟時期が年末に當り、贈答用の需要が多く、大小適種あり、果皮、果肉の色澤は美麗、剥皮は容易であり、液汁は豊富で甘酸調和し、囊皮(内實の皮)薄く、溶化容易である。劣點としては果心甚だ大きく、大なるものは果實直徑の三分の一以上を占め、種子甚だ多く(多きは三、四十粒ある)、皮寬にして貯藏に堪へざるに在る。之が缺點は品種を選択し改良すべく、品種として果心及種が小で、皮緊り貯藏に耐ゆるものを選出し、之を改良するを可とする。

有柑 潮州で有柑と云ふが、漳州では之を盧柑と名づけ、其の他臺灣では種柑、汕頭では蜜糖柑、上海では汕頭蜜柑等と稱するのである。有柑は *Mokan* と讀み廣東特殊の字であり、寬皮空心の意である。本種は潮州柑橘中の白眉であり、品質優良にして他種は之に比肩し得ない。漳州に在るものは潮州より傳來したものであり、臺灣では種柑として之が改良に努めて産額も増加してゐる。

品種の特徴を述べれば、樹は直立し枝長く、節間も亦長く、葉は楕圓形で兩端が鈍角を爲し、葉縁に波形の缺刻があ

り、翼葉は細長である。果實は大で扁圓形を呈し、先端は凹入し、果皮は粗糙で橙黄色を帯び、油胞は圓形で小さく密生し、多數凸出し、頂端に凹點がある。果皮は剥ぎ易く、厚は〇・二六五種、翼葉は九瓣で、大で腎臟形を呈し、果肉は橙黄色で汁胞は紡錘形を爲し、短く膨大である。果汁は橙黄色で多く、味は甜で僅かに酸味を帯び、微しく香氣がある。品質の優點は寬皮橘中の冠冕である。種子は小で卵形を成し、子葉は綠色で内種は紫色を呈し、單胚である。果實は十二月中に成熟する。

漳州の盧柑を細別すれば硬盧柑、膨盧柑及八掛盧柑があり、硬盧柑は堅皮で果心小、果實は長圓形を成し、品質は優良であり、膨盧柑は寬皮で果心小、果實は扁圓形を成し、八掛盧柑は實は扁圓形で果皮に肋紋があり、佛手柑の如くである。此の三種中では硬盧柑の栽培が最も多く、將來甚だ有望である。

蕉柑 漳州、臺灣では之を桶柑と名づけ、漳州では又之を西螺柑と云ふ。西螺は龍溪の地名である。上海地方では之を暹羅柑と云ふが、恐らくは西螺柑の音譯であつて、暹羅より輸入したものではない。蕉柑は潮州名であるが、或は招柑の音寫である。潮州の年産額は約三百萬元に達する。

品種の特徴を述べれば、樹は半圓形で突出した長枝があり、細枝密生して刺なく、節間は短く、葉は楕圓形で兩端尖り、翼葉は狭長である。果實は普通圓形或は扁圓形を成し、其の他蒂高型、粗皮型等があり、普通縦徑四・四〇種、横徑五・三三種、果重八〇瓦あり、先端は圓形で、基部は圓くして稍肋起あり、果梗は纖細で綠色、萼は小で亦綠色を呈し、萼片は五瓣を有し、尖形を成し、果面は平滑で光澤があり、濃橙黄色を呈し、油胞は點數多く圓形で、細小であり、

多數凸生し、小數は凹點である。果皮は剥ぎ易く、厚さ〇・二二五種、柔軟で香氣がある。橘絡は柔く、黄白色を呈し、翼葉は十瓣あり、腎臟形を成す。心皮は甚だ薄く、橙黄色を帯び、果心は小で充實し、果肉は橙紅色を呈し、汁胞は紡錘形を成し細小である。果汁は濃橙黄色で、味は多く甘である。品質は優良で且つ貯藏性に富み、七箇月にも至る。種子は甚だ少く、普通一、二粒に止り、亦無核果實もある。形は小で卵形を成し、種皮は黄白色、子葉は白色或は淡綠色であり、内種皮は紫色を呈し、多胚性である。果實は一、二月中に成熟し、橘橘中の晩熟種である。本品種の果型は圓形、扁圓形等であり、果皮には粗皮、光皮等あり、果梗部或は果頂部は突出してゐるものがある。注意して選擇し、分別淘汰すべきである。

雪柑 潮州では之を雪柑と云ひ、漳州、福州にも産するが、漳州では之を印柑と稱し、福州では古山洲に産するので、之を古山柑と名づける。古山洲の産するものは雪柑の一種に止らず、尙ほ廣東の香水橙等もある。古山洲の黄柑と廣東の香水橙とは同一物である。黄柑は長江流域の橘橘産地で用ゆる所の古名であり、唐詩中にも載つてゐる。支那に於て橙字を用ひざる處では、之を呼んで黄柑と爲す。蓋し橙字は古へ振に作り、印度の *Naranga* の音譯である。上海の俗稱では廣柑と云ふが廣東産であるからである。

品種の特徴を述べれば、樹は叢生し、突生の長枝があり、枝には短刺あり、葉は大で先端尖り、翼葉は稍大で鋸齒はない。果實は圓形、或は長圓形であり、縦徑六・八七五種、横徑六・七七五種、果重二一五瓦あり、兩端が圓い。果梗は粗で綠色を呈し、萼片は五瓣を有し、鈍角形で綠色を帯び、果皮は平滑で橙黄色を呈し、油胞は小圓形で平生或は凸

出し、果皮は剥ぎ難く、厚さ〇・六釐ある。瓢囊は十瓣を有し、腎臓形を成し、心皮は薄く黄白色であり、果心は小で充實し、汁胞は紡錘形を成して長く、果汁は橙黄色を呈し、甘味豊富で品質は優良である。果實は一、二月中に成熟し、種子がない。

古山柑は雪柑と類似するが、果實は圓形であり、縦徑六・〇五釐、横徑六・一九五釐、果重一五八瓦あり、果梗は細く綠色を呈し、萼片は五瓣を有し、尖形で綠色を呈し、果面は橙黄色を呈し、平滑で光澤があり、油胞は點細で平生し、果皮は薄く緊著し、瓣囊は厚さ〇・五釐とし、内層は淡黄色で柔軟である。橘絡は白色を呈し、瓢囊は十二瓣あり弓形をなし、囊皮は薄く、柔軟で無色である。果心は小で充實し、肉色は濃橙黄色を呈し、汁囊は紡錘形で長く、果汁は淡黄色で甘酸宜しきを得、品質は中の上に屬する。種子は二十粒あり、卵圓形を成し多胚性である。果實は十二月より一月に成熟する。

黄柑は古山柑同様に福州古山洲に産し、品種の特徴は樹冠は半圓形を成し、枝は張性を有し、葉は大で楕圓形を成し、翼葉は小で狭長である。果實は圓形或は長圓形であり、縦徑六・二釐、横徑六・五釐、果重一七〇乃至三九〇瓦あり、先端は圓形、基部は圓形で稍凹入し、或は肋紋がある。果梗は粗綠色を呈し、萼片は五瓣あり、尖端は鈍角で綠色である。果皮は平滑で光澤があり、濃橙黄色を呈し、油胞は點細で圓形を成し凹點があり、果皮は剥ぎ難く、皮厚は〇・六乃至〇・二五釐あり、柔軟で橘絡は少い。瓢囊は九乃至十一瓣あり、腎臓形を成し、瓢皮は薄く柔軟であり、果心は小で充實し、果肉は橙黄色である。肉質は溶け易く、味は甘で品質は優良である。種子は一乃至二、三粒ありて卵形を呈し、先端

に短嘴狀の突起があり、子葉は白色で多胚性である。十二月下旬に成熟する。

柚(文旦) 漳州浦南産の柚は著名であり、文旦柚、平山柚、六月柚等品種が甚だ多い。該地東方は著名の産地である。漳州文旦の年産額は平均約百萬箇、價額約二十五萬弗であり、龍溪も約三十萬箇、價額六萬弗としてゐる。(Chinese Economic Journal Oct, 1931)

文旦柚を上海で俗に文旦と呼ぶ。文旦は人名であり、其の栽培者の名より出たものである。而して文旦は品種名であり、種類名ではない。閩産錄異を閲するに「入貢するものは皆漳産の文旦とす。文旦は小旦文姓の種をたるものにして、長泰縣溪東に在つては四、五十樹に過ぎず」とある。品種の特徴を述べれば、果實は扁圓形を成し、基部は稍尖り、縦徑一〇・五釐、横徑一一・三釐、果重七三五瓦あり、果皮は黄色で、油胞點は多く圓形で凸出し、果皮は厚さ一・一釐あり、瓢囊は十八瓣で腎臓形を成し、心皮は厚く強韌である。果肉は淡黄色で、汁胞は長き紡錘形をなし、種子は楔形で、約八十粒あり、子葉は白色で單胚である。九月中旬に成熟する。

坪山柚は漳州浦南の産であり、品種の特徴は果實は倒卵形を呈し、果皮は平滑で黄色を呈し、縦徑一六釐、横徑一六・八三釐、果重八〇〇瓦あり、油胞は大で凸出し、果肉は黄白色を呈し、種子は楔形である。

虎頭柑 虎頭柑は漳州蜈蚣塘一帶に産し、永泰産の蚌橘、福州鳳岡裡の橙、廣東潮州の沙橙等と相類し、皆雜種である。品種の特徴を述べれば、果實は扁圓形を成し、縦徑は六・四七五釐、横徑八・八六釐、果重三九五瓦あり、果頂稍凹入し、基部は圓形で肋起あり、果梗は粗で綠色を呈し、萼は中形で五瓣綠色を呈し、三角形を成す。果面は粗糙で濃

橙黄色を呈し、油胞點密で果面に平生するも、若干凹入し、果皮は剥ぎ難く、厚さ一・七五種あり、柔軟で香氣がある。油胞は形に大小あり、不規則である。橘絡は多く黄白色を呈し、瓢囊は十一瓣を有し、半圓形を帯び、表皮は白色で薄く柔軟であり、果心は小で充實し、果肉は橙黄色を呈する。汁胞は紡錘形で長く、果汁は淡橙黄色を呈し、肉質は溶け易く、多汁で酸味がある。葡萄酒の代用品と爲し得、種子は十粒あり、大にして卵形或は楔形を成し、子葉は白色で多胚性である。果實は十二月に成熟する。

蚌橘は福建永泰縣の産である。福建は蚌の名産地であるから、其の名を得たものであり、橘中で蚌橘は亦高級品である。永泰縣の湯洋郷、鷓公嶺、太源郷、鷓尾郷、龍江源等の諸處に分布し、雜種である。

蚌橘の特徴は果實は扁圓形を成し、縦徑六・六八種、横徑九・四種、果重二七二瓦あり、頂端は稍凹入し、基部は圓形で稍凹形で肋起があり、果梗は粗で綠色を呈し、萼は大で亦綠色を呈し、萼片は五瓣あり、尖角形を成す。果皮には皺襞があり、橙黄色を呈し、油胞は平生し、少數凸出し、果皮は稍附著性を帯びる。瓢囊十一瓣を有し、潤腎狀を成し、表皮は厚く柔軟で白色を呈し、果心は中で充實する。果肉は橙黄色を呈し、肉粒は疎であり、汁胞は紡錘形を成して長く、果汁は橙黄色を呈し、肉は溶化し易く、多汁で酸味を帯びる。種子は二十粒で楔形を成し、子葉は白色或は淡綠色を呈し、多胚性である。果實は十二月より一月に至りて成熟する。

橙の特徴は果實は、扁圓形を成し、縦徑は七・七五種、横徑一〇・四種あり、頂端は稍凸出し、基部に溝紋と肋起があり、果梗は甚だ粗であり、萼片は顯著でないが綠色である。果皮は粗糙で橙黄色を呈し、油胞は多數ありて圓形を

成し、平生するも、小數は凸出し、果皮は剥ぎ難く甚だ厚く一・二種あり、皮の内層は白色を呈する。油胞は卵形を成し、橘絡は多く柔軟で白色を呈し、瓢囊十一瓣あり、大で闊腎形を成し、表皮は厚く白色である。果肉は橙黄色で、肉粒は疎著し、汁胞は紡錘形を成し、短く膨大し、果汁は淡黄色を呈し、肉質は溶化し易く、多汁で酸味を帯びてゐる。種子は二十乃至三十粒あり、卵形或は楔形を成し、子葉は白色を呈し、多胚性である。果實は十二月に成熟する。

沙柑は潮州産であり、果實は扁圓形を成し、縦徑八・〇九種、横徑一一・二五種、果重四二五瓦あり、頂端稍凹み、基部は稍尖り、溝紋と肋起がある。果梗は粗で綠色を呈し、萼片は五瓣を有し、三角形で綠色を帯び、果面は粗糙で皺襞があり、橙黄色を呈する。油胞は圓形で少しく點在し、平生するも、小數は凸出する。果皮は剥ぎ難く甚だ厚く一・四五種あり、内層は白色を呈し、強靱で香氣あり、橘絡は多く柔軟で白色を呈する。瓢囊は十二瓣あり、表皮厚く強靱で白色を呈し、果心は大で、果肉は橙黄色を帯び、肉粒は疎著し、汁胞は紡錘形を成して長く、果汁は橙黄色を呈し、多く甜味で少しく酸味を帯び、品質は佳良ではない。種子は十粒あり、卵圓形を成し、子葉は白色を呈し、多胚性である。果實は十二月より二月に至りて成熟する。

代代橙 本種は福州鳳崗裡雁濱郷葉廣園内に栽培せられ、蘇州虎邱山より傳來したものである。此の花蕾を採り培乾し、茶葉中に入れて香料とする。品種の特徴は樹は倒折し易く、枝は細長に疎生し刺があり、葉は楕圓形を成し、先端は鈍尖で基部は圓形であり、葉縁に淺き波狀の缺刻があり、翼葉は耳狀を呈し細長である。果實は扁圓形を成し、縦徑五・四種、横徑六・四種あり、果皮は橙紅色を呈し粗糙で疣突起があり、油胞は平生或は凹み、瓢囊十瓣を有し、

心皮は厚く、果肉は淡黄色を呈する。種子は二十粒以上ありて卵形を成し、先端は鈍尖で表皮には肋紋があり、子葉は白色を帯び單胚である。果汁は味酸強く生食に堪へぬ。果實は十二月より二月に至り成熟し、果實は又玩賞用或は藥用に供せられる。

**枸櫞** 福州鳳崗裡劉宅正郷九十八號陳橋陳木弟園の産に係る。土名を橙と稱し、栽培して觀賞用に供する。樹高は七尺乃至八尺で倒折し易く、枝は長く小刺あり、葉は長大で一五・五—二四種×九—一二種であり、翼葉なく、表面は綠色を呈し、裏面は淡綠色で、葉縁に淺き鋸齒を有し、花蕾は紫色を帯びてゐる。果實は卵圓形又は洋梨形を成し、縦徑一九・三—六種、横徑一三・三八—五種、果重一、一六〇瓦あり、頂端は圓形或は平形を成し、肋紋があり、基部は圓尖で溝紋がある。果梗は粗であり、萼は大で五瓣を有し三角形を成し、果面には皺襞があり、黄色である。油胞は大で多數凹入し、果皮は剥ぎ難く、甚だ厚く二・七八種あり、柔軟で香氣を有し、油胞は卵圓形を成す。橘絡は柔軟で白色を呈し、瓢囊は十二瓣あり、腎臟形を成し小である。表皮は厚く、強靱で白色を呈し、果心は大で充實し、果肉は灰白色を呈する。汁胞は紡錘形或は卵圓形を成して長く、果汁は灰白色で頗る酸味あり生食に堪へず、種子は七十六粒あり、楔形で甚だ大であり、子葉は白色を呈し單胚性である。果實は一月に成熟し、觀賞用に供する。

**佛手柑** 福建には僅少の生産がある。漳州で栽培せられ、其の他廣東、廣西、浙江及江蘇揚州等に分布してゐるものは枸櫞と相類し、指を開ける形、或は拳形を成し香氣あり、室内或は衣服中に置けば甚だ芳香を放つ。或は盆景に栽培し觀賞用に供する。佛手柑は挿木或は接木すれば甚だ發育し易い。

**月月橘** 漳州に栽培するものを月月橘と稱するのは、其の四季能く開花結實する爲である。福州に栽培するものを月月橘、或は長壽金柑と稱し、揚州で之を壽橘と云ふのは、其の隨時玩賞に供し、祝壽の際に之を用ふるからであり、禮物として最も適當である。本種は揚州、温州、福州、漳州等には一般に栽培せられる。品種の特徴は盆栽品は形小であり、葉は楕圓形、或は倒卵圓形を成し、先端は圓く、基部は稍尖り、全縁に缺刻がない。花は小であり、萼は紫色を帯び、果實は倒卵圓形を成し、頂端は凹入し基部は稍尖り、縱横兩徑均しく三・一種あり、果皮は淡黄色を呈し、厚さ一—五耗で甚だ薄く、金柑の香氣あり、油胞大で稍凸出し、瓢囊八瓣を有する。種子は小で僅かに二、三粒あり、卵圓形を成し、子葉は綠色を呈し多胚性である。果實は十二月に成熟し、盆景として觀賞用に供する。

以上列記した福建省野生及栽培の柑橘類は、一九二九年及一九三五年の兩回福建省に於て集めた材料に依るが、或は尙ほ未だ採取し得ざるものもある。

### (三) 福建柑橘類の栽培法

**福州の紅橘** 福州紅橘は實生法に依つて育苗するが、其の方法は一、二月に果實より種子を取り出し播種する。播種の時は幅一・二米許の畦を作り、畦の上に二〇種の間隔を置き播種すれば、約一箇月の後に發芽する、翌年春に移植し二四種毎に一株を栽植し、三年に至り苗として賣出す。栽培者は均しく實生苗を購入し栽植するが、實生苗には種々の不利があり、結果開始の年齢遅きときは生長不齊一の缺點があり、即ち結果の年齢遅く、栽植後第五年に始めて結實する。實驗に依れば收穫は第一年(樹齡八年生)で十箇以上、第二年で三十箇、第三年で百箇、第四年で百箇、第五年で二



百五十箇、第六年(樹齡十五年生)で三百箇乃至四百箇を得る。實生苗の結實開始の年齢は十一年より十三年に至つて嫁接苗を採用すれば、結果開始年齢を早め得られ、嫁接後四、五年で開花結實を開始し得、實生苗に比して六年乃至八年を早くし得る。而して嫁接繁殖に依れば紅橘の系統を純粹ならしめ、生長は齊一になる故に、注意して之を改良すべきである。

栽植の時期は福州の紅橘に在つては十二月より二月迄を移植時とし、栽植の距離は十尺平方とする。栽植時は均しく土壌を作つて栽植し、墩の高さは一米、直徑一米半とする。福州地方の産橘地は潮水甚だ高く、其の浸入を避くる關係から、均しく土壌で栽培し、恰も盆栽の如くするが、樹木は何れも土壌内に制限する爲に樹齡を短縮せしむるので、外國柑橘の如くに七、八十年生のものはない。福州の土壌栽培の紅橘は、潮水の浸入を防止するの必要があるので之を改むる良法はない。

福州農家の紅橘栽培上肥料に就いては未だ注意を拂はずに、僅かに人糞尿、豚糞等を使用するのみである。故に若し肥料の配合、施肥方法に注意し、施肥時期等にも改良を加へれば、毎株の産量を増加し、品質を向上せしめ得る。福州地方の紅橘には宜しく多く燐酸加里肥料を使用すべきである。現在福州の農家では能く河泥を肥料とするが、是は農民經濟の幼稚時代の方法であり、今後は應に家畜肥料と人造肥料とを併用するのが果樹に對しては合理的である。

漳州の桶柑及盧柑 漳州の桶柑と盧柑とは廣東潮州より傳來し、漳州南郷の蜈蚣塘一帶に最も多く産する。種苗は

主として潮州より移入するが、少數は漳州で繁殖する。

其の方法は即ち紅橘の本樹に接木し、或は鉢取法、壓條法等を用ひて繁殖する。漳州で栽種する桶柑、盧柑は均しく平地に栽培し、十二尺平方毎に一株を種植し、其の距離は甚だ密である。施肥、中耕等には留意せず、柑橘の樹間で蔬菜を作り、秋には花菜を作り、芥菜、白菜を主とする。漳州の桶柑、盧柑の育苗は、其の栽培距離、中耕、施肥等に注意して改良すべきである。

浦南の柚 浦南は柚産地として著名であり、北溪兩岸五十支里一帶に皆之を栽植し、其の他竹林を多しとする。郷人は柚を呼んで軟仔(Remond)と曰ふが或は音譯の名に係る。柚種は昔馬來より傳來したのである。栽柚は鉢取法或は嫁接法を以てし、嫁接は皆柚を接木とし、栽植距離は毎株十八尺平方である。該處に在る樹の大なるものには已に三、四十年生で、高さ三十餘尺で巍然として林を成すものがあるが、中耕、施肥には甚だ注意せず、殆んど天然の發育に委してゐる。果樹は氣候適宜の地に在つては栽培に管理を要しないからである。浦南の柚は尙ほ供給に不足して居るから、宜しく注意して優良品種を選択し栽培を擴充すべきである。繁殖には嫁接法を用ひ、樹幹の高きに過ぐることは、管理及採果上に不便である。栽植距離は宜しく寛くし樹身をして自由に發育せしめ、生長を強健にし、容易に病蟲害を防止するを要する。又浦南、漳州一帶には或は葡萄柚と檸檬を試種し、近代消費の需要に應ずべきである。

古山洲の甜橙類 福州古山洲の甜橙類柑橘は其の品種一種に止らず、雪柑及香水橙の兩種に類似するものがある。該地の繁殖法は均しく實生苗を採用し、之に依つて變種が最も多いから、宜しく選種法を以て優良種を擇して劣等種を

淘汰するを要する。該地では又鉢取法を用ひることもあるが、未だ嫁接法の繁殖を聞かない。栽培法は極めて幼稚であり、皆住宅の近傍又は堤上に栽植し、林を成すの果樹園は甚だ小數である。毎株の距離は十五尺乃至十八尺、幹高は三尺前後であり、肥料、中耕等に何れも注意を拂はず、病蟲害は甚だ多い。例へば介殼蟲、瘡痂病、潰瘍病、象皮病等は最も熾盛を極めてゐる。甜橙類の古山洲に於ける生長結實の状況を觀るに、能く福建省の栽培に適するが如くであるが、唯栽培法に改良を加へねばならない。

(四) 福建柑橘の採收、貯藏、包装、運輸方法

採收 採收の時期は種類に依つて不同であり、福建栽培の紅橘、盧柑、桶柑、甜橙、柚等の採收時期を表示すれば下の如くである。

福建省各種柑橘類採收時期

種	類	採收時期	地	方	種	類	採收時期	地	方
紅	橘	十二月—一月	福	州	甜	橙	一月—二月	福	州
盧	柑	十二月上下旬	潭	州	文	旦	九月	浦	南
桶	柑	一月—二月	同		坪	山	十月	同	

福建柑橘の採收時期より見れば、九月より二月に至る六箇月間は均しく柑橘果實の收穫があり、宜しく注意して九月

より二月に至る以外に成熟する品種及貯藏に耐ゆるものを増加すべきである、能く夏季に市場へ供給する甜橙及柚の兩種に就き之が栽培を擴張するは最も必要である。

貯藏 福建の農家では柑橘の貯藏に就いては極めて不注意であり、大多數は採取後廠内（臨時建設の竹屋）に堆積し包装の爲に準備する。家庭に貯藏する柑橘は均しく藁中に久しく入れてゐる。又福建では山谷或は風穴の通風を利用する低温の貯藏庫を設計すべきである。福州産の多量の紅橘は貯藏適種でないから、之を貯藏して四箇月に至れば市場に於ては米國品と競争することは出来ぬ。柑橘貯藏事業の發達を期せんとせば、第一に貯藏品種を選出、栽培、擴充し、第二には病蟲害の防止と栽培の改良に注意を要する。

包装 福建柑橘を外部に移輸出するには均しく木桶を用ひて包装し、近邊に輸送するには均しく竹籠を使用する。紅橘の木桶には二、三種あり、大は蓋徑二十五吋、底徑十七吋、高さ二十吋とし、全體の容量は百斤とする。果實は桶中の側面に排列して圓弧を成し、桶を密閉後は外面を再び篋で編み、更に草繩を以て之を綱り堅固にする。小は蓋徑十四吋、高さ十二吋、底徑十一吋とし、容量は三十斤とする。各箇の貨物は極めて重い爲に、車輛運輸には不便を感じる。福建果實の包装には紙包を見ない。文旦柚の包装には竹籠各箇七十斤乃至百斤とする。福建柑橘は包装不良の爲に果實の損失甚だ多く、青黴病、帆損及梗腐病等があり、包装としては各箇重量の輕減と、果實病蟲害の防除及果實の分類に細心の注意を拂ふを要する。

運輸 福建柑橘の運輸は橘園より橘廠(包装及販賣の場所)に至るには小船を以てするが、其の設備は甚だ不完全であり、船中に堆積中容易に壓損するばかりでなく、一度日光に晒せば包装中の果實は容易に腐爛する。船より廠中に運入し、地上に堆積せしめ、桶装後は小舢舨より小蒸汽を以て馬尾に運搬し、汽船に積込むのである。普通は船底に入れるが、汽船室に接近せば熱氣を受け、桶内の柑橘は直に腐爛する。紅橘一桶の中に往々にして半數以上腐爛することがある。運輸は宜しく橘園より容器に包装し、汽船に積込む迄火爐に接近せしめず、或は冷蔵装置を要する。柑橘栽培の發達せる區域では、特別仕立の汽船、汽車及完全の設備を要する。柑橘栽培の

(五) 福建柑橘の病蟲害及防治法

病蟲害 福建柑橘の病蟲害の主なもの、中、蟲害には天牛、介殼蟲、赤蜘蛛、花蕾蛆等があり、病害には瘡痂病、潰瘍病、黒點病等がある。其の他は未調査であるが、更に病蟲害専門家の研究に俟つものがある。

福建柑橘の主要蟲害

種 類	被害種別	被害部分	地 方
天 牛 ( <i>Meranosternus chinensis</i> , Fa.)	柑 橘	樹 幹	福州、漳州及中國各地
介殼蟲	甜 橙 類	果 實 葉	福州 古 山 洲
一、圓介殼蟲 ( <i>Aspidiotus duplex</i> , Gill)			
二、矢根介殼蟲 ( <i>Prontaspis yarowensis</i> , Kuwana)			
三、黒色黒點介殼蟲 ( <i>Parlatris alyptus</i> , Lucas)			

赤蜘蛛 ( <i>Tetranychus nyhia</i> )	紅 橘	葉	福 州
花 蕾 蛆	柑 橘	花 蕾	福 州
同柑橘の重要病害			
種 類	寄 生	被害部分	地 方
瘡 痂 病 ( <i>Scab. Sphaeoloma</i> )	紅 橘	果 實 葉	福 州
潰 瘍 病 ( <i>Citrus Canker. Pseudomonas</i> )	甜 橙 類	果 實	福州、漳州
黒 星 病 ( <i>Phoma Citricarpa</i> Alp)	有 柑 蕉 柑	同	漳 州
象 皮 病 ( <i>Karyophyes oleivorus</i> Arhn)	蕉 柑 及 甜 橙 類	同	同

病蟲害防治法 蟲害中天牛は其の種類甚だ多く、普通の虫害は星天牛で、支那各地、臺灣、日本内地、朝鮮等到處に居る。天牛の成蟲は四、五月中に發現し、幾もなく樹幹基部の樹皮に産卵し 二、三年以上で變じて成蟲と爲る。之が防治方法としては蟲孔に燻蒸劑及毒劑を注入する。例へば二硫化炭素溶液、靑酸加里、磷、砒酸鉛、チブス菌を包含する團子等を以て天牛の幼蟲を毒殺し、蟲孔は密封する。天牛の虫害多い樹は根接法及喬接法を用ひて樹の勢力を更新する。二、三月中天牛の産卵期前には樹幹二尺以内を石灰を塗り、或は稻草を用ひて包装して産卵を防ぎ、成蟲は之を捕除する。

介殼蟲の種類も亦甚だ多く、虫害最も多きは圓介殼蟲、矢根介殼蟲、黒色黒點介殼蟲の三種である。圓介殼蟲の雌の介殼は不正楕圓形を成し、長さ三・三耗あり、暗褐色で外周は淡色を呈する。殼點は一方に偏し、黄褐色或は橙黄色を

呈し、毎年一回發生し、五月中に産卵し、八月中に成蟲と爲る。矢根介殼蟲は雌は介殼が長形で矢狀を呈し、長さ三・五耗あり、殼點は前端に在り、介殼は紫褐色を、外周は白色を呈する。毎年三回發生し、五月に産卵し、成蟲と爲るは第一回は七月中、第二回は九月中、第三回は十一月中である。黒色黒點介殼蟲の介殼は長方形を爲し、長さ一・二乃至一・八耗あり、殼點は前端に存し、全形は龜甲狀を成し黒色を、外周及後部は灰色を呈し、年に一、二回發生する。之が防治法は冬季に青酸瓦斯の燻蒸を行ひ、又松脂合劑二十五倍乃至三十倍の液を散布し、或は機械油乳劑を使用する。八、九月には三十五倍乃至四十倍の液を、春季には十倍乃至二十五倍の液を使用する。

赤蜘蛛の成蟲は約〇・四耗とし、蝨狀の如く紅色を呈し、老樹の皮下及葉裡に寄生し年に數回發生する。乾燥季に最も盛んである。之が防治法は硫黃石灰の合劑又は烟精劑を散布する。

花蕾蛆は蠅蛆の如くに形は甚だ小であり、成蟲の雌は體長一・五耗、翅を開張すれば三耗餘あり、頭部は黒色で、翅は淡黒色である。幼蟲の患害は四月に發生する。之が防治法は橘園を清潔にし、土壤を冬耕し、花蕾時には烟精劑(ニコチン劑)石鹼液等を散布する。

福建柑橘の主要病害中瘡癩病は紅柑に最も多く、果實及葉上に疣狀灰褐色の突起を發生し、形は瘡癩の如くである。病斑は葉及新梢に在つて冬を越え、翌春降雨時に胞子を生じ、新梢、新葉、幼果實等に傳染する。二回、三回胞子を生じ、反復して柑橘の各部に傳染する。之が防治法は橘園の通風を良好にし、ボルドー液を散布し、四、五、六月の三回に使用する。

潰瘍病の病徴は葉枝、果實上に在つて圓形の隆起疣狀物を生じ、灰褐色を呈し、發病時期は六、七月より九、十月に至る。本病は甜橙類に多く發生し、其他金柑、紅橘等には免疫性がある。之が防治法は蟲害に注意し、六、七月中に連續してボルドー液を散布する。

黒點病の病徴は枝梢に發生のときは暗褐色を呈し、腐敗後に乾枯し容易に剝皮する。果實上に發生のときは微小の黒色斑點を生じ、樹勢衰弱及排水不良の地に此の病は發生し易い。之が防治法は橘園の排水に注意し、適當に施肥し、橘樹の發育を強健にし、又ボルドー液を五、六月より散布する。象皮病の病徴は果面に灰白色或は黒褐色を呈し、其の部分の組織を硬化する。葉に發生せる時に在つては暗褐色の斑紋を生ずる。本病は主として銹蟲の寄生に依つて起る。蝨は楔狀を爲し、腹端に至り漸く細く、體長は五耗あり、初めは白色を呈し、後に淡黄色に變ずる。卵は四、五日を経て孵化し、一世代は約二週間で、七月より九月に至る間が繁殖最も盛んである。冬季は葉の裏面又は樹皮下に在つて冬を越す。之が防治法は樹體に日光を透し、石灰硫黃劑を七月より九月迄散布する。

柑橘の病害は前述の外に、尙ほ青黴病、炭疽病、果腐病等の患害も亦少くなく、均しく果實貯藏中に發生するものが多い。

#### (六) 福建柑橘産果の改良諸點

品種の改良 果樹の改良は接穂及接本兩方面に注意するを要する。接穂は固とより正確の品種を選び、優良母本の繁殖を爲すべきであるが、只接本は優良種及系統正確のものに注意して之を繁殖すべきである。果苗の繁殖は接穂、接本に對し注意選擇して始めて優良果苗の育成を爲すことが出来る。福建の柑橘品種の改良方針は、要するに在來品種の

改良及外來品種の試植に外ならない。即ち在來品種の改良は仔細に紅橘中の多數系統を調査し、目的を定め、優を取り劣を去るの方針を實行するに在る。其の方法として嫁接繁殖と母本樹の記録を奨励すべきである。紅橘の接木は枳殼を用ふべく、其の嫁接親和力高く、結果の開始年齢早く、耐寒性强き等の優點に依るものである。次に繁殖の紅橘は其の母樹の記録即ち外國で行ふ所の果樹母本の登記 (Fruit Tree Performance Record) の工作を採用するに存する。

福建に於て第一步に試行すべき母樹記録は、下記各種類に就き、各地に於て之を實行すべきものである。

紅橘 福州、 廣柑、 桶柑 漳州南郷、 甜橙類 福州及漳州、 柚 浦南

接本種類は柑橘の種類に依つて同じからず、現在普通に用ひるものを左に記述する。

柑橘種類	接木種類
紅橘	枳殼
有柑、蕉柑	酸橘、枳殼
甜橙	酸橙
柚	柚

嫁接時期は一、二月中であり、技術が熟練すれば活著は難事ではない。切接法は接木も接穂も二寸を留め、切出形成層及接木切皮層は共に一寸とし密合せしめ、稻草或は麻を以て緊結し、之に土を覆ひ置けば一月を越えて發芽する。潮州農民の切接技術は甚だ佳良であるから、其の方法を福建に移入すべきである。

外來品種の試植に關しては、臺灣よりは柑橘の生産が品種生産の不同の關係から周年供給することが出来る。實地調

査の結果、福建に在つて下記各種類及各品種を移植すべきである。

- 一、温州蜜柑、日本産、尾長温州蜜柑、早生温州蜜柑等の品種は、閩北に試植すべきである。
- 一、早橘、本地早、浙口黄巖産等は又閩北に試植すべきである。
- 一、香水橙、甜橙、柳橙、廣東番禺産等は閩南に試種すべきである。
- 一、米國脐橙類の米國加州産 Washington Navel Orange, Thompson Navel Orange は又閩南に試種すべきである。
- 一、米國加州産 Valencia Late 甜橙、葡萄柚、Mash seedless、臺灣及暹羅産白柚、蘿豆文旦、暹羅柚、檸檬 Genoa, Lisbon Viofranka 等各種は又閩南に試種すべきである。

右に記述する所の多數は輸入すべき柑橘中の重要品種であり、水果の自給策より見て、之等外來品種を移植すべきである。

苗木の擴充 福建省の柑橘生産の現況では、福州、漳州を生産區域とし、其の他の地方には未だ普及せず、今本省の柑橘栽培分布より稽へて、更に區域を擴大し、柑橘の生産を擴張すべく、苗木に就いては先づ福州及漳州に柑橘育苗試験所を設立し、福州に在つては紅橘、温州蜜柑、黄柑等の果苗の育成に注意し、之を閩北の部分に擴張し、漳州に在つては盧柑、桶柑、柚類、甜橙類、檸檬等の果苗の育成に注意し、之を閩南方面に擴張すべきであり、區域に依つて適當の品種を選択すべきである。苗木擴張の順序としては先づ柑橘育苗地養成の苗を各縣に分給して母本樹苗を作り、各縣の養苗は再び之を各郷の特約農家或は農會に分給し、此の母本樹を栽培し、數年を経過すれば優良柑橘は各地に普及

せらるることなる。

栽培改良法 栽培法の改良として第一に注意すべきは栽植の距離である。紅橘及橘類は六米平方、甜橙及檸檬は八米平方、柚は十米平方とすべきである。果實の種植距離が寛なれば生長は強健で、壽齡は長く、結實豊多の長所がある。栽植密に過ぐれば病蟲害は容易に防治し得られず、生産も當然減ずる。第二に注意すべきは中耕を年に五、六回し、果樹の生長結實を有利ならしめることである。第三に注意すべきは施肥と綠肥との栽培である。福建栽培の柑橘に在つては各種類の施肥量に對し試験をし標準を決定すべきである（民國二十五年福建省農林調查報告第一號、胡昌儀福建の柑橘及建設報告第六冊附錄第二）。

(七) 福建柑橘の取引状況

福州に於ける取引状況 福州は蜜柑類の産地であると同時に外省産、米國産及臺灣産の柑橘を輸入する。米國産柑橘は上海及香港より福州市内の山東棧に委託販賣の方法に依り輸入せられ、年額約三百擔に達する。代金は荷渡後六割を先拂とし、賣却後殘額を送金する。其の種類はワシントン・ネーヴルで卸値一箱二百四十顆入二十元、小賣値一顆に付約十仙とし、一般に中流以上の家庭に消費せられる。

臺灣産柑橘は産地同業組合より昭惠公司に委託出荷し、同公司是躰の方法に依り仲買人に配給し、仲買人は更に之を山東棧に配給する。年額約百擔で代金は躰後即時決済する。主として極柑で十一月乃至一月の間に輸入され、卸値百斤に付十六元、小賣値一斤約二十仙である。

移入は廣東及廈門産の雪柑、漳州産の極柑で、臺灣産と同様に十一月乃至一月の間に産地出荷者より直接山東棧に委託

販賣し、代金は米國品と同様荷渡後六割を先拂し、賣上済後仕切書と共に殘金を送金する。年額約三百擔で相場は臺灣産に略等しい。米國産は臺灣産と共に木箱容器を用ゆるに對し、支那産は竹籠を用ひる。福州に於ける輸入税は金單位從價百斤に付六弗三十八仙の高率なる爲に、市價高價の米國品は別として、臺灣産極柑は此の點で輸入困難の状態に在ると共に、支那産同種との競争を免れない。

福州地方に於ける柑橘園の經營者は數百戸に達し、栽培品種は前記の如く福橘であり、十月下旬から一月迄の間に數十戸の移出業者に依り上海、天津、興化、泉州等に出荷せられる。其の數量は上海方面約八萬擔、天津方面約二萬擔、興化泉州方面約一萬擔で、出盛期に於ける産地相場は百斤に付六元内外である。容器は一般に木製の大樽を用ひ、外側を更に竹籠を以て包装する。天津行は防寒包装として右の外に更に麻布を以て被覆する。代金決済法は出荷と同時に約六割に相當する爲替を送り、向拂として先拂を爲さしめ、殘額は梨及林檎等現物を以て決済する。

出荷者は先づ福州海關を経て馬尾に送り、馬尾で船積の上仕向地に發送するが、運賃は百五十斤入一樽に付上海行約八十仙、天津行約一元五十仙、興化及泉州行約五十仙である。其の外青果捐、水警捐、出口河稅等の諸稅公課合計一樽約六十仙を要する。

廈門に於ける取引状況 廈門は柑橘産地でないから、其の消費柑橘は主として漳州及米國産品の移輸入に俟つ。漳州よりは河川を利用し戎克に依つて入津する。米國産は月六航海の定期船に依つて委託仲繼で輸入する。取引業者は二十四軒あり、主なもの永復、文成、源裕、合發、慶隆の五洋行であり、何れも支那人の經營に係り、米國産品は専ら之

等五店の取引に係る。一九三四年に於ける漳州産の移入額は蜜柑一萬八千二百八十二擔（一擔平均一三・五五圓）、白柚（斗柚）一萬八千三百一十一擔（一擔平均五・六九圓）、價額六萬一千五百七十七圓とし、米國産ネーデルオレンジの同年に於ける輸入額は二千四百十六擔、三千二十箱（一箱平均三三・一七圓）、價額八萬四千四百八十八圓である（一箱は八十斤入、單價一として邦價に換算す）。

代金決済方法は漳州産及米國産共に委託販賣に依るが、漳州の出荷者と廈門の荷受者は常時青果及蔬菜類の取引關係を有し、舊曆五月五日の節旬前、八月中秋祭前及年末の三回に清算するを普通とし、稀に毎月一回清算を爲すものもある。米國品は香港より輸入し毎月一回清算を行ふ。

荷造包装は漳州産の容器は約七十斤入バナナ籠様の竹籠を用ひ、米國産オレンジは一箱二百顆乃至二百二十顆、約八十斤入の容器で、通風を良好ならしむる爲の間隙と中仕切板を有する所謂隙し木箱を用ひ、包装紙並に藁等の填充物を用ひないで頼の儘荷造をしてゐる。

小賣業者は仲買業者の店頭に於て現金又は掛賣に依り賣捌を受け、掛賣に在つては毎月二回乃至三回に代金を決済する。小賣業者は一般に買辨を使用し業者個々で仕入をしない。

漳州より廈門迄の移入諸掛は百斤擔、送費〇・一六六元、出荷地諸税掛〇・六〇元、戎克貨〇・三五元、廈門水果税〇・二七元、水揚貨〇・〇五元、計一・四三元である（昭和十年十月臺灣總督府熱帯産業調査會柑橘産業に關する調査書）。

## 二 橄 欖

橄欖樹は常緑樹で、果實は小卵型を成し綠色を呈する。閩江中流の水口から福州の南港に至る迄の各地方及び閩江兩岸に多く見られる。福建産の橄欖には檀香、柿丸母及び長尾の三種類があり、檀香は品質優良である。

檀香 檀香橄欖樹は二丈以上の高さを有し、六、七月の間に花を開き、秋季に結實、十一月に成熟する。檀香は他の二種より小さいが、風味は良く、幾分高價で一擔最高二十五元から最低八、九元位である。福建省の檀香年産額は約十萬擔で、大部分は北支、上海及香港に移輸出される。移輸出品は産地から直接發送される事もあるが、福州市から積出すのが普通である。福州市には福永祥橄欖公帮があつて、橄欖は木製箱に包装して移輸出する。生産地から發送する時は、直徑一尺、高さ一・五尺の木製圓桶に包装される。包装する時は芭蕉葉を被せて乾燥するのを防ぐ。他省特に北支に於ては檀香橄欖が特に珍重される。檀香は概ね接木に因り、接木臺は長尾橄欖樹を用ひるが、接木をする時は長尾樹を中央部から切斷して其上に檀香樹の枝を接ぐ。接木後十年経つと結實する。

柿丸母 柿丸母橄欖樹は高さ二丈以上に達し、盛夏に開花、晩秋に成熟する。形は檀香より大きく、水分も多いが幾分酸味が多い。價格は一擔最高九元から最低五元位である。福建省に於ける柿丸母年産額は十萬擔以上で、大部分は移輸出される。

長尾 長尾橄欖樹の高さは最長のものになると四丈に達するが、普通は二丈位である。初夏に開花、初秋又は中秋頃に成熟する。實は兩端が尖り酸味がある。此の種の橄欖は大部分移出され、地方で消費されるのは極く少ない。橄欖商は之を買集めて鹽橄欖にする。陶器甕に三十斤の長尾と六斤の鹽を容れ、約十五分間之を上から踏みつけた後に、二、三

千斤の容積ある木製容器に容れて三日間鹽水に浸し、更に三日間日光に曝して乾燥せしめると鹽橄欖が出来る。長尾種の年産額は二十萬擔で、其の八割が鹽漬にされる。三種類の年産總額は從來約四十萬擔と云はれた(The Chinese Economic Journal, vol III, 1928)。

橄欖は能く酒毒を解き保健に有效であると云はれる。始は澁く後は甘く、餘り佳味ではないが、本省人は好んで之を食し、宴席には必ず之を使用し、其の需要は多い(註、一)。橄欖の移輸出高は近年多くは三、四萬擔で、時に五萬擔を越えたが、最近更に減退し、一九三一年頃は二萬八千餘擔、價額二十五萬元臺に止つた。

三　バ　ナ　ナ

バナナは香蕉又は甘蕉と云ひ(註、二)、本省に於けるバナナ産業は氣温の關係上、特に南部地方に局限せられ、就中漳州(龍溪)及雲霄一帶の地方は所謂漳州バナナの産地として著及名であるが、果實小なるに加へ、品質亦劣り、到底臺灣産のものに比すべくもなす。バナナの種類は *Musa Sapientum* *Musa Cavendishii* に屬するが、後者の栽培が甚だ多い。福建省のバナナ産地の中心は龍溪、長泰、南靖、雲霄等であり、年産額五萬斤乃至五十萬斤であり、主として廈門及漳州の兩市場に取引せられる(The Chinese Economic Journal, Oct, 1931)。

本省の取引状況を見るに、概ね漳州バナナの勢力圏内に在る所であるから、廣東バナナの移入は比較的僅少である。福州市に移入せらるゝバナナは、主として廣東及廈門方面よりの仕出に係り、一九三四年に於ける移入總額は年約八十萬斤に達し、内廣東よりは同年十月以降三箇月間で一割五分の八萬二千斤、價額二千四百六十元(百斤平均三元五角)、

廈門方面よりは同年同期及翌年一月の四箇月間で七十二萬斤、價格二萬三千五百元(百斤平均三元三角五分)であつた。

右廈門バナナは全部漳州産であり、廣東品と共に其の周年の總移入高は數量未詳なれど、兩者共に所謂半箇年出廻りであるから、十月以降三箇月は其の出盛期と見るべく、従つて他の月は右に記した分に比し極めて僅少なるべきに依り、兩地よりの移入額は年約十萬斤と推定すれば大過ないと思はれる。廣東品は専ら委託の方法に依つて廣東又は汕頭方面に於ける山東棧(支那人)の手に依り出荷せられ、海路廈門を経て移入せらるも、其の取扱を見るに大口に出荷するものはない。廈門品は一旦石碼に集積された後、直航船に依り移入せらるもので、右地方出荷のものは大口移入の上廣東品の如く委託販賣に依らず、臺灣籍民の福州昭惠公司に依つて躰賣せらるゝのである。廣東バナナの包装は之を二種に分つ。廣東より出荷するものは竹籠詰とし、一籠七十斤見當であり、油頭出荷のものは福州より送つた梅又は梨の空箱を利用し、之に詰め換へたもので一籠約百七、八十斤とする。反之廈門バナナは全房の儘で包装せず輸送せられる。

産地より移入店頭迄の百斤當り廣東品は運賃一・三〇元、諸掛〇・五〇元、合計一・八〇元とし、廈門品は運賃一・〇〇元、諸掛〇・三五元、合計一・三五元である。

一方右バナナと臺灣バナナとの關係を検討するに、臺灣産品の輸入數量は一九三二年の九千四百五十一籠が、一九三三年には一萬七千三百十三籠に、一九三四年には三萬四千六百六十二籠即ち略二百六十萬斤(一籠七十五斤入)に増加し、當時は親日傾向の擡頭と共に、閩江流域の小都市に販路を擴張した結果である。

蓋し廣東及廈門産バナナは生産費の低廉及關稅免除等の關係上甚だ安價であるが、品質劣悪で概ね臺灣バナナの不合



格品程度のものなれば、地元品の出盛期に於ても所謂犠牲的出荷を敢行し其の發展を策するの要がある。尙ほ出盛期に於ける兩バナナの小賣値段は百斤當三・五〇元乃至四・〇〇元を唱へ、臺灣バナナは稍高價なれど、質良好で甚だ歡迎されて居るのを稽へれば、其の地盤の鞏固なるを知るに足る。

次に廈門市に於ける取引状況を見るに、當地は產地漳州及雲霄等に近接するので、勢漳州バナナの取引多く、一九三四年八月以降五箇月及翌年一月までの半箇年分は漳州産二萬五千籠即ち約百八十七萬五千斤、廣東産二千籠即ち約十五萬斤である。

又周年の統計を缺くも、右はバナナ出廻期で十月以降十二月迄を出盛期とする。而して漳州産及廣東産何れも鐵道、自動車等陸路の便を缺くので、前者は河川に依り戎克を以て搬入せられ、後者は定期船に依つて移入せらるも、漳州品は全房の儘重て輸送するを以て荷傷み品は少くない。

產地より移入店迄の百斤當り運賃諸掛は漳州よりのは運送費〇・一六元、出荷地の税捐〇・五九元、廈門迄の船賃〇・三二元、廈門の水果税〇・二七元、水陸の引取費〇・〇五元、合計一・四〇元とし、廣東よりのは送運費〇・一八元、出荷地の税捐〇・六〇元、廈門迄の船賃〇・四五元、廈門の水果税〇・二七元、水陸の引取費〇・五元、合計一・五五元である。

當地に於けるバナナ取扱業者は主として支那人の青果蔬菜仲買業者で二十餘軒あり、漳州品は買付及委託の二方法に依り、廣東品は殆んど委託販賣である。買付は現金なるも清算は年三回とし、舊曆五月五日の節句、八月十五日の中秋及年末に之を爲し、仲買人は各自色付加工の後小賣人の買辦人を通じて賣捌くのである。

當地に於ける漳州品、廣東品と臺灣品との關係を見るに、漳州品は其の形小で一房十七斤乃至二十斤、廣東品は之に比し稍大で二十五斤乃至三十斤とし、品質も亦比較的良好であるが、之を臺灣品に比すれば四等品程度を出でず、且つ色付技術も未だ幼稚であるから、當地品は概ね下層階級に、臺灣品は中流以上に需要せられてゐる。

當地臺灣バナナの輸入數量は一九三三年の一萬二千六百八十籠が、一九三四年には三萬八千四十二籠に上り約三倍に増加した。是れ亦品位の優良、親日傾向に基く消費の増加並に販路擴張に對する邦商の努力等の結果で、地元バナナの出盛期に於て屢々市價暴落の厄に遭ひつゝ、而も臺灣バナナは當地青果界の冠冕を占めたのである。尤も廣東バナナ及漳州バナナは無關稅、無包裝及運賃安の爲に臺灣品に比し廉價に供給せられ、特に漳州バナナは其の年額約八萬擔を突破し、其の位置廈門に接近するを以て、臺灣品に對し廣東バナナ以上の大敵であるが、地元品の半箇年出廻に對し年中の出荷は更に臺灣バナナの強味である。依つて地元品出廻期でもダンピング的に臺灣品を繼續出荷し、地元品の壓倒を期するの要がある(昭和十年十月臺灣總督府熱帯産業調査會バナナ産業に關する調査書)。

最近二箇年に於ける臺灣バナナの福州及廈門に對する輸出狀況は左表の如く盛況を呈してゐる。

	福州	廈門
昭和十年	數量(擔) 二,一〇七 價額(千圓) 七〇	數量(擔) 二,二七八 價額(千圓) 八三
昭和十一年	數量(擔) 一,三七八 價額(千圓) 五一	數量(擔) 一,三〇五 價額(千圓) 四六

四 荔枝及龍眼 (Litchi chinensis)

荔枝 福建は廣東と共に荔枝の名産地であり、福州、福清、連江、泉州、興化、仙遊、莆田、漳州等各地に多く、福州南臺島中の北半部各村落には、運河の兩側に枝葉相接し栽植せられ、龍眼、橄欖其の他果樹雜木等と共に鬱蒼として林を成して居り、溪頭、楓亭、田頭、蓋尾、華亭等の郡邑にも散在繁殖してゐる。荔枝は古來果の牡丹と稱せられ、樹の高さは二、三丈に及び、龍眼と酷似してゐるが、性高寒を畏れる故に、本省の西北境には之が栽培を見ない。本省産の荔枝は古來南海巴蜀の産に比し、一層優良であると云はれた(註、三)。殊に興化産のものは廣東産に較べ、肥大であり、核は小さく、皮は薄く、肉は軟で、汁の多いことに於て勝つてゐる。

荔枝の種類は形體及核に大小がある外に、皮色の綠、紅又は斑紋等に依つて一様でなく、古來紅家綠以下十六種、又は狀元紅以下三十六種ありと云はれたのは、過半は樹名或は産地場處の名に係るものである。現今は小核を元紅、大核を梗、大果を桂林、小果を金鐘と稱し、産樹に依つて自ら其の價値に高下がある。

前清時代には「香荔枝」として優良の大樹七種を存してゐたが、其の果實の形は著大であり、剥皮したものを紙に包裝して汁が出でず、又地に投じて塵を呼ばない特徴があつた。此の種の荔枝は古く唐代に栽培されたもので、曾て黃巢の亂に當り、一時伐採の危運に瀕しが、地方農民の哀願に依つて難を免れたと傳へられてゐる。此の大樹から採つた荔枝は特に地方官が之を北京の皇帝に献上したものであるが、不幸民國十一、二年に此の老樹は枯死したのである。

荔枝は清明節に皮から新芽を萌生し、五月の第一週乃至第二週に開花する。經驗に富んだ栽培者は花時に其の收穫を

豫定し得る。一般に豐年には收穫少く、凶年には收穫が多いと云はれる。六月の最後の週間に七月の第二週に成熟する果實を多く持つのである。然し收穫前に天候が激變したり、暴風があれば不作である。即ち普通天候が溫和のときに豊作である。

荔枝の生まのものは剥皮すれば、白脂玉潤恰も美人の肌の如く、之を口にすれば甘酸宜しきを得、且つ一種の香味を有し、冷生食を第一とすれど、容易に腐敗するの虞がある。即ち生果は二、三日で品質を損するので、市場の取引期間は一箇月に満たず、爲に生食するものは全體の四分の一に止り、大部は輸移出向きに貯藏し又は罐詰にする。之が保管には周到な注意と熟練を要する。果實は十日間位強き天日に晒らすのであるから、其の乾燥したものを「白曝天紅」と曰ひ、皮は黄味を帯びる。雨天には生果の味を喪ふのを防ぐ爲に、熱湯で煮沸し又日光の代りに火で熱する。之を「天紅」と呼び、皮は稍暗黒色を呈する。乾荔枝は通例鹽に包裝するが、罐入のものは木箱に納める。貯藏したものは之を天津、大連、秦皇島、上海、香港、其の他南支、南洋方面に仕向ける。

乾荔枝は補血性を有するので、強壯劑として珍重される。現在栽培者は舊法を墨守し、之に改良を加へない爲に、收穫が不定であると共に、樹齡も短縮される。將來科學的栽培法を實施せざるときは、本樹の運命を助長することは出来ぬ。荔枝の樹皮及樹根は、新漁網を煮沸する爲に漁師に珍重される。

本省の荔枝産額は廣東省には及ばないが、從來約二十萬封度と推定され、就中仙遊及莆田の年産額は十萬擔で、凶作にも尙ほ六萬擔に達すると云はれ、或は福州は六千擔(天津、上海、福清は一萬擔、連江は二千擔、仙遊は一千七百擔、

龍眼は五百擔であると云はれた(The Chinese Economic Bulletin, Sept. 7, 1929)。

龍眼 龍眼は桂圓又は圓眼とも稱し、荔枝に似てゐる。福州南臺島の北部高尾、洪塘附近、興化、仙遊、泉州、漳州等に産し、就中興化附近に産するものは、本省内の優良品と云はれる。各農家悉く之を植付け、國道附近には樹齡百年を越ゆるものがある。

龍眼は荔枝と共に、支那の原産で樹は酷似すると云ふものの、果の外皮及核は各異り、肉は共に白く、甘美多醬であるが、其の味荔枝に亞ぐるので、之を荔枝と稱する(註、四)。惠安志には「大なるものを龍眼、次を人眼、小なるものを鬼眼と名づく」とあるが、其の標準は不明である。而して荔枝は花落ちずして實が落ち、龍眼は實が落ちずして花が落るので、國諺に「荔枝花を愛し子を愛せず、龍眼子を愛し花を愛せず」と云ふことがある。龍眼は荔枝に比して栽培容易で、樹齡三、四十年のものを最盛時とし、害蟲及氣象の變化に對して抵抗力強く、主として街路樹の様に植ゑ、共同管理してゐる所もある。福州名物の布袋人形の用材は、大部此の龍眼樹を使用してゐる。

近年乾荔枝の移輸出は多きは一萬擔、價額は三十萬元を越え、一九二九年は一萬三千二百擔、價額三十七萬四千元に達し、一九三三年は數量は、九千七百餘擔に下つたが、價額は騰貴した爲に五十萬元を越えた。

龍眼の年産額は荔枝と同じく從來二千萬封度と推定されてゐる。乾龍眼の移輸出は荔枝に比して多く、近年多くは一萬擔を越え、一九二三年及一九三〇年には、各一萬九千擔に上り、價額は二、三十萬元乃至四、五十萬元を占めてゐる。

(二) 莆田縣の荔枝及龍眼

左に民國二十四年建設廳當局が實地調査した莆田縣に於ける荔枝及龍眼の狀況並に意見等を掲記する。

莆田は素と興化府に屬し、福州、泉州間に介在し、現在では自動車開通し、又三江口には船舶が碇泊するので、南北の各大小商埠地に直通する事が出来、交通便利である。縣境は山を背にし海に面し、三分の二は何れも沿海の沖積地で、地表は柔軟であるが、内部は膠質を多分に含有し、其の上河流が縱横に走り、氣候溫和であるから、如何なる果樹も植栽することが出来る。平地には荔枝、柑橘、山地には龍眼、枇杷、橄欖、柿、棗、楊梅等の栽培に適する。果樹中龍眼と荔枝を大宗とし、就中龍眼は毎年三萬箱乃至五萬箱の輸移出があり、莆田桂元公會の報告に依れば、毎年の生産高二百萬元を下らないと云ふ。龍眼樹の占むる面積は仙遊縣と合すれば四十萬畝ある。移出地は上海、寧波、温州、福州あり。就中上海への移出量が最も多く、總額の約七割を首とし、寧波が約二割、其の他約一割とする。荔枝の産出量は正確の數量はないが百萬元位と云はれる。

栽培 興化の荔枝、龍眼が美味なること古來全省に冠たるは著名の事實である。殊に近年其の栽培方法は進歩改良され、内國用の外に外國向に販賣されることになり、而して外人は之を試植しても、風土の關係上結實することが出来ぬ様であるから、此の種果實は支那の獨占であり、自ら生産過剩に陥る虞はない。莆田の産物は龍眼及荔枝を大宗とするを以て、農場の開設改良等も之等を基本として考慮するを要する。故に將來は固有果樹園の改良を爲し、即ち其の方法としては現在の區域内に、特別試驗場一箇所を設け、科學的方法を研究し、施肥、灌漑、枝切、疏花、除蟲等の試験をし、良好の結果を直接農民に指示宣傳し、栽培區域として木蘭溪と泗華溪流域は荔枝栽培に適するも、現に栽培して

ゐるのは十分の二に過ぎないから、其の他の適地に僅に十萬株を栽植し得べく、毎年之を繼續して十年後には百萬株に増加し得る。六年後に一株に付最少限度五十仙を生産するとしても、總収入は五十萬元に達すべく、十年後は一株一元として百五十萬元を収め得る。

栽培上注意すべきは龍眼栽培である。其の區域の擴充は之を山地に求むべく、従つて荔枝と全然別個のものであるが、一方家居の側に栽植するも可であり、公道の兩側に栽植すれば竝木として蔭を作るに便利である。但し風の當る高地は之を避くべきである。栽培方法に關して注意すべきは左記事項である。

第一は品種の選擇である。本縣に産する荔枝、龍眼の品種に就いては、未だ研究されてゐない。古籍には品種名を擧げてゐるが、大概散逸して之を知る山がない。只調査し得た所に依れば龍眼には、霞鶯嶺（原產地仙遊）、木南、紫魁、烏殼、普平庵（一名黃殼）、處暑、俞潭（原產地は莆田仙遊の境界に在る俞潭）、紅核仔等の種類があるが、處暑は成熟最も早く、木南は品種最も優良であることは古來著名である。荔枝には火山、丁香、水荔枝等の品種あれど、火山は成熟最も早く、四月頃には之を採取し得る。水荔枝は品質最も優良で、多く河岸に産し、酒の醸造用に供せられ香味殊に佳である。現在に於ては品種の試験に依つて、先づ劣種を淘汰し、優種を保存するを要する。又廣東産の優良な品種を適當に移植することも必要である。要するに將來は須らく、品質優良、生産多量、貯藏に堪ゆるもの又は加工に適するものを選択すると共に、早熟種に就いて特に注意を拂ふべきである。即ち龍眼、荔枝が成熟する頃には、恰も颶風襲來期に相當するまで、之に因る損失を免る爲には、早熟種の試植に就いて研究を要する。廣東の番禺、增城各地には糞米荔枝

を産するが、之は荔枝の逸品で、價格も莆田所産の丁香荔枝に比して三分の一高である。若し品種を改良するならば、斯る苗木を購入し、接木に依つて試験し成功すれば、一層優良の品種を得るのである。乾龍眼（桂圓）の生産を増加せしむることは消費市場に限度あるから、注意を拂ふの必要があり、一面早熟種を選択し品種の改良を爲し、貯藏に耐へ得るものを生産すれば、需要市場を擴張し、價格の維持が出来るのである。

第二は栽培の距離である。莆田に栽培する荔枝は、栽植距離が狭きに過ぎ、間隔僅かに七、八尺しかない。即ち當初數年間は餘地を存するも、十餘年に至ると樹幹高大となり、圓錐形の樹姿が漸次平面的に變化し、果實の生産が漸減し、收穫量を減少するが故に、其の距離を一丈乃至二丈とし、且つ一度に植付けず、先づ一列に植ゑ、結實してから他列を植ゑ、或は枯死した株を植ゑ直したりすると、將來の果樹の姿勢は起伏状を呈し、日當り及通風も好良で病蟲も減じ、自ら産額を増加する。只河岸に栽培するときは、丈が長くも枝葉は河に發展するから障礙がない。而して尙ほ其の長所としては、(一)炎熱時に農民の休憩所となること、(二)堤防を保護し水の侵入に因る崩壞を免ること、(三)空地の利用となること、(四)稻田を妨害せざること等である。又山地に栽植する龍眼は、距離も廣くない様であるが、傾斜の山地も階段にすれば、雨の害や肥料の流失を防ぐことになる。

第三は修剪である。(一)枝切りに關しては、荔枝は迅速に成長し、枝葉は能く繁茂するので、肥沃な土壤内では毎年三、四度芽を出し、七、八月頃に延びたものは十一、二月頃に蕾を結び始め、翌年清明節(三、四月頃)に花を開くが、普通の農家では多く八、九月頃に枝を剪る。龍眼は清明節前後に之を行ひ、衰弱せる枝を剪除する。専門家の言に依る

と、龍眼は花の満開の年に適宜に花を摘り取り、又は枝を剪り去ると養分が保留さるので、次年の收穫は減少しないと云ふ。此の事實は隔年結實の弊を免れるものである。故に荔枝に對しても枝切りを試みる必要がある。(二)花摘りに關して莆田の農民は龍眼の花摘りの必要を知り、毎年清明節には必ず之を行ふ。花を稀疎にすることは、結實を多くし、果粒を大にし、收穫に豊凶の差の少い様にするものである。但し荔枝に在つては花摘りの事實を聞かぬが、亦均しく疏花を實施し、養分の保有に努力すべきである。(三)果實の摘りとりに關しては、荔枝は假令花が満開しても、梅雨の季節に遭ふときは落花し、結實に大小の差を生ずる。莆田の農民は果實の摘り取りはしないから、往々一枝に數十箇の果實がなつてゐる。若し疏花の後に更に果實を適度に摘りとりときは平均して大なる果實を得るのである。即ち農民は龍眼の摘果には能く注意を拂ひ、結實後、三、四週間を経て發育不良や、密生した果實を適度に採り去るので、成熟の頃になると、果實の發育が良好で、大きさが一樣になる。

第四は施肥である。莆田の農民は荔枝に就いては、毎年二回施肥する。第一回は果實を採摘した後に人糞尿を用ひ、第二回は八、九月より十一月の間に堆肥又は河泥を用ひ、時々馬糞を使ふと良好な結果を生ずる。山腹や高地に栽培するものは、肥料の運搬が困難で、施肥が出来ないから、産出量が爲に其だ減少し、數年間僅かに三回しか豊收を見ない。龍眼の施肥も略荔枝と相似て居り幾度か行ふ。普通は小暑、秋分及大寒の三時節に肥料を用ひ、堆肥、人糞尿を用ひると同時に、豆相又は河泥を使用するが、化學肥料を使用することは未だ聞かない。其の施肥の回数、分量、肥料の種類等が果して當を得て居るかは疑問であり、故に之が試験を爲すの必要がある。

第五は苗木の養成である。莆邑では苗木の發育が困難であること、接木法が行はれてゐない爲に、荔枝の繁殖は主に高壓法を採用してゐるが、龍眼は接木法に依つて繁殖する。高壓法は清明節後に行はれるが、先づ樹齡十年乃至三十年の發育良好で結實の優秀なものを親株に選擇し、其の樹より適宜の枝を一枝選びとり、後に切斷場所に輪環狀に鋸で皮を剥き、其の幅を約一寸とする。剥皮した周圍に粘土付の稻草を捲きつけ、其の上に細かに切つた大稻草と河泥を混合したものを塗りつけて、丁度盆形様にする。次いで時間を定めて水を漉ぎ、白露節後に至り塗りつけた泥土や捲きつけた稻草を取り去つて、其の局部に肉型様の産毛然たるものが發生し居れば、枝を其の儘に截り、後其の枝に附いてゐる他の枝や葉を刈り取り、根元の部分を水に浸し、水分を相當吸収した頃を見計つて、苗床に植込み、支柱に縛りつける。而して時々水を掛けるのであるが、斯様にして培養すること、二、三年で立派な苗木となり、植栽後五、六年で結實するのである。全邑に於て最も多く荔枝の苗木を産出するのは豐美村であり、毎年七千株許を賣り出す。其の他北門外の各郷に産せらるものは、品質不良で發育遅く、十餘年後に始めて結實する。將來荔枝の繁殖及栽培面積の擴張を考へるときには、亦之は妥當、便利且優良な方法ではあるが、親株の樹に制限があり、其の上短時間に大量の苗木を培養することも出来ず、殊に廣大な栽培區域に十分な供給を爲すことは不可能である。龍眼の接木は大概自然生苗木を臺木とする。即ち種子を蒔いて後三年に至つてから移植培養し、五、六年経て始めて接木の臺木となり、六、七年後に漸く結實する。故に龍眼の收益は他の果樹に比し遅緩であるから、收益期を早からしむるには、他の繁殖法を採用すべきである。

#### 病蟲の害

病蟲害の驅除は莆田果樹事業中最も重要な問題である。之に關しては須らく農場を設立し、之が研究は

焦眉の急である。此の儘放置するときは、日々に果樹事業は衰微し、將來暗慘たるものがある。加害の最も大なるは荔枝の椿象であつて、一名庇棘とも云ひ、臭い體臭を放ち、嫩葉や果實に潜んで害を加へるが、加害されたら日増しに凋萎する。莆田の林業者林崑齡は此の問題に就いて特に研究し、哲理中學校刊に之が豫防法を公表すると共に、各教育機關を通じて、之が宣傳に努めてゐる。又廣東陳夢士の「荔枝椿象の研究（國際貿易導報第六卷第一、第三號）も大いに之が爲に參考資料となる。其の次は天牛と稱するもの、幼蟲は、長さ一寸許、背に二毛あり、全身褐色で頭は大、口堅く、樹皮の間に身を隠し嚙食するのである。嚙食された樹皮は養分の傳播が出来なくなり、遂に枯死するのである。一旦之を發見したら、除蟲菊粉を蟲穴に塞ぎ込んでやると、甚だ有効である。又此の外に果蠟と云つて、荔枝の果實が未熟の時に喰ひ込んで害を及すものがある。之が爲に果實は成熟に至らずに落下する。而して病害の最も恐ろしいのは、又露菌病であつて、果實と云はず、葉と云はず傳染するもので、之に對し慎重な注意を拂はらないときは防除の方法がない程である。

採取及運搬 荔枝及龍眼共採取法としては、果實を枝の儘で折り取つて籠に入れるか、普通鋏で果實の柄を剪るのであるが、之が合理的か否かは尙ほ研究中に屬する。

運搬に就いては由來龍眼は珍奇な果物ではあるが、長く貯蔵することが出来ず、採取した後は風通りの良き處に置けば、一日で色が變り、二日で味が變り、三日で色も味も變り、四、五日間保存すると遂に腐爛する。故に遠方に運搬せんとすれば、能く其の方法を研究するを要する。貯蔵方法に就いては、果實内細胞の生活力を保持すると共に、熱度の

運行を抑へ、新陳代謝作用を弱める様にするを要する。莆邑に於ては一冷蔵庫を設け、優良な鮮果を集め、陸續と賣却出来る様にしてゐる。成熟期に入ると冷蔵設備のある船を賃借して直接各地に送り出すが、例へば上海に荷上げすると、直に冷蔵庫に入れて長期の供給に充てる。

加工 加工には醗造、罐詰及乾製の三種がある。(一)醗造に就いては莆田産の荔枝は汁多く甘く、香味亦優つてゐるから特に醗造に適する。惜むらくは大規模な醗造工場がないので、荔枝酒が有名にならない。若し能く科學的醗造方法を用ひるならば、其の效用は葡萄酒や、ブランデーにも劣らない。(二)罐詰に就いては、比較的永く持つことが出来るが、製法が不良であるから、其の風味を保持することが出来ない。浦江に罐詰工場が一、二あるが、資本に限りがあるのと設備が粗笨であるから名譽を發揮しない。(三)乾製に就いては、龍眼は多く火焙を用ひ、其の方法は比較的複雑である。先づ採取した龍眼を竹筐に入れた儘二、三分間水中に浸してから他の竹筐に移し、次で砂と混ぜて動かすと果皮に光澤がつく。後土と煉瓦で作つた灶の上に竹網を敷き、其の上に龍眼を置く、灶は薪で火を起し熱くなる頃に時々攪き廻はし、十四時間許経つと良い加減乾いて来る。更に再び水中に入れ砂塵を洗ひ去つて後、薑黄七分、紅丹二分、細紅土一分の割合に和した混合物を其の上に撒布すると、間もなく果皮は黄色に變り来る。それを再び、焙つてから包装するのである。等級を選ぶには篩に掛けることもあるが、一籠六十斤の中には最大六斤、次大十二斤、第三番大十八斤、最小二十四斤の割合で、區別なく入れるのである。斯る加工包装は非科學的であり、且つ商業道德にも反するから、大いに之が改良の途を講すべきである。又荔枝の幹や根を水に浸すと、其の液は魚網の染料にすることが出来、往々寧波其の他各地へ運搬

されて賣捌かれる。其の利益は甚だ増加し、近頃日本は新奇な方法を以て鐵罐に詰めて居るが、將來此の副業は奪はれる虞がある。

販賣 荔枝、龍眼の買収方法に二種ある。一は果實採收前六、七月間に買主が賣主から、全般的に買占めるものであり、一は園主自ら採收して、擔を標準として賣る場合である。前者は後者に比し價格は低廉である。龍眼、荔枝を焙り上げた後は總販賣店桂元商行に賣り、桂元より上海、寧波、杭州等各地に賣捌くのである。鮮果に在つては貯藏に耐へないから、外地へ運出するのは局限されることになり、若し包装や冷藏に就いての試験が成功すれば、運銷合作社を組織し、農民自身能く品種優良なものを選択して販賣する様になるのである。故に果樹試験場の設立は、同時に合作事業を促進せしむることになる。

### (三) 漳州の龍眼

漳州の乾龍眼を桂圓又は福圓と稱し、殼と核のなきものを桂圓肉又は福圓肉とも稱する。産量は甚だ豊富で毎年移出だけで五、六千擔、金額七、八萬元あるが、若し栽培法を科學的に改善すれば、數倍の増産ある見込である。乾龍眼の移出期は毎年陰曆六月より年末迄であり、民國二十六年は日支事變の爲に、龍眼は豐收ではあつたが、移出は絶大な打撃を蒙り、僅か三千餘擔、價額五萬餘元に過ぎない。漳州の福圓及福圓肉は省内各地産のものに比し、味特に甘く、永く貯藏するも變質しないのが其の特徴で、之れ亦漳州特産物の一に數へられて居る。

栽培 漳州に盛に繁茂してゐる龍眼樹は悉く栽植したのではなく、大部分は自然蕃殖に係るものであるから、株

當の生産量も極めて低率である。時變中杜絶された販路に代はるべき新販路の開拓は固より喫緊事ではあるが、増産の計畫に對しても留意すべきである。龍眼樹の栽植は人家附近で炊煙の及ぶ所を最適とする。之は炭酸瓦斯の吸收と酸素の吐出機會が頻繁なる故に、枝幹が繁茂し、生産率も亦向上する。病害蟲驅除に就いては曩きに協和大學に依頼し研究の結果、詳細な驅除心得と方法を指示されたけれど、農民の智識は幼稚で未だ切實に勵行し居らないから、宜しく之を指導普及すべきである。施肥も農民は一種の副業と見做し、例外の收入には一向無關心で、殆ど自然の成長に委かして居る。極めて少數の施肥して居る者は毎年陰曆六、七月頃の龍眼採摘後、稀薄な人糞尿水を一回かけるだけで、餘程の豐收でなければ取へて二回とは施肥しない。

採摘 採摘は大抵自作であるが、樹數多き所は臨時採摘工を雇入れるものもある。工資は食事自辨とし、百斤に付五角で、約一日かゝるから安價なものである。方法は竹籠を背に負ひ、樹梢に攀ち登つて摘取り、一株三、四時間を要する。

産量 漳州(龍溪)全縣に於ける龍眼樹の栽植面積は、二千三百餘畝、樹數二十四萬二千餘株に達して居る。産量の多寡は勿論天時、地利の良惡に依り、俗に大年(豐收)、小年(歉收)と稱し、大年は全縣で鮮龍眼二萬五千擔以上生産せられる。乾龍眼の産量は民國二十五年の統計に依れば、福圓六千擔、價額七萬八千元、福圓肉四百擔、價額二萬四千元、合計十萬二千元に達して居る。

價格 鮮龍眼の價格は最低一元、最高六元位で、福圓百斤の製造には鮮龍眼二百二十斤、福圓肉製造には約千斤を

要する。仕上げ迄の生産費は百斤に付福圓は十二元、福圓肉は五十元前後になつて居る。福圓は採摘した鮮龍眼の葉柄を取去つて日光に晒曝し、福圓肉は更に殼と核を除き、同じく日光に晒し、共に二週間位で水分は充分發散され、貯藏するに堪へる。

移出の運賃と税金 漳州の乾龍眼は主として上海、南京、漢口に移出し、産地より移出先までの運賃、税金、口錢等は次の如く奇重である。

産地より漳州迄の扛賃又は牛車運搬賃一袋百斤に付十五支里毎に二角二分、漳州より厦門迄の船車賃一箱二百斤に付一元、厦門より移出代理商店迄の荷揚賃一箱に付三角、移出代理商店の移出手續費一箱に付九角五分、石碼營業稅即ち出口捐福圓一箱に付九角三分八厘、福圓肉四元三角、厦門出口捐百斤に付福圓二角三分、福圓肉一元〇八分、厦門海關の移出稅は定章に依り、百斤に付九角八分、厦門より上海迄の汽船運賃一箱に付一元八角、上海に於ける荷揚賃及保險料一箱に付四角、上海倉敷料一箱に付八角、上海委託販賣商の仲介料が「双九七扣」、即ち三分引の又三分引で(100-3)×(100-3)×(100-3)〓691)百元に付五元九十一仙差引かれ、正味九十四元九仙だけとなる。上海泉漳會館の補助費が「九九五控」即ち千分の五で、百元に對し五角負擔させられて居る。

營業機關 營業機關は門市商と運銷商(移出商)の兩種に分ち、漳州全市に五十數軒ある。門市商は讀んで字の如く年中店門を開けて商賣し、運銷商は陰曆下半年六、七月より年末まで製造、移出の期間だけ營業し、上半季は他種生業に従事して居る。兩商とも生産者より鮮龍眼又は粗製品を買集めて移出向きに精製し、包装の上厦門經由で輸送し、其の

額は年々五、六千擔、價額七、八萬元に達して居る。此の外に店を設けずして農民自ら其の成品を集合包装し、直接南洋各地に輸出するものを挑販と稱し、隣縣各地へ行商するものも相當あつて、年額二萬元を下らないと稱して居る(民國二十年四月十四日マニラ新聞日報)。

(註一) 劉梅嶺表録異橄欖樹高數丈、閩中尤重其味咀之香口、勝含雞舌、能解酒毒、置茶中尤佳。(福建通志) 橄欖小者名丁香、大者名柴橄欖、小者尤脆美曰碧玉。(福州府志) (物産部)

(註二) 閩書俗名芭蕉、有象牙蕉樹高丈餘、子種最甘、好者爲羊角蕉、其一如鷄卵其一如藕子(同上)

(註三) 三山志云荔枝性畏寒、群西北境皆不可種、連江之南、雖有植者、其成熟差晚、過北嶺大盛、閩產比巴蜀南無尤殊、宋蔡襄荔枝譜、荔枝之於天下惟閩粵巴蜀有之、漢初南粵王尉佗以之備方物、於是始通中國(福建通志) (卷五十九)

(註四) 龍眼一名益智、葉凌冬不凋、夏初開花、秋月成實、殼青黃色、圓如彈丸、肉白而味甘、有大如錢者、人亦珍之、曝乾寄遠氣味亞於荔枝閩書龍眼出長樂者大可寸許、最佳名長樂圓、明一統志、荔枝過即龍眼熟、故又名荔枝奴、福州各縣俱出、只附郭者佳

(同上書) (同卷)

五 其の他の果物

(一) 柿



柿木は落葉樹に屬し、葉は圓形で先は尖つて居る。晩春に黃花を咲き、雌花は雄花より大きい。夏至時分に結實し、九、十月頃に成熟する。成熟前柿の味は極めて澁いが、熟すると紅色になり風味も甘くなる。福建省では古田、永福又は永泰の二地方に産出する柿が最も名高く、古田柿には普通柿、大柿及び棗柿の三種類がある。普通柿は大きさは梅位で、次の製造工程で柿丸を製造する。十月頃收穫した柿は婦人の手で皮が剥がれ、賃銀は百箇の剥皮が十仙の割合である。剥皮された柿を日に干し、夜間籠に納めて置けば五日間で赤色に變色するが、約二週間此の操作を続ける。後亞麻袋に保存すること半箇月で白い外被が出来る。之は柿丸で市場に出されるが、市價一擔六、七元から十三元位である。古田産柿丸の年額は九千擔位で、百擔入りの麻袋に詰めて福州に運送される。

大柿は一名「卵長柿」とも呼ばれ、收穫期は中秋頃である。取立ての大柿は刺戟性に富み、食用に供せられる迄には左の二方法に依る加工をせねばならない。

蒸煮法 二百箇位の大柿を大甕に詰込んで、其の上を藁で蔽うてから、倒に大釜に伏し、釜中の水蒸氣に依つて之を蒸煮する。水は隔日に之を代へる。二、三十日すると大柿は甘くなり、五、六箇月の保存に堪へ得るやうになる。

煙煙法 煉瓦窯の上に大柿を入れてある竹編を載せて、窯で栗の皮を焼く。竹編の上方は木蓋を施して居るから、柿が煙煙され、一晝夜で食用に供せられるやうになる。煙煙柿は蒸煮柿より美味であるが、四、五日しか保存出来ないから大概地方で消費され、蒸煮柿は福州市場へ送られる。古田産大柿の年額は三、四千擔とし、價格は擔當三元乃至五元である。

棗柿は棗の大きさ位であるが、核心がない。價格は一斤二十仙、年産額は約二千擔である。核心がなく美味であるから、生産地方で盡く消費される。

古田柿の年産總額は約一萬五千擔位である。

永福柿又は永泰柿には珠柿、卵長柿、猴柿の三種ある。珠柿は眞珠のやうに圓く、永泰柿の七割を占めて居る。晩秋、初冬に收穫するが、平原産は早期の收穫であり、山地産は晩收である。珠柿は主に柿餅製造に用ひられる。中秋後の收穫物は女工に依つて皮が剥がれ、賃銀百斤に付七十鋪、一日の剥皮量三、四百斤位である。剥皮後の珠柿を日に干し、柿乾になつてから手で之を捏ねると、好天氣には三、四日、雨天や曇天では七、八日で扁平狀の餅となる。時に乾度が不足すると之を火煙にする。柿餅は乾燥した天氣と北風の吹く時に作られたものが最も良質で、雨天南風の際は火煙に附さねばならない。晩秋初冬に製造された柿餅を糖餅と云ふ。然し糖餅は部分的に乾燥して居るのみであるから、長持ちが出来ない。糖餅は百斤位を一竹籠に詰めて福州へ運送の上販賣される。冬になつてから完全な柿餅が造られるが、之は翌年の秋まで保存せられ得る。生食する場合には不熟柿を採取し、鹽水を柿蒂につけると六、七日で化學反應に依つて熟して来る。之は主に福州で賣買されるが、俗に軟柿と稱せられて居り、廣東人は之を水柿と呼んで居る。價格は一斤二十鋪、一擔三元乃至四元である。珠柿の年産額は約一萬四千擔である。

卵長柿は長くて卵形を成し、年産額約四千擔で、永泰柿總産額の二割を占めて居る。此の柿は取立ての際は酸性過多で食用に堪へず、産地の住民が之を食用とすることも至つて稀である。收穫した卵長柿は之を二、三百斤の容積ある木

箱に詰込むが、箱の内面及外面は池泥で空気の通らないやうに塗付けて福州へ運送して行く。運送期間の二、三日間に柿が成熟し食用に供せられる。価格は擔當二元乃至五元である。

猴柿は小形で梅の如く、收穫した猴柿を潰して柿三分の一、水三分の二の割合に混合し、竹網で之を濾過して得た液體が即ち柿油である。柿油は三百斤の容積ある木製の樽に入れて福州へ運送される。価格は擔當七、八元から十五元である。

古田縣、永泰縣及福州郊外の産柿年額は四、五萬擔である。(The Chinese Economic Journal, vol III, 1928)

#### (二) 林 檜

林檜樹は(實は小型のもの)落葉樹に屬し、葉は楕圓形を成し縁は鋸齒状である。春に開花するが、花瓣は五片で白色、周圍は桃色である。開花後十日で結實し、初夏頃に成熟する。實は大きな梅位であり、酸味がある。林檜の皮は酸性反應に依つて部分的に桃色に變ずる。古田縣に多く之を産し、年額二千擔位ある。価格は最高一擔三十三元から最低十元迄種々ある。古田縣でも大壠郷の林檜が最も良く、年産額二百擔位である。

植付法は播種するか、又は挿木するかである。播種すれば五年經過すると五尺以上に延びて結實をし始める。挿木は林檜樹の枝を三尺に切斷して之を挿せば良い。

林檜の收穫は年二回であつて第一期は六、七月頃成熟する。收穫後一箇月経つと又開花し結實する。第二期收穫は一期より小で風味が劣る。林檜樹は三丈位の高さを有するものもあるが、普通は一丈八尺位である。包装方法としては百

斤を一竹籠に詰める。大概産地で消費するが、五、六割方福州へ賣出す。生食用に堪へないものは、之を干して乾林檜とし農民は之を嗜む(同上)。

#### (三) 李

李樹は落葉樹に屬し、高さ一丈以上に及ぶ。春に開花し成熟すると赤みがかつて来る。福建省では永泰と福州が主なる李産地である。永泰李の中には夫人李と胭脂李がある。

夫人李は永泰市街の上手地方の生産に係り、色は緑で、永泰李の約七割を占める。初春が開花期、開花四、五日後に結實し、盛夏に成熟する。夫人李の著名産地は永泰縣佈埕郷である。鹽李とは鹽水に李を浸して後之を日干にしたものである。胭脂李は永泰市街の下手地方の生産に係り、永泰李の約三割を占める。永泰縣太原郷が名産地である。初春に開花、夏至時分に成熟するが、夫人李より風味が佳い。而して福州李の九割迄が胭脂李である。年産額二、三千擔に對して永泰李は一萬擔位、福州、永泰縣其他の總産額は二萬擔以上で、価格は擔當四、五元から十三元迄であるが、七、八元が普通相場である。福州で小賣され居るのは大概鹽李であつて、一箇當八鋪乃至十鋪である。(同上)

#### (四) 桃

桃樹は落葉樹に屬し、高さ一丈以上に及ぶ。開花期は初春で、白色又は紅色の花が開き、成熟するのは夏至頃である。産地としては閩江口に在る下江、福州の南港及び閩清附近等である。種類に崗桃、白桃、黑桃等三種があり、白桃が最も普通であるが、味はさう良くない。崗桃樹は山地に生長し、實は大きく、紅色の斑點がある。其名産地は鳳崗裡であ

つて、其の風味は佳良である。黒桃は黒色を呈し、龍頭郷又は閩江口附近に多く之を産する。福建省の桃産總額は年に六、七千擔、價格は擔當最高十五元から最低七元迄である。福州小賣は主に鹽桃を販賣し、一箇に付八乃至二十鋪である(同上)

## (五) 枇 杷

杷枇樹は常緑樹に屬し、高さは一丈以上に及ぶ。初夏に成熟するが、實は圓形黄色で酸味があり、閩清の下手に在る文山下郷が最も著名であり、全省に冠たるものである。水口の下方に位する源裡郷、上岐郷も良質の枇杷を生産する。價格は擔當十五、六元から八、九元迄である。省内産には限りがあり、五月頃になると上海から移入せねばならない。(同上)

## (六) 栗

栗木は落葉樹に屬し、高さ四、五丈に及ぶことがある。初夏に開花、晩秋、初冬に成熟する。永泰縣が省中最も有名な産地で、年産額一千擔以上あり、建甌縣、南平縣からも各數百擔を産する。最高價格は擔當二十元で最低は十元である。生食することが出来るけれども、小賣人は之を焼いて賣る。又鶏、家鴨、羊肉と共に煮て料理する。乾栗は美味でないから流行らない。(同上)

## (七) 楊 梅

楊樹は常緑樹に屬し、高さ約一丈、春に開花、夏に成熟するが、實は他種の果實の如く果皮がなく、小粒の集合體を

成し紅色を呈する。形態及色彩からして福州では珠紅と呼ばれ、閩江口を圍繞する地方に其の産出多く、年産額一千擔以上に及んで居る。就中馬尾の山を越えた君竹郷の産する楊梅は最も有名で、暗紅色を呈し、他地産のものより酸味が薄い。酸味を除去する爲に楊梅を鹽漬にするが、生産地では楊梅を砂糖で煮て食用に供し、舌障りが良く長持ちも出来る(同上)

## (八) 芋 蕒

芋蕒は一名尾梨とも云ひ、水生多年性植物で、幹は管形で綠色、二、三尺の高さに延びる。球莖は地下の枝先に出来る。福州の年産額は一萬擔以上、價格は三元乃至五元である。果物店では尾梨を剥皮の上、一箇二、三鋪で小賣して居る。芋蕒の液汁は癩疹の良薬とされ、癩疹流行期には價格が高騰する。(同上)

## (九) 菱、藕

菱、藕共に池中に産し、菱には三本刺のものと四本刺のものとがある。中秋頃之を産するが、福州の年産額は六、七百擔位で、一箇三乃至五鋪で賣られ、魚肉や豚肉料理に使はれる。

福州藕の年産額は約九百擔、價格は一オンス五、六鋪より十六鋪迄である。夏に之を産し、中秋頃になると之を求める事が出来ない。建寧府下各縣に之を産するが、藕の種子である蓮子は、之を日干しにして一擔二十元の價格で福州に賣込む。(同上)

## (十) 落 花 生

落花生は長生果とも呼ばれ、夏から秋にかけて開花する。福清縣は此の名産地で、縣下の龍田、高山市、漁溪、東張、海口等五地方から年に十萬擔を産する。価格は一擔七元乃至十元で、燒煮兩法に依つて食用に供せられる。落花生から落花生油を抽出し、福清縣に於ては二百の搾油所がある。福州電汽公司では電力に依つて落花生油を抽出してゐる(同上)。

第四 甘蔗

一 產地及種類

甘蔗の産地は本省の西南海に面する詔安、雲霄、漳浦、平和、海澄、思明、龍溪、南靖、長泰、同安、晉江、南安、永春、德化、惠安、莆田、仙遊等十餘縣である。就中閩南の龍溪、南靖、海澄、思明一帶の産額は全省の半ばに達すると云はれる。甘蔗には在來種と外國輸入種とがあり、在來種には亦大蔗(白蔗)と竹蔗とがある。福建通志物産の部には赤き者を崑崙蔗と云ひ、白き者は荻蔗と云ひ、土人は搗して其の汁を取つて以て糖を爲ると記し、泉州府志には幹は小にして甜薄きものを名けて荻蔗と云ふと記してゐる。竹蔗は主として製糖に使用し、堅くして食用には適せず、大蔗は節長く刈取りの時は七、八尺に至る。前者に比して皮肉共に柔軟なれば其の健食用に供せられるが、小溪地方では製糖原料としても大蔗の栽培盛んである。大蔗は水利の便多き土地に栽培せられるが、竹蔗は多く水分を要しない丘陵、干田等に栽培せられる。即ち漳州北門外竹蔗園又は小溪沿岸には大蔗の栽培を見るのである。大蔗を原料として製造した砂糖は輸出向であるに對し、竹蔗を原料として製造した砂糖は内地消費向である。大蔗の産地は漳州地方の湖南、塔脚、天

寶、南靖、山城、下渡等であり、小溪地方は小溪の外に高際、坂仔、双溪、南勝、山格等であり、竹蔗の産地は漳州地方の北頭、番丁坂、烏頭門、烏石、下高溪、下世保等である。

白蔗の産地は福州市西門外の一地方と連江である。洪山橋の一地方が特に名高かつたので、甘蔗又は柑糖郷と呼ばれて居る。然し清朝時代に甘蔗の害虫の襲來を受けてから、植桑に轉向した。西南港にも之を産する。最上等の白蔗産地は福州西門外の馬鞍郷で、同地の白蔗は纖維細く、蔗液が多くて嚼み易い。馬鞍郷の年産額は五萬把(一把は十本)以上ある。連江蔗は長さでは馬鞍郷蔗に優るが質は劣る。白蔗は中晩秋頃を除けば、年中之を産するが、特に初春後が最も多い。市場では三寸乃至五寸位に切断して賣られ、年々多量の白蔗が上海や浙江省に移出される。白蔗は一名青皮蔗とも云ひ、甘味は稍薄いが蔗幹は幾分大である(福建通志、泉州府志(萬曆版)各物産部)。

外國輸入種は豪蔗と云ひ、即ち臺灣或は爪哇より輸入したものである。之も亦若干種に分れる。竹蔗と豪蔗の含糖分を比較すれば左表の如くである。

竹蔗、豪蔗含糖分比較表 (每百斤中)

種別	物質		分	糖	渣	水	分	合	計
	糖	分							
竹蔗 (本地蔗)	一〇	一〇	一三	二七	三〇	六〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
豪蔗 (外國蔗)	一〇	一〇	一三	二七	三〇	六〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

(民國二十四年調查福建建設報告第六冊附錄第二)

甘蔗の栽培は禁烟政策に依り罌粟栽培が禁止せられた當時、砂糖の市況活氣を呈し、自然甘蔗の作付面積を増加した。蔗苗植付期は其の壓搾製糖期と同時であるから、十二月初旬より翌年五月中旬に至る間であるが、其の最も適當の時期は一般に十二月より翌年三月中である。良好な甘蔗は其の尖端葉と肉との間を少しく内に切り込まんとする所より切斷し、之より六、七寸を又切斷し蔗苗とするも、優良な所要の甘蔗を得ることの出来ぬ場合には一箇の苗を切斷したもの、下部五、六節を取りて苗とし、其の年の所要数を充すのである。斯くして得た苗は之を一晝夜水中に浸し芽の發育を促すと共に、糖分を減退せしめ、害虫の附着を防ぎ挿苗する。其の数は我が一坪平均五本位である。

漳州地方に於ける甘蔗の植付は、多く蕃薯と共に輪作せられ、蕃薯を引續き二年植えた跡に蔗苗を植ゑ、收穫期に刈取り、翌年に至れば其の殘株より新芽を發する。之を機出と稱し仕立て、收穫することを得るが、初年苗より成長したものに比し結果は一般に不良である。

甘蔗は刈入を終ると同時に植付を要する爲に、刈入後直に土地を耕耘するが、其の方法には洋犁式及在來式があり、洋犁式は爪哇、臺灣等の如くに専ら大規模の製糖地に採用せられるが、支那では尙ほ在來法に依るものが多い。而して植付準備終れば畑中に大豆粕等を振り込み、下層犁と稱するものを以て更に其の内部を耕し、下根に便すると共に一方施肥の目的を十分に達せしむる。肥料を投入した後下層犁の使用完了すると共に、蔗苗を溝中に投入し一列に之を植付け、而して蔗苗の間隔は一間に五本を普通とする。

十二月に植付けたものは三月頃には長さ一尺五寸位に成長し、三月頃より温度の昇騰に伴ひ、其の發育益々大となり、其の約一尺成長する毎に除草と施肥とをする。除草を終れば一週間以内に於て手鋏を以て其の芽を距る三寸許りの點を鋤き削りて豆粕等を施すのである。斯くして第一回に左方をすれば、第二回には右方にする等根の發育を平均せしめる。除草と攪土との爲に攪土器を牛に牽かせ、其の株間は鋤鉞を以て削り取るのである。株間の除草は年二回とする。甘蔗は舊曆十一月末より正月に掛けて盛んに刈り取るが、三月にも便宜刈り取をする。刈り取りの際は六、七尺の高さに達する。而して一百本の甘蔗苗は大蔗一千斤を出すも、竹蔗は五、六百斤を出ない。

## 三 生 産 關 係

福建甘蔗の生産額は既述の如く作付面積十七萬七千畝、收穫高四百一十二萬擔であるが、最近建設廳の一調査に依れば、土糖の平均産額五十萬擔を甘蔗に換算すれば、約七百萬擔で遙かに多いのである。

畝當り産額は栽培距離及生育状況より計算するに、甘蔗毎本の占むる面積を約六平方尺とし、一畝には約一千本栽培出来る。一本の甘蔗は植付けてから二季(一年一季)で收穫する。第一年收穫の時一本から分蘖五條を出し、一條の甘蔗一斤とすれば、一本の甘蔗から五斤を生産することになる。即ち甘蔗一千本で五千斤即ち五十擔となる。之が竹蔗一畝當りの産額である。臺灣蔗は竹蔗と同じく、旱地に栽培すれば畝當産額は略竹蔗と同じである。水田に栽培すれば竹蔗よりも多く、人工肥料を施すから竹蔗に比し十分の一を増收し、即ち畝當り産額平均五十五擔前後となる。生産費に於いての各地毎年の甘蔗畝當り平均計算は次表の如くである。

畝當り生産費表

費用項目	竹		蔗		臺		蔗	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
蔗苗	一、〇〇〇本	三・〇〇元	一、〇〇〇本	七・〇〇元				
肥料 (豆粕)	五畝	八・五〇	六畝	一〇・五〇				
勞力 (人力及畜力)	二〇日	一〇・〇〇	二二日	一一・〇〇				
地租	旱地一畝	四・〇〇	水田一畝	八・〇〇				
其他雜費		二・〇〇		四・〇〇				
合計		二六・〇〇		三六・七〇				

備考 蔗苗は一回栽培し二年で收穫するから毎年の費用は其の二分の一となる。

即ち右に依れば畝當り生産費は竹蔗二十六元、臺蔗三十六元七角となる。竹蔗の一畝産量は五十擔、一擔生産費は五角二分とし、臺蔗は各五十五擔、六角一分二厘である。而して甘蔗一擔の時價は四角五分から六角五分位、平均五角五分である。即ち生産費と對比すると此の程度の價格ならば農民に若干利益はある。臺蔗は數甚だ少く参考とするに足るべき價格の材料がなかつたが、見積りに依れば一擔約七角である。

(總計は各費目の合算と一致せざるも略く報告書譯文の儘とす)

甘蔗の生産費及價格に依り收支を比較すれば左表の如くである。

竹蔗 (一畝)		蔗臺 (同)	
收入	(五十擔として一擔五角五分)	收入	(五十五擔として一擔七角)
支出	二七・五	支出	三八・五
純益	二六・〇	純益	三六・七
		純益	一・八

(南支調査資料編建 建設報告第二輯)

四 甘蔗の改良

本省の甘蔗は優良品種の栽培を普及獎勵すべきであるが、只現在糖業先進國たる爪哇、臺灣共に、糖業の競争を防止せんが爲に、蔗苗の輸出を嚴禁してゐるから、外國より優良蔗苗を獲ることは非常に困難である。然るに幸南部地方には民間で曾て臺灣、爪哇から輸入した爪哇蔗種があり、建設廳の調査員に依れば、品質優良と認められてゐるが、其の數量僅少の爲に價格騰貴し普及し難いとのことである。仍て建設廳は民國二十四年春特に漳浦縣民營豐祥農林公司に委託

し、爪哇の大叢種一萬株を培育せしめた。此の價額は三萬五千元で、之を一般蔗農に配布し栽培せしめた。第一年の改良面積は一萬畝であるが、今後繁殖と普及に努力せば、本省の品種を近く全部改良することが出来る。

本省一般の蔗農は多く生活困窮、資金缺乏の爲、肥料購入の力がないので、肥料商から前借して其の高利の搾取に甘んぜざるを得ないのである。之が爲に建設廳は蔗農救済の目的を以て民國二十四年春特に銀行より借款し、本省農村金融救済處に託し、職員を産糖區域に派し、蔗農互助社を組織せしめ、低利貸付を爲さしめたのである。先づ仙遊、莆田二縣より試み、畝當り肥料費八元を貸付け、第一期分として既に四萬元の貸付をした。貸付栽培面積は五千畝である。同時に職員を派し栽培品種を鑑定せしめ、臺灣改良種に限り栽培することにした。又救済手段を施す傍ら、品種改良の意義を徹底せしめ、一般蔗農は皆非常に活氣を呈して來た。只同年は經費に制限があり、貸付は僅かであるが、民國二十五年よりは更に其の區域を擴張する豫定で、現に本省農村合作指導員と接衝し、産糖地たる龍溪、漳浦等の縣に蔗農合作社を組織し、改良品種の配布及低利貸付を爲すべく準備した(同上)。

##### 五 福建蔗桐製糖場の改良蔗栽培

福建省建設廳の囑託である製糖場計畫者の南安縣人徐瑞霖の説明に依れば、長泰縣に於ける改良甘蔗業の奨励に就いては、曩に民國二十三年より開始したが、先づ蔗苗培育に従事し、翌二十四年末迄には二八七八、二八八三、二九五二、二二七五二、Demerara 五種の最優良蔗苗百餘萬本を育成し、二十五年内に之を農民に配給し、其の栽植土地一千餘畝に達した。此の方針を以て進行せば長泰縣の在來種甘蔗栽植を二十七年内に全部廢止し、改良種甘蔗に植替へて

も、其の蔗苗を自給自足の域に達することが出来る。

二十五年内始めて蔗苗を農民に配給したときは、改良種の主唱者は一萬本三十五元に購入した蔗苗を僅か二十五元で農民に配給し、十元宛の損をした位である。元來主唱者は農民の甘蔗收穫時には製糖場を設け、農民より甘蔗一擔に付四角五分を以て買収することを約定し、主唱者は豫定計畫に基き、産蔗が未だ新式白糖製造機械を据付ける程の供給に足らざる故に、厦門製の舊壓蔗機を以て蔗汁を壓取し、黑糖を煮製する新舊混合製糖法を採用し設備に著手した。然るに製糖場の設備完成するに及び、恰も黑糖の市價騰貴し、栽培農民は自身製糖に従事せんことを要求する者甚だ多く、製糖場側も壟斷の誤りを避くる爲に、農民等の任意に委せ、就中奨励の爲に製糖場に賣納する甘蔗に對しては一擔八十仙の高額を支給した。而して二十五年内に改良種甘蔗を栽植した農民の一部は、始めての試植で手入法に熟せず、或は技術員の指導を完全に勵行せざりし爲成績稍不良で、製糖場側にして若し高價を以て之を買収せざるに於ては、農民は栽植の興味なく、改良蔗の發展を阻碍すべきを慮り已むを得ず犠牲を拂つた。即ち製糖場側は高價な原料を買収する外、運搬費、生産費、事務費及製糖場設備費の利息等を負擔し損失は少くなかつた。然し農民は栽植の經驗に依り漸く改良種の在來種に優ることを知り、二十六年内には自發的に改良種を増殖する者約二倍以上に達した如く、一兩年中には難なく長泰縣の在來種を悉く改良種に植換ふることが得べく、従つて長泰縣に於ける改良種奨励も成效の見込があり、主唱者は損失を招くとも以て慰むに足るものがある。

二十五年内長泰縣に栽植した改良種の蔗苗は各郷に配布され、蔗園間の距離五、六十支里に互るる所もあつて、管理

上困難な上に、運輸も人夫の負擔と淺吃水の小船(三十擔積載のもの)に依り甚だ延滞し、運搬費莫大に上ると共に、糖分の發散損失も亦少くなかつたのである。斯く長泰縣の甘蔗業は白糖製造を目的としては未だ其の域に達せざるも、然し最終の目的は白糖の生産に存し、之が爲には將來原料供給の場處等に就き、將來は適當の地質、十分發展せる集中面積、優良なる水利、既成の便利なる交通機關、當地人士の合作等に注意すべきである。

更に調査の結果に依れば、同安縣下西南區角尾の過坂地方は、最も甘蔗業の發展に適合することが明かになつたので、該地を將來自糖製糖場の原料供給中心地と爲し、民國二十六年春より先づ田地を賃借し三百畝に蔗苗を培育し、十一月には此の蔗苗を以て蔗種三千畝の栽植に充當し得るものとする。

該地の甘蔗栽培適地たる特徴としては、左記の如き各點を掲ぐることを得る。

- (イ) 農業技術鑑定の結果、地質は濃灰色、沙質壤土で肥沃、且つ灌溉、排水も植蔗に適すること。
- (ロ) 同地附近一帯は田地廣く、荒地も多きに反し、人口少く實に甘蔗業發展の優良場所であり、豫定計畫三百噸の白糖壓蔗機の需要に十分なるのみならず、擴張の可能性もある。
- (ハ) 水利も天恵的で、該地には天池山と云ふ水源があつて、冬季でも水は喝きず、支流は數多く分布し、一向水災の患なく、假令大旱魃に遭つても支流に依つて灌溉せられる。
- (ニ) 交通方面には福漳、漳厦兩長距離バスの本線が角尾で連接し漳州に入る線路ある外に、漳厦鐵道に間近い。同鐵道は既に軌道を取外づして、經營を停止してゐるが、路基を改築すれば將來甘蔗及砂糖運搬に利用せられ、蔗園も海を

隔たること數支里に過ぎず、水運も亦便利である。

(ホ) 地方人士とも疾くに折衝してゐるが、改良蔗栽植に對しては何れも常に歡迎してゐる故に、彼等との合作は何れも難事ではない。

角尾に甘蔗を栽植するは、勿論白糖製造場の設置に存するも、設置前に先づ原料經營に主力を注ぐを要する。由來角尾の農民は改良蔗に對する認識未だ淺く、之を強いて試植せしめても耕作法と手入法等未熟の爲に、收穫に影響すること必ず甚大である故に、主唱者は先づ蔗苗培育に著手し、農民に範を示し、蔗苗の成育を俟つて豫定計畫の三千三百畝に栽植し、以て五百噸の白糖壓蔗機(毎日二十時間)の需要に應ずべきである。此の植栽地三千三百畝の中、苗床三百畝に繼續栽植する外、新植地三千畝の中二千畝を基本蔗作農場として自作し、五百畝を地方人士の組織に係る組合農場に、残り五百畝を廣く農民に配給試植せしめ、經驗の上は效果著しく、農民は必ず廣く之を栽植するに至る。

本計畫に於ける民國二十六年度所要資本七萬六千二百八十八元中、蔗苗々床三百畝及自作蔗畑二千三百畝の創設費九千三百五十元、蔗苗培育及全體の事務費二萬三千八百元、三百畝培育の蔗苗代及自作蔗畑二千三百畝の蔗苗代の内金一部三萬一千六十元を計上し、次で二十七年所要資本四十五萬八千五百元中、自作蔗畑二千三百畝の蔗苗代の内前年度支出外の殘金七萬二千三百二十五元を計上してゐる(福建蔗桐製糖場民國廿六七年度進行方案)。

## 第五 茶

### 一 概 説



支那に於ける飲用は古く漢代に在るが、其の風が盛に起つたのは唐宋代である。福建は著名の茶産地で歴代茶に關する文献多く、茶經、茶三山志、唐書地理志、八閩通誌、其の他に記述があり、殊に宋代に其の名が顯はれたのである(註一)。八閩通志には「福州諸縣皆之あり、閩の方山、鼓山、侯官の水西、懷安の鳳崗山尤も盛にして、延平府各縣俱に出づ。南平半岩は尤も佳、邵武府光澤、泰寧二縣も多く、福寧州に出づるあり、建寧八縣皆出づ。而して龍鳳、武夷二山出る所のもの尤も絶品と號す。宋蔡襄茶錄あり、泉州府七縣皆あり。而して晉江清源洞及南安一片瓦産は尤も佳、漳州府汀州府出づるあり云々」と記するが如く、少くとも福建茶の起源も唐以前に在る。宋史食貨志には「建寧の臘茶は北苑を第一とし、其の最も佳なるものは社前と曰ひ、次を火前又は前雨と曰ふ」と記し、元代には武夷茶に天下の名聲が集つたので、建寧は注意を喚起することが少くなつた。閩小紀には「武夷、劣前、紫帽、龍山皆茶を産す、僧は焙に拙、既に採れば則ち先づ蒸して後焙る、故に色多くは紫赤なり。之より先、建州より茶を貢す、首として北苑龍團を稱す。而して武夷石乳の名未だ著はれず、元場を武夷に設けてより遂に北苑と並び稱せらる。今は則ち只武夷あるを知り、北苑あるを知らず」と變遷を述べ、明代には建茶が再び復興した。明史食貨志には「天下の歲額只四千二十二斤にして、福建は二千三百五十斤、建茶貢する所に探春、先春、次春、紫前及薦新等の號あり、則ち建茶は固と天下に甲たり。」と記し、又閩中記には「往時建茶未だ盛ならず、本土之あり、今は則ち土人皆建茶を食す。」と記してゐる。前清に及んで本省の産茶は漸く外國人の歡迎を受くるに至り、殊に武夷(武夷)は優品を出したので、地名 *Bohea* は

茶名を代表し、英國詩人サツカレイの *Vanity Fair* の中に *a cup of Bohea* の句がある通りである。

茶の名産地武夷は福州の北西百五十哩を隔つる仕出地であつた。廣東へは陸路六百哩を去り、迂回の不便があり、従つて開港前の一八三二年リンドセイの記録に依れば、茶の運搬を海路に改めれば、其の輸出費一擔に付四兩を節約し、一箇年約十五萬擔で價額六十萬兩を利し得べしとあり、開港後一八四五年六月英人グリーンが輸出茶の仕入をし、綿布の賣込を爲す目的を以て福州に居住した當時、尙ほ福州茶は其の直輸出を禁止せられ、總て陸路輸送に限り、福州に移入したものは獨り地方の消費に止つたのである(註二)。其の後英國商人は帆船で福州の馬尾に来て茶を積込み、當時二隻のサーモフィロウ號及サーランセロト號は最も速力早く、福建より英國迄僅かに八十九日で到着し、又米國船のカセー號は福州より紐有迄百一日で到着したとのことであるが、其の後一八七三年より漸く汽船の積取が始まり、福建より英國に到るには三、四十日に短縮された。

清光緒の初年は全省茶業の最盛時代で、茶の外國貿易も發達したが、近年は下記事情に依り茶業は衰微し、現在當局は之が恢回策に就き研究努力してゐる(民國二十五年五月福建建設報告書第十冊)。

(註一) 武夷茶の起源は宋代(九六〇年)に存し、其の産地名は當地茶業の開祖である支那古老の人名武(Shi)、夷(Shi)から出たので、兩名は死後茶神として祭られ焚香が絶えぬ。茶山の周圍は約百二十支里で、其の間二十箇所乃至二十五箇所の地の中で、優良種を産するものは數箇村とし、地主と茶農が棲んでゐる。就中高松(Sheng)が市場の中心である。當地産茶の最上等品は一斤百二十兩に上り、最下等品は一斤二十兩である。摘採期は年四回とし、第一期の一春は舊曆四月半迄、第二期の二春は其の後五月初迄、第三期の三春は其の後一箇月内に、第四期の秋露は初秋である。當地支那人の言に依れば、一

株から綠葉二斤を得るが、時には十兩約百斤乃至一斤のことがある。ゴルトンの説に依れば、每株から年乾葉一兩を得るは綠葉五兩に當る。又一畝(一千平方ヤード)内に三百株乃至四百株を栽植すると云ふ。福建志に依るも「武夷茶佳者、曰三喬松、一本山年所出不過三觔(斤)許、一觔人皆用銀瓶、止一二錢、一茶之妙、可三烹至三六、七次、一次則有二次三之香、或蘭、或桂、或菊、或茉莉香種不同、眞天下之第一靈芽也」と記してゐる。

(註1) The Chinese Repository vol. 11. pp. 545. op. cit. v. 1. xv, pp. 511

(二) 福建茶業の農業經濟上の地位

福建省の茶栽培は現在尙ほ農家副業の一に過ぎず、大規模の茶園經營は極めて少く、従つて農業上特殊の地位に在る。其の農業上の特徴としては、(イ)傾斜地を利用し得ることである。即ち主産地は何れも高山、峻嶺、溪流の發源地で、武夷の武夷茶、建甌の水仙茶及政和、安溪の烏龍茶等の如きは、悉く最も高き山峯の人跡稀れなる處に在る。而して其の利用し得る傾斜度は三十二、三度以内とし、一切農作物の栽培不可能なる土地にも茶樹は反つて生育佳良である。本省總面積十一萬二千九百餘平方呎中水田、旱地を除く荒蕪山地面積八萬八千六百五十一平方呎を以て、之を利用し茶樹を栽培すれば著しく茶の生産額を増加し得る。(ロ)小資本で収益多きことである。即ち傾斜を利用するから、他の作物の如くに土地の制限を受けず、隨所に栽培し得る。農民の多くは住宅附近の山麓、園圃の傍に一家十株位の植付をし、資本も勞力も掛けず、間作にして極めて粗放で利益を擧げ、本省茶業の純収入は畝當り平均二元以上も收め自活してゐる。(ハ)管理及製造が簡單である。即ち茶樹は多年作物で、一度種植すれば他作物の如くに苗木を育成し、又は播種する必要もない爲に、著

しく手数が省ける。茶農は茶樹に對し毎年摘み採る一方で、施肥又は中耕、除草もせず、極めて不完全な粗放經營の下で尙ほ且つ利益がある。而して製茶に就いては、茶農は悉く毛茶の自製に堪能であるが、其の量は少く、普通一戸當り毛茶の年産額數十斤とし、製造設備もあまりなく、大部は家内小工業で、家々の婦女子が茶摘と製茶の選別を兼ねて居る。

尙ほ生産上の地位としては、(イ)産地が普遍性であることである。即ち本省は各地に茶産區域があり、他の農作物の地域及氣候の制限を受くるに比し栽培が自由である。(ロ)栽培面積を擴大し得ることである。即ち本省の茶園面積を合算すれば、既耕地面積の約一割、全面積の約五分を占め、他の主要農作物作付面積に比して大差がない。(ハ)茶に依存する者が著しく多きことである。即ち茶の生産から販賣迄には、農工商の三界に互り、往年盛時には茶業に倚り生計を樹つる戸數は三、四十萬を下らなかつたが、最近民國二十年本省民政廳の統計に依れば、本省百八十一萬八千餘戸中茶業に従事するものは其の約一割である。

(三) 栽培面積及産額

本省には前述の如く、大規模の茶園なく、又畑地は平坦廣濶でなく、多くは山の傾斜地又は畑の隅等に散在してゐる爲に、精製の統計を得ることは困難である爲、諸調査が區々であるが、最近の福建省の調査に依れば、茶の植付面積は十二萬二千餘畝、産額年九百三十五萬餘斤に達し、内綠茶は約五百萬斤、紅茶は約四百三十餘萬斤を占めて居り、國民政府主計處の調査に係る民國二十一、二年に於ける各地別茶葉生産額は左表の如くである。(單位擔)

縣別	茶葉生産量		縣別	茶葉生産量	
	二十一年	二十二年		二十一年	二十二年
部武	二五〇〇〇	一七五〇〇	屏南	三二〇〇	二八〇〇
安溪	二五〇〇	二〇〇〇	和平	七五〇	七五〇
清源	一〇〇	九〇	連江	八五〇	七五〇
羅德	一五〇〇〇	一五〇〇〇	福鼎	三〇〇〇	三〇〇〇
南安	二五〇〇〇	二四〇〇〇	福安	一五〇〇〇	一五〇〇〇
南平	一〇〇〇	一四〇〇	浦城	六五〇	六五〇
政和	二〇〇	二〇〇	松溪	一六〇	一〇〇
建甌	六七〇〇	六〇〇〇	總計	一四三九五	一四三〇〇
和洋	六〇〇	六〇〇			
建甌	六二〇〇	六〇〇〇			

(民國二十六年一月朱斐予中國茶業)

(四) 產地

本省産茶の區域は行政區劃、販路、河流に依つて其の分布が定まる。

(イ) 行政區劃に依る産地

行政區劃に依つて分てば、第一區北部の羅源、寧德、福安及福鼎各縣は産茶頗る多く、第二區東部の古田、屏南二縣も産茶の大宗である。第三區中部の建甌、建陽、松溪、政和、壽寧、邵武及崇安の七縣の産茶は又著名であり、第四區

は安溪、永春の二縣のみであり、第五區は只平和の一縣に過ぎない。第六、第七區には産茶がなく、時々見受けられないことはないが、餘り重要ではない。要するに第一、第三兩區が最も多く、其の他の各區は少量を産するのみである。

更に縣別に就いて見るに、茶の主要産區は先づ大別して前述の如く東部、北部、南部の三部とし、東部茶産區は福安、寧德、羅源、霞浦、福鼎、壽寧、古田及屏南の八縣、北部茶産區は建甌、建陽、崇安、邵武、政和、松溪及沙縣の七縣、南部茶産區は僅かに五縣のみで、安溪を中心とし大田、永春、平和及南安の各縣である。之等各縣中福安、寧德、壽寧及安溪各縣は生産高及茶樹の分布が最も多く、就中福安縣の如きは各區郷に茶の作付があり、他縣は之に追隨し得ない。

(ロ) 販路に依る産地

茶販路の方向より見れば、本省茶區は西、東、北及南の四路に分たれるが、普通大別して南(東を含め)、西及北の三大路に分つて説明される。

南路茶は安溪、古田、沙縣、永春、南安等及其の附近を主とし、烏龍茶を以て代表し、産額は安溪が最も多く年額二十萬元に上る。閩南各地の産茶は自給の外南洋群島に輸出して居る。然れども従來賣捌良好であつたが、近年世界的不景氣で、購買力減少の上價格著しく昂騰し、爲に販路を臺灣茶、爪哇茶に侵蝕され立足餘地なき程までに萎縮した。此の茶の種類、製法は別に一派を形成し年産數千擔に過ぎぬ。

西路茶は崇安縣武夷山茶が代表し、品質佳良で其の盛名を夙に内外に馳せたが、山嶺崎嶇、交通不便で運賃を加算すると原價高貴の爲に賣行悪しく、産量も遙かに北路茶に及ばない。

北路茶は福寧府屬(閩東)五縣産出のもので、品質優良なるも、只製法不良及氣候、土壤の關係で、西路茶より稍遜色がある。但し産額は約五萬五千擔乃至六萬擔に達し、整理と改良を施せば、必ずや上等茶に列せられ、産量も亦増加すべく、交通は便利で三都沙埕から即日福州に到着せられ大に發展の餘地がある。

(ハ) 河流に依る産地

茶樹の分布は多く山河に關係して居る。茲に福建省内河流の存する各縣に就き、其の占むる所の地積の廣狹に従つて左に列記する。

閩江流域 此の流域は將樂、順昌、南平、建甌、古田、閩清及尤溪の諸縣を含み、皆茶樹を栽培をして居る。就中古田、建甌の二縣の産區分布が最も廣い。

東溪流域 此の流域は僅かに福安、壽寧の二縣に止まるが、産茶は極めて豊である。

晉江流域 此の流域は安溪、永春、南安及び晉江の諸縣を含み、就中安溪産區が其の分布最も廣く且著名である。

龍江流域 此の流域は龍岩、寧洋、漳平、華安及び龍溪の諸縣を含み、均しく産茶區域である。

要するに以上區分中全體の産區に就いて云へば、福安、安溪、寧德及び壽寧の四縣が其の産量最も豊富であり、就中福安縣は其の産區分布最も廣く、全縣の産量は最近の統計に依れば、約六萬擔である。而して該縣産茶の重要な各區に就いて云へば韓陽區、東溪區、西溪區、穆洋區、賽岐區、甘棠區、黃岐區等であり、其中賽岐、穆洋及黃岐の三區が其の分布最も廣く、全縣の山野、圃園等には凡て茶樹が見られ、其の栽培の普遍なるは他に比類がない。

(五) 茶の種別

福建茶の種類は凡そ土地の習慣、葉形、色澤、品質、産地、採期、製造工程、其の他に依つて區々雑多に分たれてゐる。

(イ) 主として葉形、樹姿等に依つて分つもの

此の分類中には茶茶、春茶、種茶、叢茶等がある。茶茶は武陵雪山に産し、高さ三、四尺、茶樹は餘り茂らず、葉は細長く、縁は鋸齒狀が少く且つ淺い。年四季の收穫があり、春夏は最も良く、寒氣と霜に能く堪へる。春茶は福安縣一帶に産し、縁の鋸齒狀は深く密である。樹齡は十餘年に堪へるが、五、六年で老幹を伐つて新木を生長せしむる。摘採は年二回である。種茶は高さ約三、四尺、葉は長扁で稍楕圓形を呈し、縁に鋸齒があり、葉の表は青く、裏は稍白色を帯びてゐる。叢茶は武夷岩に密生し、高さ約一尺餘、縁の鋸齒狀及葉の厚さは普通で、樹齡は數十年以上に達する。年三、四回摘採出来る。

(ロ) 葉の色澤に依つて分つもの

普通の分類では紅、綠、青、白の四種がある。青葉は即ち巖茶で、武夷産が優種である。白茶は白毫と銀針の二種があり、舊福寧府内の産が優種である。政和縣志には「茶に種類あり、名稱凡そ七、一を銀針と曰ひ、即ち大白茶、二を紅茶と曰ひ、三を綠茶と曰ひ、四を烏龍茶と曰ひ、五を白尾と曰ひ、六を小種と曰ひ、七を工夫と曰ふ」と記してゐる。

(ハ) 産地に依つて分つもの

武夷茶は武夷岩に産し、清源茶は晉江縣の清源に産し(今存せず)、英山茶は南安縣の英山に産し、武夷岩茶は武夷附山

に産し、單に巖茶とも云ひ、武夷洲茶は武夷山の溪沿ひに産し、單に洲茶とも云ふ。界首茶は崇安縣の界首に産し、白琳茶は福鼎縣の白琳に産し、清和水吉茶は建甌縣建陽縣の清和水吉に産し、北嶺茶は閩侯縣の北嶺に産し(今は存せず)、東風塘茶は壽寧縣の東風塘に産し、邵陽茶は邵武縣と建陽縣の境界に産し、丹陽茶は連江縣の丹洋に産し、沙陽茶は南平縣の沙陽に産し、清水留山茶は安溪縣の清山留山に産し、穆洋茶は福安縣の穆洋に産し、洋口茶は建陽縣の洋口に産する。

(ニ) 摘採期に依つて分つもの

雨前茶は清明の後、谷(穀)雨の前に摘採したものであり、清明茶は清明節に摘採したものであり、二春炒綠は夏至後、即ち二春に摘採し、製造した炒綠で又大茶とも云ひ、三春炒綠は夏至後に摘採した炒綠であり、秋露は秋季に摘採したものであり、松蘿は谷雨前摘採製造したものであり、又小茶とも云ふ。又摘採期の遲速に依り、春茶(頭茶、二幫)、夏茶(三幫、四幫)の二種類に分つことがある。

(ホ) 品質に依つて分つもの

製成した茶の品質粗細及水分の多寡に依り、二種に分ち一を形態より毛茶、成茶、乾茶、濕茶等に分ち、二を等級より、一等芽尖、二等幼結、三等色茶、四等清水等に分つことがある。

又或は色、香、味等の優劣に依つて分つときには、武彝茶、烏龍茶、月裡茶、半山茶、水仙茶等に分つことがある。

武彝茶は刺天第一槍が最も有名であり、之を奇種と稱する。茶味清濃で口に適し、過食を消化し、喉の渴きを防ぎ、乾

いた飯粒を茶の中に入れて暫時にして溶ける。烏龍茶は鐵觀音を最上とし、鐵觀音樹より産する。葉厚く、色濃く、芳香は非常に深遠で、能く鬱を散じ、本物は伸々得難いと云ふ。月裡茶は晉江に産し、能く過食を消化し、酒醉を醒まし、又渴を醫し、天行熱を治療することが出来ること云ひ、半山茶は閩侯縣の鼓山に産し、色と香味とは虎邱や龍井に譲らない。水仙茶は味は水仙に似て、水を掛ければ渾然と濃色を呈し、醉を醒まし、過食を消化する。

其の他品質より等級を分つことは、古來其の種類多く、一般的に比較すれば春茶が最も良く、芳香に富み夏茶は之に次ぎ風味も劣る。秋茶は水色は春茶に及ばないが、風味は春茶に優る。歸田瑣記に依れば「武夷茶は名づけて四等あり。最も著はるものを花香と曰ふ、花香より等しく上のものを小種と曰ひ、山中は小種を常品とし、其の上を名種と曰ひ、此の山以下多く得べからず、又其の上を奇種と曰ひ、雪梅(梅が移香した爲と云ふ)、木瓜(木瓜が移り香した爲と云ふ)の類であり、即ち山中亦得べからずと記してゐる。總じて之を云へば烏龍茶の最上品は鐵觀音、水仙茶の最上品は龍團で、鳳尾、仙人掌及桃紅は次等である。武夷の巖茶は上品で、洲茶は之に次ぐ。

(ハ) 製造工程に依つて分つもの

普通の製造法に依つて分てば綠茶、烏龍茶、磚茶、香茶、其の他がある。綠茶は又小珠、大珠、熙春、雨前等に細別され、紅茶は又工夫、小種、白龍、雙龍、珠蘭等に細別され、烏龍茶は又包種、烏龍の二種に分たれ、磚茶は紅磚及綠磚の二種に分たれ、香茶は又香片、香牙、上芽、茶片、花茶等に細別され、其の他膠茶、葦茶、粉茶、屑茶等に區別される。其の製法は工業の項に記述する。

(六) 茶の成分

二七八

茶葉品質の良否は一に其の含有成分が標準に適するや否やを以て定める。而して其の成分は甚だ多く、水分、茶素、灰分、茶單寧、水浸出物、含窒素等十餘種あるが、一般的に常に析出するものは水分、茶單寧及灰分總量の三種である、福建建設廳で省立科學館に委託して分析した結果表に依れば、例へば綠茶に於ては試料番號八十種中、水分は多きは福鼎の黃梗九・六二%、少きは白琳の蓮心四・八六%とし、灰分は多きは羅源の色炒綠一〇・〇〇%、少きは沙埕の蓮心綠四・八〇%とし、紅茶に於ては試料號數九十七種中、水分は多きは福清屬の珠茶九・五七%、少きは寧德東洋の聚和四・九八%とし、灰分は多きは福鼎の紅茶片一二・七六%、少きは壽寧の奪美四・六三%である。

二 栽 培

本省の茶樹は多く山野又は畑の隅に栽培し、管理不十分で、特に施肥に注意しない上に、摘採を一年三、四回も行ふ爲茶樹の壽命を縮める。且つ剪枝、臺刈を爲さず、延し放題にしてゐる故に、産量は漸次減少し、樹勢も次第に衰へる。以下栽培方法、其の他關係事項に就き分説する。

(一) 栽培條件

(イ) 氣候

茶樹は他作物同様に氣候の影響を受ける。本省は所謂海洋氣候で、年中の平均雨量は九八〇・五耗以上、平均溫度攝氏十八度以上の月が八箇月ある。此の種氣候は稻作及茶樹の生育に最も適してゐる。故に本省は茶産地として著名であ

るわけである。

(ロ) 土 質

本省の土壤に就いては未調査であるが、閩南、閩北一帯は紅土が甚だ多い。之は頁岩及石灰の風化に依つて生成されたもので、其の色は紅く、粘性で茶樹の生長に甚だ好適である。然し茶の品種に依つて之に適する土壤がある。例へば肥沃の粘土は烏龍と大白の二種に適し、砂壤土は水仙に適する。要するに綠茶及白龍茶は粘土が良く、嚴茶は砂礫を含有する土質が良いのである。紅茶は何處でも栽培せられ、若し土質が非常に瘠せてゐるときは桐子渣を肥料として施すが如きである。

(ハ) 位 置

位置は茶樹の成育に密接の關係を有してゐる。茶園が山上又は山腹の傾斜三十五度以上に在り、土質が赤砂壤土で、方角が南に向つてゐれば、茶樹の色、香共に極めて佳いのである。而も山が高ければ高い程茶の風味も能く、若し終日雲霧の罩める岩石の間に成長すれば品質最も優良である。傳へらるる所に依れば、本省の山奥斷崖絶壁の境には、猿を飼つて茶を採收してゐる(註、三)。是れ元より現代式經營では望み得ないが、其の品質の優良には平地茶園の及ぶ所ではない。故に今後茶園の位置は高山たると傾斜地帯たるとを問はず、日射の良い地を選択すべきである。南又は南方向きの緩度の傾斜地又は平地は比較的適當で、若し此の種土壤及位置の茶園を選んだならば、産茶の風味を増し、獨特の芳香を帯ぶる。但し本省の茶農は之を等閑視してゐる。

二七九

(註三) 浙江省には古來猿を馴らして茶を摘ましめてゐる興味ある習慣がある。例へば臨安と安徽壽國の境に在る浮玉山又は天目山の山地では、猿を「茶役」と稱し、茶を採取せしめ、或は同省の天臺雁蕩山の險處にも雲霧に包まれる茗茶が多く、猿に摘茶を命じ、其の茶を「猴茶」と迄呼び、茶中の神品として賞玩して居る。又一八四七年に寧波在住の一外國宣教師の記録に依れば、山中人跡未倒な峻嶒の高山から摘採する茶を猴茶(The monkey tea)と名づけ、猿は主人の云ふが儘に茶を袋に入れて歸る。其の品質は優良で、價格はルビーにも等しいと云はれてゐることである。(支那の奇習と異聞一五一—一二頁 XIII, pp. 187-9.) The Chinese Repository, vol. 187-9.

(二) 茶樹の繁殖及植付

本省の茶樹繁殖法には有性と無性との二種類がある。

(イ) 無性繁殖法

茶樹の無性繁殖法は支那全國中は獨り福建省のみであり、外國では臺灣のみである。臺灣茶の栽培法は安溪から傳入したのである。福建では安溪の外に政和縣は之に依り大白茶を、建甌縣では水仙茶を夫々生産してゐる。而して此の大白茶は開花するが結實せず、始は挿木法で繁殖せんとしたが困難があり、其の後偶然壓條法を發見した。福鼎縣では株分けに依るが極めて小範圍に行はれた。舊福寧府内の水仙と烏龍とは矢張り、壓條法を採つてゐる。故に本省では接木法に適しないものは悉く無性繁殖法を採用し、優良品種を保存してゐる。而して支那では茶の種子を擇んで品種の統一を計ることなく、又採種用の茶園も設置されてゐない。故に茶の品種は混雜して遺傳状態は極めて亦複雑であるが、安溪の鐵觀音と烏龍は製造處理の際顯然と兩者を區別し、夫々茶の個性を混交しない様にする。

無性繁殖法には壓條法、挿條(木)法及分根法がある。

壓條法 此の法は本省には最も多く普及したのである。先づ生後四五年生の良好且つ無病の母樹を選び、秋季或は春季に茶樹の枝を一々地面に曲げ、土中約二三寸に埋める。枝は十四種内外を土表面に残し置く。枝の弾ね起るを防ぐ爲に、手で土を堅く叩き固め、或は石塊や煉瓦で其の上を押へる。滿一、二年経ると地下の部分に澤山根が生て來るから、乃ち母樹を切離し、茶園に植付けるのである。母樹が古いと枝を曲るに困難であり、發根も容易でないから、成るべく幼齡の母樹を選ぶべきであり、母樹は五年生乃至十年生迄のものを適當とする。安溪、政和、建甌の各縣は大概芒種(舊曆五月)の季節に壓條を行ひ、翌年舊の正月又は二月頃芽の未だ生えないときに母樹から切離し、茶園に植付ける。一日、五百本の壓條が出來、六、七年生の母樹四株を要する。

挿條法 此の法の挿木に用ひる苗枝は、其の年に伸びた新梢が最も能く發芽する。二年乃至三年生のものは良くない。挿條の方法は有機質の比較的多い粘土を苗床とし、良好な新梢枝(二三節の芽と葉のあるもの)を選んで苗とし、北向き斜に半分を土の中に挿入する。其の間隔を六種乃至十三種とし、苗と苗床の土を密着せしめ十分に灌漑する。苗木の移植期は大抵苗木の第二年或は第三年目の春季にするがよい。挿木法が壓條法に優る點は、一時に多量の茶苗を培育出來ることであるが、育苗期間も比較的長いのと手数が煩雜なのが缺點である。

分根法 此の法を本省で實行してゐたのは數縣ある。茶樹が成長を停止する秋季から春季の發芽前迄に之を行ふ。先づ茶樹を基部から剪斷し、十分に灌漑した後、慎重に根株を掘り起し、銳利な鎌或は斧で數株に切り離し、茶園に植

ある。該法は初期の生育は極めて迅速だが、壽命が常に短いから之を實施するものは少い。

(ロ) 有性繁殖法

茶樹の有性繁殖法即ち實播法は本省では普及してゐるが、僅かに小茶(茶茶の一種)に限られてゐる。左に整地、採種、播種法等に就き分説する。

**整地** 茶農は茶樹の栽培に先ち荒地を開墾する。整地には必ず伐木、開掘、翻上整地等の順序がある。整地費用は土地の高低と勞力賃の高低に依り異り、一畝當り二十人乃至三十人の勞力を要する。一人一日の工賃三十仙、農繁期は三十五仙とし、所要勞力費は九元乃至十五元である。

**採種** 茶園の準備が出来ると、茶の種子の採集にかゝる。本省の茶農は多く、新曆の十月頃の種子の成熟した時に採取し、それを乾燥して貯藏し、或は日當りの良い所に埋め、明春種蒔に用ひ、或は採取後直ちに蒔くのである。

**播種法** 本省茶農の多くは大抵立春(新曆)から清明(同)迄を最も適當する。播種方法は大別すれば二種あり、一は種子を既に準備した茶山又は茶園に直接に蒔く直播法と、他は先づ苗床で育て然る後に移す移植法がある。

**直蒔法**は豫め採取した種子の外殻を剥き(瓊崖府内)茶作付の爲に選定した茶園を若干畦とする。每畦の距離は五尺前後とし、其の間隔四尺前後の所に幅一尺二、三寸、深さ尺餘の孔を開け、孔の底に肥土を敷き、一掴みの種子(十數粒)を孔の中に蒔き、其の上に露出しない程度に厚さ二、三寸に薄く土を覆せ、又其の上に草を敷く。直蒔は一畝當り種子三升を要し、其の價格は六十仙位である。種子は一週間で發芽する。

**移植法**は本省福寧一帶の茶農が多く採用してゐる。先づ肥沃の地を選び、灌溉に便利な處を開拓し苗床を作るか、又は住宅周囲の野菜畝を掘換へるかして畦を作り、五寸前後の間隔に種子を蒔き、其の上に軟い土を覆ふ。播種時期は多くは十一月頃で、二年を経過すれば幼苗は成長して高さ、約一尺餘になる。三、四月頃小畝で苗床上を掘り、苗の根株に土の着いた儘、整地した茶園に移植する。穴の深さは約七、八寸、幅は一尺許りで、一穴に三、四本乃至七、八本を植ゑ込む。

右は茶園と平地の移植法であるが、本省南部及北部一帶の如く茶樹を多く畦に栽培せず、山の傾斜地に植ゑる場合は、豫め畝で小穴を掘り、之の中に茶肥として少しく厩肥を施し、茶樹を栽培し、株間の距離は四尺位とする。

(三) 茶園の管理

(イ) 管理方法

本省の茶農は間作、中耕、施肥、整枝(剪枝)及防毒の工作に對して多く注意を拂はない。茶園に栽培する者は或は園中の主要作物に従事する際に除草を爲すのみであり、高山に栽培するものは唯自然の生長に委し、摘採以外には平常之を顧みない。其の原因は茶農の貧困に依るものである。茶價が低落せる爲に多額の投資を爲しても損失の虞があり、且つ茶樹は果樹の間に於ける副作物であり、中耕、施肥等には手が届かず、前枝、防毒に至つては更に考慮せず、參差たる老樹を修剪するも、其の利益が何であるかを審にして居ない。茶農の災害に對する觀念も、單に天災とのみ考へ、人力の如何とも爲し難きものとして居る。故に防毒に對しては別に何等處置を施さぬ。



間作、除草 茶樹の管理上間作と除草は極めて重要であるが、本省の茶農は此の種作業を多くは重視せず、茶園中に甘藷を間作するものは、毎年二回、即ち舊暦の五月末と七月末に諸の蔓をとるが、其の時に併せて茶樹の雜草を除去し、且つ土を稍軟くするに止める。又茶園中に豆科植物或は果樹を間作する處では、收穫或は果樹園に仕事をする時一年に約二回除草をする。第一回は新曆三、四月頃の茶樹が將さに發芽せんとする時に行ひ、第二回は同じく八、九月頃茶樹が結實する時に行ふ。是れ以外には茶樹に對して除草を行はない。之等は間作のある茶園の場合であり、山の傾斜地に栽培した茶樹は、茶農は僅かに春季一回除草し、甚しい處になると除草もせず、自然の儘に放任する。然し一、二の勤勉な茶農には一年に四、五回除草する者もあるが極めて稀である。

施肥 本省の茶農は茶樹に施肥することの必要は知つてゐるが、經費關係に依り力及ばず、施肥するか否かは一に全く茶農の經濟状態に依るのである。例へば福寧府内一帯の茶農は、經濟が比較的豊かな者になると、豆粕を肥料として施すが、貧農は一年中肥料を施さない。然し一般に人糞尿及草木灰を施してゐる。

施肥の方法は茶樹の根株の四圍に深さ三、四寸の溝を掘り、肥料を溝の中に施し、其の上を土で覆ふ。施肥は年二回で第一回は茶樹が發芽せんとする新曆三、四月頃、第二回は大抵茶樹が結實する九、十月（即ち中耕のとき）である。敵當り、施用量は人糞尿約六、七擔、價四十仙程度であつた。近年茶價低落の茶農は利益が上らないので、概して施肥をしない。尙ほ甘藷島の側に栽植した茶樹は、甘藷に施した肥料が地中に滲み込んで茶樹を潤すので、其の成長振りは施肥をしない茶樹に比して良い。

南部一帯に於ては施肥するものは舊福寧府内の各縣に比して多く、一般に自製の厩肥、人糞尿或は豆粕及糞灰を使用する。三十坪毎に一箇の水缸を埋め、豆粕を其の中に浸し腐らせてから取り出し施用するが、其の用量は餘り多くない。普通一枚の豆粕で八十株の茶樹に施肥し得る。除草の時に施肥し平常は施用しない。

剪枝 剪枝は茶樹の發育を助長し、生産の増加を計る一種の良法であるが、茶農が知識淺薄であること、眼前の小利を貪ることの爲に、之を敢てしないのである。茶樹は一旦剪枝すると二、三年にならぬと摘採は出来ないが、産量の増加と品質の優良とは剪枝しないものに比して、收穫高も利益も多い。故に錫蘭、臺灣では茶苗が三年なると株の下部の枝を刈り棄て、茂みを疎にし、主幹に完全な發育を與へる。第四年目の秋季には剪枝を行ひ、樹を三角形に整へ、以て四面の側枝を放せしめ、其の後剪定して弧形にし摘取りに便する。

舊福寧府内一帯の茶樹は三十年も経過して居るにも拘らず、未だ一回も剪定したことの無いものすらあり、従つて枝幹が繁茂し、地力が茶樹を培養するに足らず、産量日に減じ、品質も漸次劣つて來て居る。或は比較的勤勉な農夫には枝の延び放題になつた老樹に對し、剪枝或は臺刈をするものあれど、之等の者も未だ剪枝の利益を知らないものである。

病蟲害防止 本省の茶農は前記の如くに茶樹の管理に冷淡であるから病蟲害の發生は免れない。茶樹管理上最も煩雜な工作は病蟲害の防止である。一般の茶農は病蟲害を天災と考へ、人力を以て制する事が出来ないものとして成行に委してゐる。

然し南部安溪各縣の茶農は茶樹の黑點病及毛蟲の害に對し、若干豫防治療法に就き注意を喚起してゐるが、黑點病の

如きは茶葉上に黒點を生じ、羅忠生葉で製茶すると風味が苦澁で質も低劣である。其の病源は何處に在るか、菌類の爲か、或は環境不良の爲か、土地茶農では判らないことで、専門家の研究に待たねばならない。茶毛蟲は長さ約六分、太さも毛と共で約三分位である。全身に毛があり、黄金色或は黒色を呈してゐる。非常な毒を有し、皮膚に觸れると即時に赤く腫れ、痛痒を感じる。毎年舊曆の六、七月頃最も多く、其の害の及ぶ處甚だ大で、茶葉を全部喰ひ盡し、茶樹を枯萎させ、蔓延極めて迅速である。該害の生態如何は未だ科學的な研究が遂げられて居ない。

土地茶農の驅除方法には二つある。第一は双手に竹板を一束づゝ執り、葉を傷けない程度に葉上の毛蟲を殺す。第二は石油を毛蟲に注いで殺すのである。言ひ傳ひに依ると此の種の蟲害の大なるものは三年毎に一回あるから十分の注意を要する。早く根本的驅除方法を研究し、冬籠りする蟲卵を撲殺せずば茶葉の前途に對し、莫大な影響を及ぼすことになる。

#### (ロ) 管理上の難點

茶農は經濟及環境の關係から茶園の管理に對し非常な困難を感じ、且つ近年來茶況不振の爲に得る利益がなく、主に甘諸島の儘に茶樹を植えて副業とし、以て茶の單獨耕作及管理の煩雜と損失とを避けて居る。故に本省茶樹の栽培及茶園の管理上に於て下記各項の現象が発生するを免れない。

除草間作の困難 本省の茶園中には茶樹の下に甘諸を間作してゐるものも多いが、甘諸の蔓の各節に根が生えて又甘諸が結び合し且つ蔓延する儘に委せてゐるので、園中の間作と除草をすることが出来ない。

茶園の零落 本省の茶園は非常に零落し、一戸當り七、八株程度で、數十畝或は數百畝の茶園を有する者はない。故に管理は非常に困難である。

品質の淆雜 本省茶農の栽植する茶樹は複種で、一箇所の茶園中甚しいのは一株の内で、葉の大小、長短、廣狹、軟硬、厚薄等種々ある。又樹勢にも高低あり樹、齡の老幼等極めて不揃であるから、同一の管理方法を施し得ないのである。播種期の差異 本省茶農の播種期は春蒔きがあり、其の方法も園圃に直接に蒔くのと、苗圃に蒔くのとがある。東部と南部との各地は同一園内に於ても用ひる方法は同じでなく、播種方式も差異がある。此の外株叢の粗放、蟲害の流行、間作の果樹、竹木類が繁茂して久しく、竹木は林を成してゐる爲に、茶樹の成長を妨害するのである。尙ほ茶農に經濟力が缺乏し、管理の常識がなく、且つ茶樹栽培法不合理の爲に僻令茶農が管理を欲しても出来ないのである。

#### (四) 栽培收支計算

本省の茶業は他の農業が悲鳴を擧げてゐるに比すれば若干好況に在り、相當利潤を得て居る。然し本省茶園の大部は四十五度以上の傾斜地に在るから、茶園の開拓には他處に比し費用が多くかゝる。一畝の開拓費は約十元を要し、且つ其の間に自己の費す勞力も少くない。若し自己の勞力を勞賃に計算すれば下表の如く、純收益一元六角位では到底採算に合はない。故に茶農も周年辛苦して得る所で妻子を養ひ得ないのみならず、自己の勞働すら償ひ得ない。本省茶農の栽培生産費の調査は、未だ各産茶區域を通じて行はれぬないが、南部北部は大略同じである。今一例として本省舊福寧府内に屬する各縣に就き調査した經費を掲ぐれば左表の如くである。

算計支收	費 育 培 年 常			費 植 盤		類 別	摘 要	金 額	備 考
	損 利 支 收	合 雜 費 計	地 租 或 地 稅 利 息	施 除 中 摘	合 管 移 種				
入 出 損 益	茶 價		價 同 同 工	工 工 價 工	工 工 價 工	工 工 價 工	工 工 價 工	一〇・五〇 〇・六〇 七・〇〇 三六・四二 五四・五二	約三十日、一日三角五分(食事を含む) 約三斗、一斗(約十七斤)二角宛 約二十日、一日三角五分 移植後五年日始めて採摘せられ其間の手入費用
			格 貨					三〇〇〇 一・七五 一・四〇 〇・四〇 三・〇〇 一〇・七九 一・〇〇 二一・三四	產茶約一五〇斤、一斤二分 年二回で五日、一日三角五分(一回なら半額) 年四回で四日、一日三角五分 人糞尿六七擔、一擔五分位 月歩一分六厘半 農具消耗其他雜用
								二二・五〇 二一・三四 一・一六	鮮葉一五〇斤、一斤六分乃至二角五分、平均一角五分 常年培育費の合計

説明 一、盤植費は栽培後五年間分を含む

二、中耕、除草は大抵茶農自ら勞作す

三、鮮葉は頭、二、三茶三種あるが、本表は平均產量及價格の合計なり

四、施肥の人糞尿は大抵自家物にして、未だ化學肥料を使用せず

三 摘 採

(一) 摘 採 期

直時茶は五、六年、移植茶は四年を夫々經過すると摘採し得られる。本省の茶農は毎年三、四回に分けて摘み取り、清明(新曆四月五日)の頃摘採するのを清明茶と名づける。其の葉は軟く香が佳く、口當りが良いので價格が高い。茶農は各自多少を製造し、一年間の飲用と節分の禮物に供し、外部に賣出すのは極めて少い。又穀雨(新曆四月二十日)前に採製した茶を雨前と稱し、又其の生産高は少い。

普通茶期の穀雨より立夏(新曆五月六日)迄に摘採した茶を頭茶又は首春と云ひ、茶質優良で、價格も高い。又芒種(新曆六月六日)より夏至(新曆六月二十一日)迄に採取した茶を二茶又は二春と云ふ。氣候炎暑の爲に茶の發芽が早過ぎ品質が比較的に悪く、従つて價格も低廉で、茶農は多く之を採製しない。然し頭茶の賣行が旺盛であれば二春も採製するが數量は少い。尙ほ秋露、白露の茶がある。氣候が逐次寒冷に赴くに連れ、茶の萌芽時間も比較的長くなるので、其の品質は二春に優つてゐる。但し二春を採取しない時には三春の芽生を妨礙し、従つて三春の收穫に及ぼす影響は少くない。然し此の茶を摘採する

(民國二十五年二月編  
建北路茶業調查報告)

と翌年の首春茶の産量が減るので多く之を摘採しない。只北部數縣では氣候が比較的寒冷で大抵は二春と三春の葉を樹に残し樹を養ふ。之に依つて霜雪の害に依る枯死を防止するのである。故に其の摘採期は年は年内の期に依り、日は日中の時間に依り夫々相違がある。年中及日中の採期に依る品質の優劣を表示すれば下の如くである。

茶摘採期

甲 年中の相違	
首	春(清明より穀雨迄)成品優良、産量多し
二	春(夏至前後)成品低劣、産量右に次ぐ
三	春(大暑前後)成品二春に次ぐ、産量少し
秋	露(白露前後)成品最良、産量少し
早	青(早曉摘採)水分多し、成品中等
午	青(午前中摘採)成品上等
夜	青(夕方摘採)成品下等
雨	青(雨天摘採)成品最下等
乙 日中の相違	

三春の次に摘採するのは秋露茶である。北部舊福寧等五縣の産茶は移植後四年を経過するが、摘採の第一年(即ち植付後第五年目)は茶樹が若く、産額も少く多量に摘採すると茶樹の生育を妨げる故に、普通は僅か春茶を一回丈採るのみで、其の量も少い。第七、八年の生育旺盛期には毎年三回摘採する。第一回の清明より立夏迄に摘むものを一番茶と云ひ、茶質優良で價格も高い。第二回の芒種前より夏至迄を二番茶と云ひ、氣候の關係と炎暑の爲に發芽が迅速で、品

質少々落ち價格も安い爲に茶農は多く之を採製しない。若し一番茶の賣行がよければ二番茶も採製するが多くない。摘採期は固より南北地方に依り、又氣候に依つて長短の差があり、要するに南方に偏せる土地では早く、北方に偏せる土地では遅いが、其の差は十日前後である。大體第一期の清明茶は清明節に摘採し、第二期の頭春茶は清明前後より穀雨節迄摘採し、其の期間は一箇月であり、又其の間を三回に分ち、第一回を採山と云ひ其の稍茂げれるものを採り、第二回を旺摘と云ひ普通の摘採であり、第三回を掃山と云ひ其の殘餘を摘採するものである。第三期は二春茶で大滿節前後に摘採し期間は六週間である。第四期の三春茶は大暑(新曆七月二十三日)前後に摘採するものであり、第五期は番茶も採製するが多くない。二番に續き摘むものを三番茶と云ひ、大體大暑と秋分の間である。秋分に摘採したものは白露茶とも云ひ、茶農は之を自家用又は贈物とする。三番茶は天候漸次寒冷となる爲に發芽時間も長引き、品質は二番茶よりも優良であるが、若し二番茶を摘採しなければ三番茶の發芽が旺盛ならず、三番茶の收穫に影響することも少くない。價格は一番茶が最高で二番茶、三番茶は一定しない。

(二) 摘採法

茶の摘採には茶農は大抵自分ですが、頭茶の如く市場への供給を急ぐときには、臨時に人を雇入れることもある。茶摘は女工、童工を並用して居る、男工を使用するは不經濟のみならず却つて粗雑で、女子供の細心の注意に依つて嫩葉を能く採取するには到底及ばない。茶摘には女子供は腰に小型な竹籠を一箇宛つけ、其の形狀は瓢箪の上半部に似、高さ約二尺、底の直徑は約半尺である。茶摘時期には午後二、三時頃にする。男女が三三五群を成し葉を摘取つて籠

に納める、草履を穿き竹笠或は頭巾を冠り、此處彼處で茶摘みに忙しく、無駄話をする暇もない位であるが、少しの餘暇があれば笑聲が山に滿ち、特に茶摘歌の應答の如きは農村の嬉しい風情である。往年武夷茶全盛のときは茶摘人は一萬餘にも上つたが、今日では茶業衰落の爲に年々僅か數百人に過ぎない。

茶摘には特殊の訓練とていらないが亂雑に摘み取つてはならぬ。熟練者になると両手で同時に摘み、其の速さは人を驚かすに足るものがある。摘採した生葉を籠の内に入れる時は堅く詰め込まない。若し籠に一杯堅く詰めると底の生葉が熱くなつて死茶になる。

一日の摘採量は熟練の如何に依つて異なる。熟練工は一日二、三十斤、其の次ぎは十五斤、少いものは六、七斤位で、一日平均一人十斤前後である。勞銀は南部、東部とも斤で計算する。若し茶期が短く又茶の芽が小さく軟いときには比較的高く、一斤一分乃至二分、一日平均一人當り三角五分乃至四角である。然し繁忙期でなければ一斤一分で、一日平均僅か一角である。

以上は普通茶樹より綠茶、紅茶等を製造するものに就いてであるが、然し白茶と蓮心の場合は少し異なる。白茶の種類には白毛茶と銀針とがあり、白毛茶は俗に大白と云ふ特殊な白茶樹から採るものであり、銀針は俗に土白と稱し、普通の茶樹の芽心から製するものである。白茶の摘採時期は稍早く、採取時に各茶樹の白心を見付ける毎に、筆尖形の棒を以て之を採取し、其の他は残して置く。四、五日毎に一回採取するが、芽が粗放になれば用ひない。故に白茶の摘採は甚だ手数を要し、其の工賃も普通の茶の數倍高い。蓮心は普通の茶樹から初春と三春の初に其の嫩葉を採取し、選擇

の手数は白茶には及ばないが常茶よりは精である。唯二春の茶は蓮心の爲に採取は出来ない。其の他の摘採情況は普通の場合と略同様である。

本省茶農の弊の一としては茶株より總ての茶葉を無選別に奪り取るので、茶の品質を損じ又茶株を著しく害するが、之を改良すべきである。其の他摘採上に注意すべき事項は多くあるが、就中イ)摘採期を主に立夏前後に重きを置くことであり、ロ)摘採期は雨天を避けて晴天にする。雨天に摘採したものは茶の香味を減少するからである。ハ)摘採時間は必ず日出頃露の乾かんとする時、或は午後二、三時過ぎ後を最も適當とする。ニ)温暖の處では驚蟄(新曆三月五日)前十日に摘採し、寒冷な處では驚蟄後を適當とする。ホ)摘採斷芽は爪を以てし指を用ひぬることである。爪ならば切斷が速く葉が柔くならず、指ならば其の温度で茶芽を損じ易く、又葉の選擇は必ず奇麗に、洗濯は必ず清潔に、蒸すときは香を損せぬやう、火は必ず適當の熱度を要する。故に臺灣や錫蘭では鋏摘採を勵行してゐる。ヘ)茶叢は三回に分つて摘採する。それは地の肥瘠と氣候の不定の爲である。ト)露水青、雨青、過夜青等は何れも上等品となるから午青と混合してはならぬ。生葉の摘採は三葉程度にし、粗大のものは二葉丈けを摘採することにすれば、製茶のときに苦水を去り、香味が残る。且つ茶樹も傷まない。チ)茶樹の摘採第一年目には春に一回摘採し、且つ摘採量も多くしない。之は茶樹の年齢が若いので樹勢を傷けない爲である。第二年目には二回摘採しても可く、以後年に依つて摘採回數を増加することである。

### (三) 樹齡と摘採量

茶樹の年齢如何は茶葉の收穫高に大なる關係がある。六年から十四年迄は摘採量と年齢が正比例するが、十五年以後

は逐年遞減し、二十一年以後は殆んど摘採出來ないから、此の年齢に達すると悉く伐倒して更新するを要する。然し本省茶農の大部は此の理を辨へず、老齡なもの程品質が高貴であると考へ、此の種の茶樹が只施肥費用を徒らに食ひ込むだけであることに全然氣付かないのである。十六年間の摘採法及採茶量を比較すれば左の通りである。

第一年 春一回摘採するのみで、毎株當りの收穫は、生葉(土地の者は青茶又は茶葉と云ふ)一斤位で、之は前年(即ち茶植付後第三年目)の芽で四枚の葉が開く時三葉を摘みとる。

第二年(即ち茶植付後五年目) 摘採の順序及時間は前項に同じであるが、前年に比し收穫多く一株二斤前後得られる。

第三年後(同第六年目) 一年の中春、夏、暑の三季に摘み、收穫は一層多くなり、一株の生葉四斤前後、夏茶は春茶の三分の二、暑茶は春茶の三分の一である。

第四年(同第七年目) 春、夏、暑、秋の四回摘採する。春茶は毎株五斤程で、夏暑は前項の比例に依り、秋茶は春茶の五分の一である。

第五年(同第八年目) 本年より第七年迄の收穫は最も多く、春茶は八、九斤、其の他は前の比例に同じである。

第八年より第十一年迄の産量は春茶が七、八斤である。

第十二年(同第十五年目) 以後五、六斤に減じ、第十六年(同第十九年目) 以降は二、三斤迄に減ずる。此の時茶樹は既に衰へ、品質も不良で將に枯死せんとしてゐるが、茶農は其の老樹が嘗て少からぬ利益を生んで呉れた事に愛惜を感じ、思ひ切つて全樹を伐除しないのである。若し伐木すれば株根は一年ならずして又繁茂し、一株の新茶樹になるのである。

今調査した鐵觀音樹の累年收穫高の増減を見るに、摘採第一年即ち樹齡第四年に於ては、毎株春、夏、暑、秋四期合計生葉一斤、茶〇・二五斤、價格〇・二〇元が逐年増加し、摘採第七年樹齡第十年は最高生葉一九・八斤、茶四・九五斤、價格三・五二元に達し、其の後遞減し、摘採第十七年樹齡第二十年には、生葉四・四斤、茶一・二〇斤、價格〇・七八元以下つて居り、各年合計生葉二〇七・九斤、茶五一・八五斤、價格三二六・八九元となる。(民國二十五年二月福建建設報告第九冊、福建省茶業研究、民國二十六年版朱美予著中國茶業、上海商業月報第十六卷第八號福建省茶業、Fukien, Arts and Industries pp. 33-41)

#### 四 茶業改良施設

民國十一年春、福建省建設廳は福寧等五縣中、最も茶の名産地である福安に茶業改良場を設立し、既に社口鎮に山地數百畝、平地數十畝を購入し、工場を建築し、茶の栽培、製造、運輸の改良を行ふこととし、各省茶産地並に本省各縣茶區より優良茶種を徵集し、品種別に試験的栽培を行ひ、且つ區を分つて之れが調査することにしたのである(民國二十五年三月三日)。

更に省當局は包種茶製造の原料に供する茉莉、珠蘭の栽培に關し計畫を立て、民國二十六年茶業振興の目的を以て臺灣より茉莉花苗を購買し、各農民に之を種植せしめんと計畫した。蓋し臺灣に産する所の茉莉花苗は移植し得なかつたが、近頃臺灣農村考察團磯永吉博士は臺灣總督府と協商した結果、既に本省に之を五萬斤購入する約成り、每百斤價格二十五元とし、先づ購入する四萬斤は既に福州に到着したとのことである(民國二十六年四月十五日全閩新日報)。

又建設廳は農村合作事業に對し積極的に施設する所があり、同年茶期に近づき茉莉、珠蘭の管理所を設け、斯業の發

達を期せんとし、該管理所組織規則及同營業管理規則を制定し、省政府に呈し審議の上成立した。且つ建設廳よりは閩侯縣主任合作指導員陳世耀を派し、該所主任を兼任せしめ、内部組織は總務、検査、登記及稅務の四係に分れ事務を處理することにした(同年四月二日閩報)。

閩侯縣の合作社聯合社の十社は何れも茉莉、珠蘭等の販賣を業務としてゐる。

#### 第六 煙 草

福建省に於ける煙草は今より三百有餘年前、南洋より歸來した客商の傳へたものと云はれ、比較的海岸地より漸次内地に播種されたのである。

現在本省は江西、湖北、廣東に次ぐ葉煙草の主産地であり、鶯江上流の北溪、西溪、瑄溪流域、閩江の支流たる沙溪及尤溪流域、韓江の支流々城一帯に産する。即ち永定縣、沙縣下の夏茂、順昌縣下の元阮及福鼎縣下の桐山地方は著名であり、殊に永定縣産は從來天下一品と云はれ、夏茂産は之に亞ぐものである。永定縣のものは油頭を經由し輸出され、福鼎縣産のものは曾て多く臺灣に輸出されたのである。臺灣改隸當時本省よりの輸出は相當額に上つたが、臺灣に於て漸次之が自給自足を計り耕作した爲に、本省よりの輸入を漸減し、遂に昭和八年に至り全然支那種の輸入を杜絶したのである。

最近民國二十三年、福建に於ける煙草は前に表示した如く、栽培面積十八萬七千市畝、産額三十三萬五千市擔に達してゐる。

本省の煙草は初期には用途單純であつたが、後には造烟家が各葉の濃、淡、赤、烏を斟酌し、長年月に互り研究の結果、條絲烟、烏厚烟、鱗烟、赤厚烟等各種の新しき刻烟草を製造するに至つた。

烏厚烟は最も古く、葉煙草の起原と同じきも、其の沿革不明である。之が製造は主として漳州、石碼及長泰地方で創製せられた如く、當時は僅かに地方の需要を充すに過ぎなかつたが、前清の初葉鄭家討伐の爲に臺灣に派遣せられた出征軍の需要に供したものを嚆矢とし、漸次臺灣への移出を増加したと稱せられる。

鱗烟は烏厚烟の變化したもので、當初は他の名稱の下に天津方面に盛んに移出せられたが、其の後北支地方にも葉煙草を産するに至り、其の販路が杜絶したので、道光の初年石碼の劉錫我なる者が始、めて臺灣向として稍改良を加へ鱗種の名を附し、其の附近及臺灣に移出した。故に之が製造所も石碼地方に散見したのである。

赤厚烟は鱗烟の更に變化したもので、其の起源は道光末年に在りと云はれ、當初は浦仔の紅蘭號張某及文人號林某の製出に係り、其の後製造漸く盛大に赴くに及んで、崎嶇等にも之が製造家を出すに至つた。此の煙草は從來港庄と稱し、南部及中部臺灣の鹿港、北港及朴仔脚等に移出せられた。烏厚烟が兎角條絲の太きと油の掛け方多きに過ぎ其の賣行良好ならざるに依り、之に改良を加へ油を減少し且つ絲條を細目に刻み、遂に赤色の品を出すに及び、始めて赤厚なる新名を得るに至つたのである。

條絲烟は乾隆年間始めて永定地方に於て製造せられたが、太平亂後之を漳州に傳へ、後遂に臺灣に販路を擴張したと云ふ。

本省生産の葉煙草、刻煙草、其の他の輸移出は韓江經由廣東省汕頭より、仕出の分を含み相當額に達し、一九一〇年頃より激増し、一九一〇年に九萬一千擔、一九一一年に八萬一千擔を占め、價額は一九一〇年は二百七十二萬餘元に達した。其の後數年間は數量七萬擔を保持し、價額は多く二百萬元を越えたが、一九一六年頃漸く減退し數量は四、五萬擔に、價額は二百萬元に下つた。其の後一九二六年頃迄は數量四、五萬擔、價額は尙ほ二百萬元を越え、一九二三年には五萬七千五百一十一擔、價額は最高二百九十一萬六千元に達した。次で一九二七年以降一九三〇年迄は三萬擔を越えたが、價額は二百四、五十萬元乃至二百七十萬元を占めた。然れども一九三一年以降は激減し、一九三二年には一萬八千擔、價額百二十三萬餘元に、一九三四年は百二萬元に下つた。

煙草の根部に成生する葉は黄色を呈し、香り溫和で、主として江西省に移出し、又上部に出来る葉は赤色を帯び、柔軟で香氣強く、湖南省民に嗜好せられ、之が爲に大部は之を湖南省に仕向け漢口に積出される。尙ほ左に福州に於ける煙草の狀況に就て附説する。

福州は煙草の産地であるが、陝西及甘肅からも移入される。土産の煙草はに次の五種に分たる。

皮絲 産地は福州附近で、春先に苗木を植ゑ、夏に葉を採取する。簡單な乾燥過程を経た後、葉を竹籠に詰込んで福州に送り、其處で油をかけ葉脈を除去し細く刻む。葉は乾燥すれば白いが、油をかけ小刻みにすると紅褐色に變ずる。皮絲葉一擔三十元で、調製皮絲は一擔四十元である。

金絲 産地は福州附近で、製法は皮絲の場合に於けると同様なるも質は劣る。採取當初の葉は黄色で、柔軟な葉のみ

金絲に製造せられるが、根元に近い強靱な黒褐色の葉は粗煙製造に使用せられる。金絲葉は一擔二十元、調製金絲は一擔二十五元である。福建及其他省に於ける貧民階級に廣く消費されるので、皮絲に比して寧ろ重要な商品價値を有する。

條絲 品質に於て右兩種より良好なるも、福州附近には之を産せず、條絲生産中心地の汀州より之を移入する。福州市場價格は條絲葉は一擔七、八十元、調製條絲は百元以上である。赤褐色にして皮絲、金絲より色彩良好で、主に有産階級に需要せられる。

厚煙 主産地は興化附近で、福州附近は品質劣等なるものを少量産出する。葉は黒褐色で、粗雜なものであるから、厚煙は刺激性に富んで居る。葉は市價一擔三、四十元、厚煙は五、六十元である。厚煙は竹製の煙管で之を吸ふも、他は何れも水煙管を用ひる。

粗煙 前に述べたる如く金絲煙と原料を同じうする。

移入煙草は西菸と稱して居るが、甘肅、陝西等の如き、西部諸省から移入するを以て其の名がある。大概粗雜な刻みの儘で移入されるが、黄金色を呈し、風味高く強烈であり、水煙管を用ひる。販賣價格は一擔百円で、西菸の移入は年八百擔位あり、茶の小賣商が西菸販賣を副業にして居るのが普通である(The Chinese Economic Journal, vol. I, Feb. 1928)。



年 別	三 都 澳		福 州		厦 門		油 頭		總 計
	數量(擔)	(價 額) (國幣元)	數量(擔)	(價 額) (國幣元)	數量(擔)	(價 額) (國幣元)	數量(擔)	(價 額) (國幣元)	
一八九九	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九〇一	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九〇二	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九〇三	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九〇四	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九〇五	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九〇六	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九〇七	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九〇八	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九〇九	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九一〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九一一	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九一二	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九一三	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九一四	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九一五	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九一六	—	—	—	—	—	—	—	—	—
總計	—	—	—	—	—	—	—	—	—

年 別	三 都 澳		福 州		厦 門		油 頭		總 計
	數量(擔)	(價 額) (國幣元)	數量(擔)	(價 額) (國幣元)	數量(擔)	(價 額) (國幣元)	數量(擔)	(價 額) (國幣元)	
一九一七	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九一八	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九一九	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九二〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九二一	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九二二	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九二三	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九二四	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九二五	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九二六	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九二七	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九二八	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九二九	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九三〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九三一	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九三二	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九三三	—	—	—	—	—	—	—	—	—
總計	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第七 養 蠶

一 沿 革

福建が古來養蠶地であつたことは、一二九五年頃に記述したマルコポーロの旅行記に、福建の生絲に就いて屢々言及

してゐるが、之が生産に關しては明白でない。其の建寧府の條には「人民は貿易及製造に依つて生活し、彼等は又種々の織物に製する所の絹の大量を蔵してゐる」とある。又マルコポーロ自身でなく、其の註釋家より福建の生絲に就いて多くを聞くのである。マルコポーロは、元朝に使節として派遣せられ福建省を經過し、Zaitun (刺桐 Zaitun, Zaiton, Cayton, Tswanchau, Chwanchau, Chincheu 等と書く泉州を指す) と呼ばれた港より印度に往つた。現在でも支那史の研究の間では、此の港が泉州か漳州かを決し得ない。然し吾人は同所は、廈門より餘り遠くないことだけは知り得る。前の廈門領事であつたショウジ、フィリップは一八八八年のローヤル・アジアチック・ソサイエチーの北支那支部の雜誌に「漳州(マルコポーロの所謂ツイートン)は中世紀に於ては大なる生絲の生産地であり、其の製品である紗、サチン及天鵝絨等は、其の美に於ては蘇州及杭州のそれに優る。福建官報に依れば、Kinkha と名づくる生絲織物及陶器は宋末(四二〇—四七九年)に海外に賣出し他の外國品と交換され、金銀の輸出は禁止された。此の Kinki は Ibn Batuta の所謂 Kinkrha であると思ふ」と記してゐる。

廈門の Dr Talnage の書東に依れば、Kinki は前には獨り漳州で製造されたが、記述當時には同市の一軒で製造されたとある。一九三〇年漳州に於て記者は、タルメージの注意した店を發見し得なかつたが、同市の本街道には數軒の絲布を賣る小店があつた。其の絹は浙江及福建で生産した生絲を原料としたものである。

イブン、バツタの語る所に依れば、支那の王はサルタンに Kinkha 五百反を贈つたとある。此の種の貢獻は明(一三六八年—一六四四年)の帝王に依つても繼續され、現に永樂帝は Quljo のサルタンに使を派し、紋絹(Kinki)・紗羅

(Shua)等を贈つたことがある(註一)。之に依つて福建省に於ける養蠶の事蹟を明かにするものではないが、中世紀福建の大なる絹絲紡織業は外省の生絲を移入し原料としたと共に、福建各地に多年養蠶業が行はれたことは想像される。

近年養蠶業が福建に紹介されたのは、六十餘年前のこと、當時福州官憲指導の下に絲棉局(Sericulture and Cotton-plantation Bureau)が創設された。絲棉局に於て養蠶と植棉を指導する學校が開かれ、教師は何れも浙江出身の養蠶專家を以て之に充て、浙江省に於て流行して居た舊式の養蠶法を教授した。其の後絲棉局は正式な養蠶學校に改組され、舊式養蠶法の代りに日本から輸入された新養蠶法を教授したが、間もなく此の養蠶學校は福州農業學校に合併されて了つた。然し乍ら之等養蠶奨勵運動は大した効果を現はさなかつた。官憲に依つて宣傳された養蠶の知識が福州住民に注入されたのは非常に遅く、五十年後になつて始めて福州省政府と福州豪紳の協力の下に、而も限られた土地に此の新産業が呱呱の聲をあげたのである。其の他の地方に於ては依然農民大衆に依つて、養蠶が行はれて居ることを聞かぬ。

福州市の外に田舎にも蠶絲生産の中心地があるが、農民は至つて保守的であつて、養蠶や蠶絲下拵等には古い方法を固執して居るから、生産品は絹織物製造には餘りにも粗大であり、生産品の大半は絹絲製造に使用せられる状態である。所産蠶絲は大部分當地方市場で消費されるが、少量が上海や天津へ移出される。一九二三年に地方豪紳の申合せに依つて、資本額十萬元で營業場所を、南臺に置く允興絲業公司が創立されて、絹絲紡績法の改良に資した。該公司は官憲の特許に依つて三十年間蠶絲業の専門機關と爲つた。然し該公司も經營不如意に陥り、打續く不景氣の爲に遂に閉鎖の巴む

なきに至つた。該公司失敗の主な原因は地方需要の不足と、福州に絹織物工場がなかつたことである。

養蠶の知識を婦人間に傳播せしめるのに、福州養蠶學校では婦人組を設けることにし、多數の婦人が其の業を卒へて新方法来に依つて養蠶に従事して居た。其の卒業生中、五、六人の婦人が集まつて婦人工場を組織し、養蠶を主要業務とした。所産の蠶絲は質が極めて良好であるが、地方市場に於ける需要が少くない爲に發展の餘地がない。

福州の養蠶家は支那式養蠶法を固執し、浙江派と廣東派とに分れて居る。現在知識階級では大概日本の新養蠶法を採用して居るが、田舎の農民達は一には資本の制限と、又一には保守的な性質とに依つて、今日尙ほ支那式方法を採用して居る。福州に在つては既に一九〇二年約二十箇の製絲工場の設立を見、次で官立學校が設立され、同年以降一九〇五年迄桑樹の培植一千二百萬本に達し、福州生絲の賣上高十萬元に上つたことがある。

(註一) イブン・バッタは *kincha* を *kinchi* と曰ふが、廈門及漳州語の *kinukhi* 及 *kinchia* である。廈門在住の二宣教師の語る所に依れば、*kinchi* は従前廣く漳州で製造されたが、現在同市の一店のみで製せられてゐる。イブン・バッタの語る所に依れば、支那の王はサルタンに *kinchia* の五百反を贈り、中百反はツァイトン(泉州)の製産に係ると云ひ、明代に多くあり、水樂帝は *Quilon* のサルタンに *kinchi* 及 *gaho* を贈物としたことである。即ち「水樂五年小葛蘭遣使入貢、贈其王綺紗羅」と云ひ、ヒルトに依れば *kinhua* (金花) は絹の織品で、中世の *kincha* に當ると解釋してゐる(*Journal of the N. C. B. of the P. A. S. vol. xxiii (1888), pp. 27, by Geo. Phillips, Consul, Fuchow*)。

## 二 産 地

本省中建寧地方よりは時々養蠶の行はれてゐた報告があるが、専門に職業として行はれる所は福州地方であり、殊に

最も有名の産地は福州の西方約十六哩の閩江北岸に位する甘蔗村であり、又同村の對岸に存する數村及洪山橋の上方に在る二、三の小村或は南臺にも之を産する。前記甘蔗村の外、竹崎及蘆邊の三村では、各家庭共養蠶に従事し、毎季節には數千擔の蠶絲が生産される。福州地方の生絲の總産額は多くなく、恐らく年約五十萬弗(墨西哥弗)で、其の約五分の一は甘蔗村の産額である。一九三〇年頃は市場の關係から産額は少量であつた。一方地方の需要に應ずる爲に、移入した生絲の價額は二萬四千弗(墨西哥弗)を算した。

## 三 桑

桑葉は蠶を養育する唯一の飼料であり、桑樹は福建には極めて良く繁殖する。閩江流域一帯の土壤は江岸及島嶼共下層は沙土があり、桑樹の栽植に好適してゐるが、更に肥沃の田園に在つては、一層之が繁殖に適するのである。桑の種類を選択すれば、現在未だ多く利用されてゐない丘陵も、之が栽培に成功することが出来る。

福建に在る桑の種類には三種ある。第一は廣東省より移入した桑(*Cak Seng*)であり、美しき柔軟の桑葉で稚蠶の飼養に最も適し、第二は浙江より移入した大葉の魯桑(*Bah cek, Morus multicaulis*)であり、之を第五齡の蠶に供すれば成績良好である。此の種類は中部支那産の砧木に嫁接して賣り出されるのである。支那の農夫は嫁接法に於ては最も成功してゐるが、桑樹及果樹共に芽接することを知らない。第三は白桑の一種(*Morus alba*)で、強靱な小葉であり、蠶兒の飼料には適しないが屢々使用してゐる。南臺に近き上渡村は魯桑の栽培に殊に適し、村落の養蠶家は賣れ残りの桑葉を以て充分に蠶兒を飼育することが出来る。

毎年冬期に各種桑樹の細枝を切り拂ひ、殘枝に只二芽を留め、新枝の發生を助け、翌年の收穫に供する。浙江種の桑枝は一箇年能く六呎乃至八呎に成長する。各種共桑樹は並列して栽植し、廣東種は約三呎五吋、浙江種は約五呎又は六呎の間隔を置き、總て摘採に便する爲に、地上六呎の高さ迄刈り取る。村民は只必要數量の摘葉しか爲さないと云ふ習慣があるから、往々降雨に依る濕氣ある桑葉を摘採し、蠶兒を罹病せしむるのである。若し蠶兒飼育前に桑葉に注意して適當な方法を講ずれば、多く發生する福建の蠶病を防遏することが出来る。尙ほ左に福州の學校で教授されてゐる知識階級の採用する桑樹栽培法を記述する。

桑は葉の成長する季節に由つて三種類に分たれる。早種は蠶が卵から孵化する時に葉が成熟し、葉は柔軟で多液性であるから、細片に切ると蠶兒に好適な食料となる。此の種の桑は春先に成熟し得るやうに、日陽當りの良い土地に植樹せねばならない。中種は桑の葉も良く成熟すると、成長した蠶兒には滋養あるものである。晚種は早種、中種よりも桑實が多く、桑葉は纖維多く小形で、壯蠶には最適である。適當な桑園には三種の桑樹を早種二割、中種三割、晚種五割の割合を以て植ゑるべきである。桑樹は眞土や、沖積層に最も多く成長し、泥土や泥灰土には適當しない。

福州に於ける桑の栽培状態を観るに、種子を蒔いて桑苗を育成する方法を採り、接木は桑を改良するものでなければ屢々しないやうである。種子は六、七月頃に桑實から採取し、翌年三、四月頃播種する時迄之を布袋に詰めて置く。苗圃は施肥、手入等を萬遺憾なく準備し、發芽する迄水まきを怠つてはならない。苗圃の周圍は高さ二尺の竹杭を立て、其上に竹網を被せ、太陽の直射と大雨とを防ぐ。又苗圃は夏中に除草と施肥をする。秋になると新芽が二呎位の苗木と爲

つて植附する事が出来るやうになる。植附前に苗木を能く選擇し、暫らく地中に埋めて置く。苗木の植附をする桑園の土は施肥を充分にし、且つ根が自由に張り得るやうに鋤返さねばならない。又植附前苗木の根拵へを充分にし、腐敗や虫害のある根を剪り去り、灣曲せる根を正さねばならない。除草、施肥、鋤返し等は、苗木の成長に不可欠な要件である。福建に於ける桑園の植木数は施肥の完全な所では一畝に二千株を密植するが、普通は一畝二百乃至四百株である。植附法に依つて變つた形の桑樹に爲る事は勿論である。葉の擴がりを大きくする爲に、疎く植附ける。此の品種は成長すると枝は短く、拳のやうな厚い枝頭を生ずる故に拳桑の名がある。

#### 四 蠶の飼育

蠶兒孵化用の卵は冬期に其の年の春又は夏に蛾が産み附けた種紙で保護する。天候が漸く溫暖に近づき、桑葉が摘採し得る頃（三月の最後の週間又は四月の最初の週間）に注意して布で包み損傷せぬ様に保管した場所より、種紙を取り出し、空氣に晒した箔の上に並らべ、外氣に觸れると、急に催青を促進する。而して新に孵化した稚蠶は之を羽根刷毛を以て箔の中に掃立て、種紙に附著してゐる孵化しない卵は再び包装して元の地位に安置し、約一週間後に外氣に晒すと大部は孵化する。取扱に便する爲に之等稚蠶を二區に分割する。春季氣温の冷却して孵化が緩慢のときには、村人は種紙を衣服の中に入れ、更に體內で温めて孵化せしむるのである（此の慣習はパール・バックの小説大地の小供黨の中に一化することを記して居るのを見）。  
（代前に他地方から傳はつたのであるが、肌の内で蠶を解ると、兩支に限るものではない）。

新に孵化した稚蠶は箔の中央に集め、其の上に毛の如く細く切つた桑葉を散して給する。當初の稚蠶は桑葉を嚼み切

るには餘り虚弱であるから、桑葉の切断した表から滴たる汁で飼育するを要する。此の稚蠶は黒色を呈するので、支那人は之を黒蠶と呼んでゐる。晝間二時間又は三時間、或は多くは夜間を通じ、第一齡の終迄刻んだ新鮮の桑葉を上から掛けて給して行けば、饑て食桑を中止し脱皮する迄に至る。眠期中蠶兒は靜かに擡頭し、足を桑葉又は箔に附着してゐる。此の姿勢を妨ぐると眠を完了することが出来ぬ。此の状態が約二十四時間安靜に繼續すると、舊皮は背部より脱落し、蠶は次期の肥大生長に適する新鮮な若皮をつけて脱出するに至る。脱皮の終りに蠶兒の食欲は増進するが、各蟲が一切脱皮を終る迄は新齡を開始する迄餉食せぬ。

第一次の脱皮に當つては熟練した養蠶家は眠りに在る蠶兒の上に糶を撒き、強健な幼蟲が上層に這ひ出で、罹病した虚弱の幼蟲が桑葉の下に埋除する様にする習慣がある。此の時分には新鮮なる刻んだ桑葉は、前の如くに繊細にせずして糶の上に撒き、斯くして蠶兒は第二齡に入る。實際五齡を経過するが、其の間の眠期中に故き固い皮を脱落し新しき皮を形成するのである。奇妙なことには各齡順次體は増大するが、頭は脱皮の間には増大しないから、頭の形狀を測定して蠶兒の齡數を知ることが出来る。

蠶を保育する設備には蠶箔又は筵蠶架及蠶網がある。蠶兒の飼育するには竹製の丸箔を用ひるが、長方形のものもある。稚蠶には小箔を、壯蠶には直徑約三十八吋、深さ約一吋半の大箔を使用する。一蠶架には九枚の箔を上下相隔て重ね、十組のものもある。各箔を蠶架より抜き取り、廻轉給桑臺の上に置き、箔が徐々と廻る間に蠶兒の上に均等に桑葉を給し、順次に箔を置き替へるのである。六頭乃至八頭の蠶は、一オンスの十分の一の卵を産するが、之を適當に飼

育すれば三千五百の幼蟲と爲り、成熟の上は大籠一枚に充滿する。蠶の排泄物を除去するには蠶網がある。殊に脱皮したものを入れ替へ、又は蠶兒を清潔の箔に移すときには、箔と同型の網を蠶兒の上に張り、新鮮の桑葉を網の上に散くと二、三分間の後に強蟲は網を越え桑に乗る。蠶網は棉網と亞麻網の二種がある。稚蠶用には棉網が良い。他の附屬品としては蠶を移動するのに使はれる箸、日々に適當量の給桑をなし得るやうに蠶の體重を計る計重器及桑室の溫度を計る寒暖計等がある。然し寒暖計は農民にとつては贅澤に過ぎ、大概之を取附けて居ない。その代り農民は寒暖計がなくても經驗に依つて蠶の必要とする溫度を知つて居る。蠶兒の成長率を見るに、歐州では稚蠶より熟蠶に至るには、三十三日乃至三十五日間に於て體重一萬倍、身長三十倍に達するが、福建に在つては蠶兒(一化性)體重五千倍以下、身長二十倍以下の成長に止る。蠶卵の一オンスからの幼蟲を成熟(蠶七十頭乃至八十頭の産出)させる爲には、歐州では桑葉約一千五百封度を要する。卵の一オンスからの稚蠶は當初一平方碼の蠶座で足りるが、成熟すれば九十平方碼の蠶座を要する。

蠶兒が十分に成熟したときには之を約二呎半に四呎の大きさの竹枠又は編枝より成る篋に入れる。繭の外被を造るに六時間、營繭の完了に三十時間乃至三十六時間を要する。或る人の測定に従へば蠶は營繭に當り一分間に頭を六十九回々轉することである。春季又は初夏は天候が往々濕氣を帯び、或は降雨があるので、營繭の蠶室は低温の炭火で乾燥する。然らざれば其の生絲の解舒が不成績に終る。

營繭後五日で蛹は堅く褐色を呈し、篋より繭又は蛹を損傷せずに取り去ることが出来る。繭より繰絲するには殆んど沸騰點に等しい熱湯の中に入れ、間斷なく煮沸する。若しも一化性種を十五日以上、多化性種を十日以上其の儘に放置

するときは、蛹は蛾に化し繭を破り出て生絲を損傷する。熱湯は繭のセメントを分解し、繰絲後殺蛹し、其の蛹は乾燥され、椰子油で揚げたものは美味であり、支那村童の大好物である。

繰絲機は粗造であるが、面白く出来てゐる木製のもので、多年改良されてゐない。大型の繰絲は吾人の舊式の磨器に酷似し、脚力に依つて廻轉し、繰絲者の手は自由に空いてゐて繭を處理し繰絲するのである。一化性蠶の繭は八箇乃至十二箇を使用して一絲を紡ぐが、廣東の繭は小型であるから二十二箇を使用する。

繰絲より外づいた生絲の綴は束装して地方市場に賣り出し、従前一オンスの價額は約四十仙(墨西哥幣)であつた。

翌年掃立をする爲の卵は別に取り除き、蛾を發生せしめるが、蛾は口からアルカリを分泌し、繭の膠質を分解し、纖維を破つて脱出する。普通それは朝早く三時頃より開始し五時頃迄に全部脱出するから、蓆を敷き蛾の雌雄を當日の午後四時頃迄交尾させて置き、後雄を離し、雌は之を産卵紙の上に收容する。三百粒乃至四百粒の蠶卵の大部は夜分迄に産みつけられるが、蛾に依つては一日又は二日間を要することがある。蛾は食物を取ることなしに雌は五日乃至八日間、雌は八日乃至十二日間生活する。種紙に産み附けた粘着してゐる卵の二化性及多化性のものは其の夏の孵化期迄、一化性或は二化性又は多化性の終期のもは翌年三月或は四月の孵化期迄休止してゐる。従來の研究に係る後掲第三表は、福建省蠶兒の成長に關するものである。

#### 五 蠶の種類

蠶は福建の在來種ではなく、其の現在飼育してゐる總ての種類は外省より移入したものである。即ち一化性、二化性

及三化性の三種があるが、何れも福建で飼育し得る。然れども本省の温度及氣温は著しく高いので、一化性の飼育は若干困難である。由來本省の農家では三回の中一回は豊收を見るが、適當の蠶室を設備して其の温度と氣温を調節することを得れば、容易に好成績を収むる見込はある。

一化性の蠶 (Monovoltine) は歐洲、中部支那に多く飼育せられ、良質の蠶絲を多量に生産する。福建蠶絲の約五割は之に屬し、五月に産卵し、翌年三、四月に至らざれば孵化せぬ故に、結局卵の形で約十箇月を経過する。

二化性の蠶 (Bivoltine) は一年に二世代を繰返すが、第二回目の蠶絲のみ市場に出る。即ち六月は暑熱の爲に一化生の蠶を飼育し得ない爲である。二化生の蠶卵を華氏百三十度乃至百三十五度の熱湯に數秒間浸すと、三回目の不完全な孵化が行はれる。

多化性の蠶 (Polyvoltine) は廣東よりの移入であり、廣東では年に九回出来る。廣東紗とも廣東縮緬とも云ふ絢爛な絹織物は何れも此の蠶絲から作るのである。實際福建に在つて五回しか生産しないのは、五月に一化性の蠶絲を、六月に二化性の蠶絲を得ることが一層價值が多いので、其の結果最後の三回の生絲が市場に取引される。而して農家の大部は最初の二化性の蠶を飼育せずに、先づ他の種類の蠶を飼育する爲に、多化性の蠶を飼育する他の蠶種専門の農家より第三化性の蠶種を購入する。多化性の蠶種は十四時間乃至十六時間、華氏百三十度乃至百三十五度の熱湯に浸して孵化の整一を圖る。普通午後四時に産卵を始めるので、蠶種は翌朝七時前に浸湯せねばならぬ。

福州の五月に於ける平均最高温度は華氏八十九度、湿度は八十六%に上るが如くに高位に在る爲に、一化性蠶兒の飼育は困難であるが、二化性及多化性の蠶兒の飼育には耐へる。温度及湿度を良く調節する様に蠶室を施設せしむれば三種の各蠶兒の飼育に成功するのである。但し福州に屢々見るが如く、気温の急激な変化を見ることは徐々に温度を昇騰するに比して不結果を來すのである。

#### 六 蠶 病

福建の養蠶上主たる欠陥は飼育に不注意なること及蠶室の設備が不衛生であることであるが、蠶病殊に微粒子病は最大の害を醸すのである。本病は人間のマラリア菌に類似してゐる胞子蟲類に屬する微粒子 (*Nosema bombycis* Nag.) の寄生に依るものである。

此の微粒子は蠶の食物と共に口を通じ體內に這入り、消化器管に至つて止り、腸内で胞子は發芽し、各部に移動する小なるアミイバ型に成つて充滿する。其の一部は腸内に排列する細胞に入り、其の内壁中で種々變形し、再び胞子を發生する。成熟すれば胞子は細胞より剝離し、腸内に排泄し蠶沙と共に運ばれ、他の蠶兒を害する。數千のアミイバは蠶體の組織を侵蝕し、不斷に分裂し、總て致死には到らざるも、蠶兒に對する被害は尠くない。營養不良で虛弱となり、成長の障害を來すとき死するに至ることもある。胞子の胃に侵入した後、次期の成熟した胞子が發生する迄には二十日間を経る。而して微粒子が致死せしむる程度に増殖する迄には、胃の中に孵化後三十日を經過する。即ち恰も蠶兒が吐絲する前に罹病し斃死するのである。

蠶室の温度を上昇せしめ、蠶兒の成長に努め、微粒子の被害を蒙る前に繭を作らしむることは往々あるが、斯る蠶は吐絲量極めて少く、飼育の價値がない。それは體質が虛弱であり、多くの病原を貯へて次代に傳染せしむる爲である。反對に冷氣の雨天が長続きするときには、病原體が其の生活を完了し蠶に加害することがある。

此の微粒子は卵又は蠶以外では、七箇月以上其の生存を爲すことは出来ないから、適當な防除施設を爲し、又は無毒卵を使用すれば罹病を避けることが出来る。無毒卵を作ることは一八六四年頃ルイ・バストールに依つて開始され、其の方法は産卵蛾の隔離である。即ち産卵後に顯微鏡の検査を以て病ある毒の母蛾の卵を除くことである。福建の村落より任意に採集した蠶には、往々九五%又はそれ以上の病害を發見することがあるが、此の方法を採用すれば二代又は三代に於て病害を五%、又はそれ以下に減少することが出来る。

本病の蠶に對する影響は一九二六年福建協和大學の試験所で能く實驗したことがある。其の試験に依れば試験蛾四百四十八頭の中、病蠶頭數は四百三十五頭即ち九七・〇九%に上つてゐる。卵の全部を孵化し、完全に飼育した處、其の結果は十三頭の無毒蛾の幼蟲よりは繭六百六十八顆を得たが、四百三十五頭の有毒蛾の幼蟲よりは一顆の繭も得られなかつた。又二十七頭の無毒蛾より五十五「オンス」の繭を得たが、百二十九頭の有毒蛾の幼蟲より六十八オンスの繭を得た。即ち病蠶より得る生絲は僅かに三一・七五%であるから、六八・二五%の損失があるのである。

蠶蛆病 (*Myiasis*) は又寄生蟲に依つて傳播するのであるが、それは灰色肉蠅に酷似する針蠅科 (*Family Tachinidae*) に屬する蠅 (*Tachina Fly*) である。福建に於ける針蠅科の正確な種類は未だ決定せられて居ないが、日本のカヒコノウジバ

く (*Ulimyia sericariae*) と同種であることは疑ない。此の種類は卵を桑葉に生み付け、此の寄生蟲の寄生を受けた病蠶は、成長營繭することあれど化蛾しない。其の蠅の幼蟲は繭に孔を穿ち、繭を損傷する。而して翌春蠅と爲る迄生息するに適する場所に落下するものである。

福建に於ける蠶室は寄生蟲の防除に對する施設なく、或る年の成績を見るに、夏期の生絲を生産すべき多化性の蠶の約七五%は被害を受け、試験用の良繭を得ることが出来ず、多くの農家では其の年に夏蠶を飼育しなかつた。

軟化病 (*Enchaete*) は往々微粒子病と混同してゐるが、一八六七年にバストールは兩者が別種であることを決定した。

本病は腐敗性の病氣であり、營繭前に蠶は急激に罹病黒色に變化し糜爛する。此の病に關聯する生物は能く知られてゐないが、前の南京大學のシー・エス・キツプス教授は獨り蠶に存する所の細菌 (*Micrococcus born Bycis Gibbs*) を分離した。本病の傳播及被害に關する主要原因は、卵を不注意に取り扱ひ、孵化前に著しき暑熱又は寒氣に晒らし、蠶兒の飼育を過多にし、濕氣を帯びた桑葉を給し、蠶室高温、多濕又は通風不良等に歸するのである。

硬化病 (*Muscardine*) は歐洲種の白僵病菌 (*Botrytis bassiana*) 及赤色黄僵病 (*B. Tenella*) に近い菌類に依り發生する。此の菌の胞子は風に吹かれ、殊に蠶の初の脱皮期に氣孔を通じて體內に入り、次の脱皮期に蠶を斃死せしめる。稀には齡の中間で死することがある。屍體の胸腹部は菌絲で充滿し、頭部は白墨の様な外見をし堅くなる。

前記大學の試験所に於て實施したものは、疾病防除の容易な方法がある。其の法は各孵化期前に當つて蠶室の壁、天井及床の全面各室を通じ一%の硫酸銅を溶解した液を以て洗滌し、種紙も亦同液中に水で洗滌する前約五分間浸する。

又或は孵化前に百立方米の範圍に一オンスの硫黄を燃焼して消毒するのである。

七 福建蠶絲と歐洲蠶絲との比較

上海の國際検査所 (*The International Testing House*) に於ける福建蠶絲の試験報告に依ると、製絲法さへ改良すれば福建産生絲は他地方の生絲に比して品質に於て劣らないとのことである。即ち製絲法の相違に依つて下の如き結果を見る。繭層歩合は生繭(五日間經過)と生繭より蛹及脱皮を控除して秤量して得るのである。

實際二百類の五種類より成る繭の試験の結果に依れば、一類に見出された生絲の最高百分率は四七・七%、最低は一〇・一四%とし、而して各繭の平均率は二〇・六五%である。他の一化性の繭の試験に徴すれば左の結果となる。

	最低 %	最高 %	平均 %
第一種	六・三二	一一・九三	九・二六
第二種	一〇・七五	一七・二六	一三・九九
第三種	九・七五	一八・九二	一四・〇一
平均	八・九三	一六・七〇	一二・〇八

右に對し中部支那及日本より報告せられたもの、百分率は左表の如くである。

支那 無錫	選除繭平均 %	選繭平均 %	選除繭平均 %	選繭平均 %
	一五・九六	二五・五四	一六・八二	二六・五九



福建二化性及多化性蠶繭の平均百分率は下表の如くである。

第一種 第二種 第三種	二化性繭の平均%		多化性繭の平均%	
	第一種	第二種	第一種	第二種
	一〇・四七	九・九六	一一・八四	一〇・八五
	一一・一六		一一・三三	
平均				

福建地方に産する繭三十顆の試験に依れば、繭絲長は最短三百四十二碼、最長八百二十一碼、平均五百五十六碼とし、歐洲に於てはチュランの報告に依れば、最長一千碼とし、日本に在つては平均六百四十七碼半と報告されてゐる。

又チュランの報告に依れば、歐洲に於て一化性の蛾一頭の産卵数は四百箇以上としてゐるが、福建に在つては同様の蛾四七九頭中一蛾の産卵数の最多は六一二粒、平均三八〇粒である。福建に於ては微粒子病の二化性蛾四十七頭からは一蛾の産卵平均三二四・四粒なるに對し、無毒蛾百三十三頭からは一蛾の産卵平均三二一・六粒、最多四五八粒である。二〇・七%多いのである。多化性蛾百六十三頭からは一蛾の産卵平均三二一・六粒、最多四五八粒である。

歐洲に於ては一オンスの卵(七十頭乃至八十頭の蛾より産卵され三萬五千の幼蟲を産む)より九十封度、最も多きは百三十封度の生絲を産するが、福建に於ては一オンスの卵より平均僅かに六十封度しか産しない。

八 蠶絲製造法

蛹は蠶蛾に變態すると、繭を嚼み切つて外へ出て来るから、繭の繰絲をする前に繭中の蛹を殺さねばならない。其の方法は(一)日光に依るもの、(二)燻乾に依るもの及び(三)蒸氣乾燥に依るものである。(一)は在來の支那式方法で、長期間を要する上に効果も良くない。即ち蛹を殺すのに四、五日間を要する。而も四、五日光に曝しても蛹が完全に死なない場合がある。(二)及(三)の方法にも各々缺點がある。硫黄で燻すると時々繭を損ふし、蒸氣で乾燥して居る間に蛹が腐爛して繭を汚すこともある。殊に濕氣の多い氣候に蒸乾すると、蛹が腐爛しない前に繭に蠶の生へることがある。最近最も廣く行はれて居るのは、炭火で繭を乾燥せしめて蛹を殺す方法である。此の方法は繭中の蛹を乾燥状態に置き、蛹が腐爛しないと云ふ長所がある。煮繭して繰絲をする時に最も重要なことは、腐爛しないやうに蛹を出来るだけ乾燥せしめるに在る。然し農民は便利且つ經濟的と思考するならば、以上諸方法の長所のみをとつて實行するであらう。絹絲紡績用の繭に煮繭や繰絲を爲すには繭を完全に清め、異色の繭を除去するやう心掛けなければならぬ。甘蔗地方の農民の生産に係る蠶絲の缺點の一は光澤の缺如である。之は農民が繭の擇分けを閑却して居るのに因る。甘蔗産の蠶繭は白色であるが、時々黄みかがつた繭を發見する。此の黄い繭を用途に隨つて除去する必要がある。蓋し農民は煮沸する時に、黄繭を白繭と共に煮釜に入れるから、蠶絲の色が鈍重になり、絹絲製造以外には用途がないと云ふ結果になる。紡績する前に蠶繭の纖維を檢査し、以て一卷の紡絲に繭若干を要するかを調べる必要がある。其の檢査法としては、煮釜に繭若干を入れ、纖維をほどけば良い。

手で繰絲をするには煮釜の水を繭の自然粘着を解かす程の温度に沸して繭を入れ、ば良い。煮釜の水が高温に過ぎれば紡績工が繰絲を終へない間に繭の自然粘着が溶解し、遂には水が繭に浸込んで煮釜の底に沈んで了ふ。又水が低温に過ぎると粘着の溶解が遅いから、繰絲の進行を妨害するやうになる。繭繭乾燥法如何に依つて、煮繭に使用される水の温度も異なつて来る。日光乾燥及び煙乾を施された繭は蒸氣乾燥を施されたものより、煮繭の水は高温でなくてはならない。煮繭の度合の過不足は共に繭絲の色合と調子を損傷するものである。煮釜の水を長く置くと繭の粘着物に依つて混濁し、繭絲の色を損ふから、水は絶えず取代へなければならぬ。

福州農民の生産に係る生絲は、一般に二オンスを一棹とし、普通三十棹を一包として紙で包装したものを市場で賣買する。移輸出生絲は六十包を木箱に荷造りされる(The Economic Journal Oct. 1927. No. 1.)。

九 福建繭絲業の將來

以上に依り福建繭絲の生産は他國の標準には及ばないが、之が研究の結果は其の本來品質に於ては同等であることを知るに足る。氣候は最良ではなくても何も養蠶の發達に困難な事情はない。各種の桑樹及栽培適地は多くあるが、只現在一部に能く利用されて居らない處がある。曾て米國絹業協會の代表は福州に滞在中、福建省生絲の産額は將來一千五百萬弗乃至二千萬弗(メキシコ)に達すべしと豫言したことがある。現在は自給自足が出来ないばかりでなく、外省よりの移入に俟つのである故に、將來は最も進歩した養蠶法を採用し、従前支那に於て最も優良の生絲を産した地方に比肩し得た福建は、又優良の生絲の移出を見なくてはならぬ。

養蠶成績表

第一表 蠶兒の體長(單位耗)

種 類	第一 齡	第二 齡	第三 齡	第四 齡	第五 齡
一 化 性	三三六—六〇〇 二八二—一〇〇	六七一—二二〇 四一五—	一二五—二〇六 七七一—	三三〇—三六〇 二〇九—	三〇〇—三六〇 二〇九—
二 化 性 第一 代	三〇一—五五〇 二二四—	五〇〇—一〇〇〇 四〇八—	一〇六一—一七〇 六八〇—	一八〇—二七〇 一一三—	二六〇—三〇〇 三〇〇—
同 第二 代	二七五—六〇〇 二二九—	六七〇—一〇五〇 三八五—	二八八—一八六 六八三—	一九〇—三三〇 二二七—	三三〇—五七〇 二〇九—
多 化 性 第一 代	二七〇—五七〇 二二四—	六〇〇—一〇七〇 四三〇—	一〇〇〇—一五〇〇 六六六—	一六三—二五〇 一〇〇〇—	二八〇—五〇〇 一〇〇〇—
同 第二 代	二七五—五〇〇 二二八—	五五〇—九五〇 三四五—	一〇〇〇—一七五 六六六—	一八〇—二九〇 一〇五〇—	二九〇—五〇〇 一八八—

第二表 蠶 體 量(瓦)

種 類	第一 齡	第二 齡	第三 齡	第四 齡	第五 齡
一 化 性	〇〇〇〇九七—〇〇五三三 一一六—	〇〇四八—〇〇九二 七三五—	〇二六六—〇二六七 三二八—	〇二八九—〇六四九 一五〇〇—	五二六〇—一七六四 四九六—
二 化 性 第一 代	〇〇〇〇六—〇〇三四四 一九六—	〇〇三六—〇〇七四八 四一八—	〇二七九—〇六二七 三九六—	〇八七三—〇五五五 四九〇—	二七三五—一八八五 五三三—

同 二化性	0002001-0002005	0005001-0005005	0012001-0012005	0025001-0025005	0038001-0038005	0051001-0051005	0064001-0064005	0077001-0077005	0090001-0090005
多化性 第二代	0003001-0003005 11561x	0006001-0006005 11561x	0013001-0013005 11561x	0026001-0026005 11561x	0039001-0039005 11561x	0052001-0052005 11561x	0065001-0065005 11561x	0078001-0078005 11561x	0091001-0091005 11561x
多化性 第一代	0000001-0000005 11561x	0003001-0003005 11561x	0006001-0006005 11561x	0009001-0009005 11561x	0012001-0012005 11561x	0015001-0015005 11561x	0018001-0018005 11561x	0021001-0021005 11561x	0024001-0024005 11561x

第三表 福建に於ける蠶の成長経過表 (單位日)

種類	實際の飼育期間					眠期	全齡	蛹期	蛾期	卵期
	一齡	二齡	三齡	四齡	五齡					
一化性 第一代	六七五	四五	三三	三三	三三	六	三一五	一五	五一三	三〇六
二化性 第一代	五	四	三	三	三	五	三〇	一五	五一三	一〇
同 第二代	一八	三三	五	四	四	四	三一三	一五	五一三	二七
多化性 第一代	一〇三〇	三三	三三	四六	五	五	二一三	一五	五一三	二七
同 第二代	二六	一九	三三	五	五	四	三五	一〇	五一三	九
同 第三代	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

(Anti-cobweb Society, Fukien, Arts and Industries 1933, "The silk Industries in Fukien" by C. R. Kellogg.)

第八 家畜 概況

家畜は勞力の外に又肥料を供給することが出来、土地利用に對しても影響する所が甚大である。本省に於ても役畜としては水牛、黄牛を主とし又馬、驢等があり、生産家畜としては豚を主とし其の他羊、雞、家鴨等がある。左に之等重要家畜に就いて分説する。

(一) 牛

本省は民國二十三年に於ける畜牛中水牛三十一萬頭、黄牛四十五萬七千頭を算し、水牛は毛色からして灰黒色、黒褐色及白色の三種に分たれ、白色は體質軟弱である。又體形からして大小の二種に分たれ、一般に體力強大で、頭部は狭長、角は粗大、四肢は粗強とし、肩肉は能く發達し、腹部大で下垂し、歩行は鈍重で、平素性質は温順である。

黄年は水牛と異り南支よりも北支に多く、其の毛色は一様でないが、黒色、黄褐色、黑白縞等數種がある。又産地に依つて多少體型を異にするが、南支に生産される黄牛は、比較的體型小で頭短く、角小で頸も亦長くない。四肢は強健で肩峯は隆起する。性質は温良で、操作の敏捷なるを一特徴とし、乳房の發達せるものは産乳量十封度内外に達するのがある。之等畜牛は役に供せらるる外に又製革に用ひられ、老廢牛は更に肥育後に屠殺し肉用にも充てる。但し外國種乳牛は僅かに外國人居留地附近に少數飼育を見るのみである。

(二) 馬、驢、騾

本省の同二十三年に於ける馬は二萬九千頭、驢は一萬三千頭、騾は五千頭に過ぎない。而して之等役畜は體軀矮小で、能力は大でないが、粗放な飼養管理に堪ゆるが故に、現在も改良を加へず從來の慣習に従ひ飼養してゐる。本省牛馬の

集團的に飼養されてゐる地方は、興化方面で、古來より馬の飼育普及し、體形は小であるが對照良好である。

(三) 豚

支那の養豚は秦漢前の文獻に在るから、其の由来は古いが、本省の豚は多くは支那黒猪種で、之に薄皮種、厚皮種の別があり、前者は百斤乃至百五十斤の體重を有し、後者は二百斤乃至三百斤で、何れも全身黒色で口吻は極めて尖長、耳は厚く大きく垂れ眼部を覆ふ。鼻長く額狭く、額面は併せて長く、頸薄く長く、骨格粗大で腕節は弱い。蹄は黒く、背狭く凹み垂れてゐるものもある。肋は張らず、腹部は下垂し、胸圍極めて細く、臀短く低く斜となつてゐる。大體臺灣の在來種と大同小異である。成長は遅緩で劣惡種と云ひ得べく、肉味中位、瘦肉多く、肉纖維粗劣であるが、只長所とする所は蕃殖力強く、一産十四、五頭を普通とし、仔育巧で粗放の管理に耐ゆるのである。

本省南部地方には花猪を飼養せるものが比較的多い。本種は一名廣州種とも稱せられ、耳比較的小で、下腹膨垂し、尾直なるを特徴とする。毛色は背部は黒く、腹部は白い。ライドタイプで生後一箇年にして能く二百封度乃至二百五十封度となり、屠肉量は平均七二・五%位である。之が缺點としては背低く腿貧弱で、腹部大等であるが、長所は蕃殖が大で、肥盈性に富み、骨細く肉質良好である。

養豚組織を見るに專業者は殆んどなく、米、酒店等で比較的多數飼養し、普通十數頭、稀れには百數十頭に及ぶものもある。本省飼養数の九割九分迄は一般農民に分布せられ、毎戸一、二頭乃至四、五頭に當り、専ら副業に係る。只種牡豚を有し諸所を巡迴する種付專業者があり、又種牝豚を飼養し、仔豚を生産し生後二箇月位迄之を育成し、一般豚飼育者

へ販賣する仔豚生産育成業者もある。牡の去勢は農家自身で行ふこと多きも、牝の卵巢割去は施術容易ならざるを以て專業者の手に依つて行はるを例とする。蕃殖、飼養、管理は舊慣を踏襲し、更に改良を計ることなく、半野生的の放飼法を主とし、多くは半舍飼で、米炊汁、殘滓等を主飼料とするが、稀には糠、米糠或は大豆粕等を使用することがあり、一般子女をして之が管理に當らしむる習慣である。

一般肉豚飼養者は飼育豚百二、三十斤乃至百五、六十斤に達すれば之を肉店へ賣却する。肉店は徵稅署へ報告の上普通従價一割に相當する屠畜税を納入し、後店頭にて屠殺し、湯剥し枝肉とし更に細切して小賣する。臺灣の如くに屠場設備はなく、又屠體検査もなく、店頭で屠殺解體するから極めて非衛生である。之等は内臓から血液、骨に至る迄相當の價格を以て賣買され、廢棄する所なき迄に利用され居るは臺灣と同様である。

生豚相場は從來銀相場の變動に依り邦價換算三十五圓乃至四十五圓で不定であるが、常に臺灣に比し高價を續け、年々福州廈門等より香港へ輸出せらるゝを見れば、如何に南支に於ける肉豚の需要が大なるかを知るのである。

豚肉加工の状態を見るに肉脯(デンプ)、肉乾(乾燥)、腊腸(腸詰の本)、肉醬(醬油)、豚脚罐頭(豚肉)等廣く知らる所で、廈門に於ける一箇年の生産額は肉脯三千斤、價額七千五百元、肉乾二千斤、價額五千元で、罐詰類は主とし南洋方面へ輸出され年額五百箱、價額九千元と云はれる。何れも家内工業的小規模で、大規模の會社組織の工場なきは臺灣の現状と異なる所がない。以上の外に胃腸(腸詰の細)、肉皮(豚生皮を乾)、豚筋(豚足の腱を乾)等があり、前者は年五萬斤の移入があり、一斤一元二十仙、後者は一斤四十仙程度に取引される。

## (四) 羊 (山羊)

本省の民國二十三年に於ける山羊は五十六萬七千頭あるも、綿羊は北支と異り四千頭に過ぎない(同二十年兩者合計)。  
 之等は農家の副業として畦畔の雜草、或は冬季には農家の副生物たる碎穀、稻麥等を以て飼養せられ、肉用に供する外皮は製革に用ひる。本省の綿羊は所謂支那綿羊の如く被毛粗剛で支那種中でも中等以下に屬する。

綿羊の管理は粗放で多くは年中放牧し、天候悪しきときは土壁内に驅り、乾草、粟等を主飼料とする。放牧羊群は羊管児が之を管理し一人百五十頭乃至二百頭内外を扱ふを例とする。蕃殖は放牧中自然交尾に依り行はれ九月末種付し、翌年二月頃分娩し、牝羊の蕃殖は生後一箇年内外より開始する。受胎率は七割内外とし、牡羊は生後四箇月で去勢する慣習である。採毛は年二回行ひ、春季に採毛したものを春毛と稱し、一頭一斤乃至二斤の精毛を得、初秋のものを秋毛と稱し、毛量、毛質共に春毛に劣る。在來山羊は冠婚葬祭に用ひられ、臺灣の在來種と同じく全身黒色である。

## (五) 家禽

本省家禽の主たるのは鶏及家鴨である。民國二十三年に於ける鶏數は一千八百八十三萬五千羽、家鴨六百十五萬七千羽である。

本省の鶏は大部在來種であり、臺灣種と同品種の様である。産卵能力は大ならず、年二百箇を越ゆるものは稀れである。肉質も亦粗で硬く、外來種に比し劣るも住民の嗜好に適し、優れたる料理法竝に加工等に依り需要は益々盛んである。

其の他の雞に温州雞(火竈)と稱するものがあり、小型で對照良く、毛色は褐色レグホーンに似てゐる雞で、産卵能力

は大であり、一箇年二百三十箇内外を産する。外來種としては交趾種(コナチン、南人は毛脚)、倫香種(ミノ)、小種雞(北人は方鶏と稱)、蘭格荒(ラングシヤン、卵用種)等で近時之等の眞價を認むるに至つた。

家鴨(鶩)は支那が世界無比の飼養國で、殊に本省は養鴨業が甚だ盛んである。本省の品種は臺灣に於ける鴨鶩(菜鴨)が大部を占め、卵肉兼用種である。之が飼養管理は臺灣に於けるが如く、沼澤、河邊に放飼し、蜆、浮草等自然の餌料を食せしめ、其の外主飼料として粳を供與する。鴨寮を設け風雨を避けしめることも亦臺灣と同様である。

其の他比較的多く飼養されてゐるものに土蕃鴨がある。之は蕃鴨及菜鴨の間種で、蕃殖力を缺く。肉味佳良で大型であるから、専ら肉用に供し需要が多い。蕃鴨は主に土蕃鴨を得る爲の種禽として飼養せられ、稀れに肉用に供せられる。鶩は以上の如く卵肉共に食用に供せらるゝ外に、羽毛の利用も亦極めて多いのである(臺灣總督府農務課調査編)。

## 二 農業と家畜利用關係

農業と家畜利用關係に就いて闡候、南平、惠安、龍溪及莆田五縣の調査に依るに、黄牛利用の農戶數は南平縣を除くの外は、左表の如く總戶數に對して平均二七・五%、綿羊利用の農戶數は三・四%を占め、養豚利用の農戶數は五七・二%を占めてゐる。

五縣毎農家平均所有家畜數

縣別	田	溪	安	平	侯	役畜		生畜		家畜											
						大	小	大	小	大	小	大	小								
浦	田	溪	安	平	侯	0.03	0.15	0.04	0.13	0.07	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
龍	田	溪	安	平	侯	0.03	0.15	0.04	0.13	0.07	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
惠	田	溪	安	平	侯	0.03	0.15	0.04	0.13	0.07	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
南	田	溪	安	平	侯	0.03	0.15	0.04	0.13	0.07	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
閩	田	溪	安	平	侯	0.03	0.15	0.04	0.13	0.07	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01

同上農家家畜飼養戸數百分率

縣別	田	溪	安	平	侯	水牛		黃牛		豚		綿羊		鶯		鶏		家鴨		
						大	小	大	小	大	小	大	小	大	小	大	小	大	小	
浦	田	溪	安	平	侯	1.33	1.52	2.63	4.50	7.98	6.1	1.0	9.0	2.93	7.8	8.0	2.93	7.8	8.0	2.93
龍	田	溪	安	平	侯	1.33	1.52	2.63	4.50	7.98	6.1	1.0	9.0	2.93	7.8	8.0	2.93	7.8	8.0	2.93
惠	田	溪	安	平	侯	1.33	1.52	2.63	4.50	7.98	6.1	1.0	9.0	2.93	7.8	8.0	2.93	7.8	8.0	2.93
南	田	溪	安	平	侯	1.33	1.52	2.63	4.50	7.98	6.1	1.0	9.0	2.93	7.8	8.0	2.93	7.8	8.0	2.93
閩	田	溪	安	平	侯	1.33	1.52	2.63	4.50	7.98	6.1	1.0	9.0	2.93	7.8	8.0	2.93	7.8	8.0	2.93

五縣中家畜と土地の面積其の他の關係を見るに、平均毎頭家畜單位の作物面積は一・三三ヘクタールであり、毎頭家畜單位の各季作物總面積は二・三〇ヘクタールである。南平縣を除き每役畜單位の勞働者等數は四縣平均五・七七人である。

同上家畜の密度

縣別	田	溪	安	平	侯 <th colspan="2">每家畜單位面積</th> <th colspan="2">同上各季作物總面積</th> <th colspan="2">每役畜單位の勞働者等數</th>	每家畜單位面積		同上各季作物總面積		每役畜單位の勞働者等數	
						大	小	大	小	大	小
浦	田	溪	安	平	侯	0.87	1.24	1.33	1.33	5.77	5.77
龍	田	溪	安	平	侯	0.87	1.24	1.33	1.33	5.77	5.77
惠	田	溪	安	平	侯	0.87	1.24	1.33	1.33	5.77	5.77
南	田	溪	安	平	侯	0.87	1.24	1.33	1.33	5.77	5.77
閩	田	溪	安	平	侯	0.87	1.24	1.33	1.33	5.77	5.77

支那農家の狀況は毎家一定の役畜あるにはあらず、每農場の大小に従つて役畜の數も増減する。五縣中南平縣には森林多く作物面積は僅かに一・六%を占め、無役畜家數は一〇〇%である外、其餘の各縣は農場の大小に反比例する。同上農場の大小と無役畜農場家數の百分率

縣別	田	溪	安	平	侯 <th colspan="2">每家畜單位面積</th> <th colspan="2">同上各季作物總面積</th> <th colspan="2">每役畜單位の勞働者等數</th>	每家畜單位面積		同上各季作物總面積		每役畜單位の勞働者等數	
						大	小	大	小	大	小
浦	田	溪	安	平	侯	0.87	1.24	1.33	1.33	5.77	5.77
龍	田	溪	安	平	侯	0.87	1.24	1.33	1.33	5.77	5.77
惠	田	溪	安	平	侯	0.87	1.24	1.33	1.33	5.77	5.77
南	田	溪	安	平	侯	0.87	1.24	1.33	1.33	5.77	5.77
閩	田	溪	安	平	侯	0.87	1.24	1.33	1.33	5.77	5.77

農場の大小と役畜使用の効率に關係甚大であり、普通農場の比較的小なる農家は役畜は常に利用すること不十分である爲に、平均役畜の耕作面も亦比較的小である。五縣を綜覽するに農場なれば役畜の使用効率も亦愈々高率となる。同上毎役畜單位所耕各季作物ヘクタール面積と農場の大小關係

縣別	別							家數平均
	最小	中小	中	中大	甚大	最大	特大	
閩侯			〇九	一六	一七	二九	三五	一六
南安				一六	一〇	二〇		一〇
惠安		〇六	一三	一六	二〇	二五		一〇
龍溪				二五	二五	三五		一〇
莆田				二五	一五	一五		一三

(民國二十五年四月十日福建省統計時報)

三 防 疫

本省は支那全般に同じく衛生思想の普及せざると、衛生施設の整備せざることにより、家畜の疾病並に傳染病の爲に斃死する頭數極めて多く、畜牛に於ては牛疫、炭疽、氣腫疽、其の他疥癬蟲病最も多く、馬に於ては鼻疽、豚に於ては豚コレラ等の常在的に存在すること想像に難からず、羊に於ては寄生蟲病の害大であり、其の他生癩、紫腫等があり、又家禽に於ては家禽コレラ、鶏ベスト、寄生蟲病が相當數に上る。中央農業實驗所の民國二十三年度に於ける統計は左表の如くである。

福建省家畜の疾病及死亡頭數

種別	疾病		死亡		種別	疾病		死亡	
	頭數	全數に對する%	頭數	疾病に對する%		頭數	全數に對する%	頭數	疾病に對する%
水牛	二九二六	八六	五五六	一八九	豚	五〇九八	一三六	三三三六	一五〇
黄牛	五五八八	一九八	八二七	一四四	羊	一	一	一	一
馬	一〇〇	一〇	一〇	〇三	雞	三九三六	一八五	三〇〇七〇	一八〇
騾	一〇〇	一〇	一〇	〇三	家鴨	一四九四	一四一	一六七〇五	一六〇
雞	一〇〇	一〇	一〇	〇三	鴨	一四九四	一四一	一六七〇五	一六〇

支那全國に於ける統計を見るに、全飼養數に對する百分率は水牛は八・〇%、黄牛は九・二%、豚は六・一%、鶏は一五・一%、家鴨は二・三%の如く本省に比し何れも著しく少く、又疾病に對する百分率は水牛は一七・一%、豚は四三・二%、鶏は五七・一%、家鴨は五〇・七%で本省に比して著しく少く、只獨り黄牛が一五・〇%で本省に比し若干多いのみである。(同上福建省の農業畜産)

民國二十三年福建省家畜數及價額 (報告縣數三十九)

括弧内は民國二十年度

種別	類	數	量	價格 (千元)
水牛	(千頭)	三三〇	(一・〇四二)	二〇・三三三
黄牛	(同)	四五七	(一・〇四二)	一七・三三四

馬	驢	驘	山	綿	豚	雞	家	鴉
(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)
一九(三三三)	五(三一九)	五六七(八七五)	二、二七三(三、七一八)	一、八三五(一六、三三八)	六、九五七(四、六七三)	五六七		
一、四二六	三七八	七七六	四、〇三七	一四	五三、六四四	九、七四〇	五、六五三	七四四

(民國二十三年及二十五年中國經濟年鑑)

次に左に十七縣下に於ける家畜の種類、病名、疫病の状況、蔓延期、死亡數、豫防竝に治療方法を掲擧する。

(イ) 海澄縣

畜別 驢馬

病名 癰疽、濕瘡(夏癰又は腫病の類)

疫病状況 股間又は腿部に炎症を發し潰爛する

蔓延期 一月―二月

死亡數 二十餘頭

(ロ) 泰寧縣

豫防方法 飲料及厩の清潔に注意すること

治療方法 塗付藥

畜別 豚

病名

疫病状況 急に食物を攝らざるに至り、身體全部紅色を帯び、呻吟して起つ能はず

(ハ) 壽寧縣

畜別 牛、豚、鶏、犬

病名 瘧疾

疫病状況 喘息身熱を起し發熱して食せず、牛豚は四、五日にして即死し、鶏は一、二日にて死し、犬は癡狂を起して人を咬み且傳染力強し

蔓延期及 一月―四月

範圍 隣接の村落にも能く傳染す

死亡數 數十乃至數千

豫防方法 發生當初罹病畜を隔離し以て傳染を防ぐ



(ニ) 三都特種區

畜別 鶏

疫病 状態 食を厭ひ睡眠を好み、後立上りて走り且跳ねる

蔓延期及範圍 半月間續き全市に擴まる

死亡 數 數百羽

豫防方法 鶏瘟を發見したる時は、健康な鶏を隔離せしむ

(ホ) 龍岩縣

畜別 豚、牛

疫病 名称 コレラ、牛疫

疫病 状態 食慾振はず、困憊の狀を呈す、牛疫は即ち體温高く、戰慄を覺え、食慾減退、呼吸困難を來す

蔓延期及範圍 二、三月、二、三十支里に亘る

死亡 數 罹病數の約九割死亡

豫防方法 肉の賣買を禁ずること

治療方法 若い蒿<sup>チヂ</sup>或は硫黃を以て之を飼ふこと

(ハ) 漳平縣

備考 他に猪疫、腸結核等の餘病併發することあり

畜別 豚

疫病 名称 豚疫

疫病 状態 食慾振はず、體温高くなる

蔓延期及範圍 數箇月間、隣村迄に及ぶ

死亡 數 約五分

豫防方法 廣東豚藥

治療方法 廣東製豚藥

(ト) 寧洋縣

畜別 豚、鶏、家鴨

疫病 名称 瘟病

疫病 状態 豚之に罹れば吐瀉し、又は傳染後漸次減食して後死す、鶏、家鴨之に罹れば即死す

蔓延期及範圍 四季共にあり、範圍無限

豫防方法 臭丸(ナフタリンの如し)、臭水(消毒水)又は迷信術を用ひる

治療方法 豚を涼草茶を以て飼ふか、又は下劑を與へる。

(チ) 仙遊縣 畜別 豚、羊、牛、馬、鶏、家鴨、鶩鳥  
病名 瘟疫(急性傳染病の總稱)

疫病状況 食物を取る能はず、口より白泡を吹出し二、三日にして死す

蔓延期及範圍 三週間乃至二、三月、三支里以内

死亡數 十餘乃至二、三百

豫防方法 下水を清潔にし飼料に注意すること

治療方法 病を視て藥を用ひる

(リ) 德化縣

畜別 豚、牛、羊、兔、鶏  
病名 瘟疫

疫病状況 喘息起り、多血性となつて暴行をなし、食すること不能で、口より白泡を吹出す

蔓延期及範圍 一週間乃至二月、五支里以内

死亡數 數頭乃至二、二百頭

豫防方法 乾燥するやう整理し、各種飼料を選択すること

治療方法 獸醫に診斷を頼み藥を與ふること

(ヌ) 霞浦縣

畜別 豚、羊、牛  
病名 猪瘟、水腫病

疫病状況 食欲衰弱し寒さを畏れ發汗し、身體漸次衰弱す、咳を起し腹下しをやり、眼は紅色に變じて、

白色様の粘着性排泄物を出す

十數日、數村落に及ぶ

死亡數 數十頭

豫防方法 飼料を選択すること

(ル) 福安縣

畜別 豚、牛、鶏  
病名 瘟疫

疫病状況 牛、豚は喘息、發熱、身熱、發汗して食せず、鶏は食を厭ひ睡眠を好み二、三日にして死す

蔓延範圍 一村乃至數村

死亡數 數百頭

豫防方法 起居の清潔に注意し、病死畜を埋没すること

(フ) 屏南縣

畜別 牛、豚

病名 瘋病

疫病狀況 發熱甚だし

死亡數 牛、豚共九頭

豫防方法 臭水にて洗滌、食料を清潔にし衛生に注意すること

治療方法 月影下の猫を捕へてアルコールに十數日間浸して置き、その液を服すれば癒する

(ワ) 上杭縣

畜別 牛、鶏、家鴨

病名 瘋疫

疫病狀況 牛の場合は全體に發熱して食慾不進、鶏、家鴨の場合は、頭足共に力を失ひ、眼光色を失ふ

蔓延範圍 三支里乃至五支里半許

豫防方法 畜類を他處に移し、鶏、家鴨を樑上に掛ける

(カ) 惠安縣

治療方法 草藥或は西洋藥を用ひる

畜別

馬、牛、羊、豚

病名 脚癩、火癩、鼻疽(鼻が腫れること)、中暑、瘋脹、臍鼓脹(鼓脹病)

疫病狀況 馬は飲食進まず、耳垂れ眼紅く、體温上り精神異狀を來し、地に倒れる。牛は飲食進まず鼻乾燥し、體温上る。羊は飲食進まず、毛に光澤を失ひ、腹膨れる。豚は食せず温度高く、鼻乾燥し、呼吸迫り尾が硬くなつて精神を失ふ

蔓延期 春、夏に最も多く、四季中皆之を見る

治療方法 獸醫に由り配藥す

(コ) 福安縣

畜別 牛、羊、豚

病名 牛癩、羊癩蹄疫、猪癩疫

疫病狀況 牛は食せず横臥し全體皮膚顫動し體温高くなる。羊は飲食進まず、脚蹄腫上り數日にして死す。豚は飲食進まず

蔓延期及範圍 旬日、一支里許

豫防方法 隔離を要す  
治療方法 治療法に依つて冷劑を與へる

(タ) 永春縣

畜別 豚

病名 熱病

疫病狀況 飲食進まず一、二日にして死す

蔓延期及範圍 六ヶ月間、縣城附近

死亡數 二百頭

治療方法 葱と羊の小腸を混ぜたものを與へる

(レ) 雲霄縣

畜別 鶏

病名 鶏瘟

疫病狀況 疲労困憊、全身發熱し、鶏冠が褐色に變じ、氣管は發聲許りして食せず、胃が膨脹して綠色に變じ、續いて白色となる

蔓延期間範圍 秋に多く一區より全市に及ぶ

死亡數 八千羽

豫防方法 隔離を要す

治療方法 姜汁と雄黃で洗滌する

(民國二十五年中國經濟年鑑)

第七項 農業金融施設

農村金融機關としては銀行、錢莊、質屋(典當)、商店があり、其の割合は民國二十三年二月現在に於て銀行は〇・九%、錢莊は七・二%、質屋は三・六%、商店は一六・三%とし、私人には地主は二〇・〇%、富農は二二・八%、商人は二九・六%である。利息は年一分乃至二分のもの三一・九%、二分乃至三分のもの六三・九%、三分乃至四分のもの四・二%である。利率は西部地方各縣は多くは月三分前後で、不納一年以上になれば、更に複利計算をし、東部各縣は普通月二分前後である。貸借の時期は六月以下のもの四・七%、六月より一年に至るもの五九・七%、一年より二年に至るもの七・一%、二年より三年に至るもの七・一%、三年のもの二・三%、不定期のもの一九・二%である。貯蓄機關は質屋三七%、商店三・四%、私人六〇・五%である。講會(合會)は搖會四一・四%、認會一五・二%、標會一九・六%、七星會六・五%、八賢會四・三%、其他一三・〇%であり、其の金額は百元以下六二・六%、百元以上二百元三一・二%、二百元乃至四百元六・二%であり、其の年限は五年以上五三・九%、五年以上十年四六・一%である。信用方法は個人信用二七・五%、保證信用二七・五%、抵當信用四五・〇%である。

第一 合作（組合）事業

合作社は和平、節儉、自主又は互助の精神を以て、民生主義を實現する具體方法の一とされた。國民政府成立後、各地の合作事業は中央及地方の黨政機關の協力補助に依つて相當成績を擧げてゐる。

本省は年々變亂の爲に、民生凋弊したので、省政府は初農村規復委員會を設立したが、續いて行營の頒布した剿匪區内各省農村金融緩急救済條令に依り、農村金融救済處に改め、民國二十三年七月二十一日に成立した。設置以來翌二十四年六月迄一箇年十三縣に於ける金融救済處の産業組合に對して爲した貸付狀況は左表の如くである。

縣名	組合數	組合員數	貸付金	平均一人當貸付金	縣名	組合數	組合員數	貸付金	平均一人當貸付金
順昌	五	1,044	9,344	8.95	羅源	五	1,929	10,000	10.37
閩侯	五	1,360	19,933	14.60	連江	三	6,097	10,000	4.93
長樂	七	800	14,674	18.33	將樂	三	7,551	10,000	7.27
福清	七	1,213	19,821	16.34	建寧	五	1,925	10,000	10.38
浦城	四	955	10,000	10.58	泰寧	五	1,709	10,000	8.84
邵武	六	1,706	14,716	8.63	南平	一	—	10,000	—
邵安	三	900	9,934	11.03	德化	一	—	10,000	—
仙遊	五	1,217	15,518	12.74	合計	七三	10,470	139,510	—

×南平及德化兩縣は省政府保證貸出

以上合作社の發達してゐるものは、福州電氣公司所設の農村電化部であり、之は福州西門外の科貢郷に在り、郷民の組織する合作社を指導する。科貢郷は春期には必ず水害に、秋期には旱害に逢ふ所である。該電化部が改良實施を始めた際、一渠を築造し、抽水機を備へ、早時には江水を渠内に抽入し、田畝に流し込み灌漑に資した。合作社は電化部より改良種子、新式の耕具及改良種の鶏豚を購買することが出来る。（必しも現金貸借でなく又分期償還することを得る）且つ電化部は耕種、家畜飼養等を指導し、米穀、鶏卵、生育した豚等を合作社の手に依つて賣却することが出来、家計上必要な場合には、合作社より貸出を受け、餘裕のあるものは合作社に貯金することも出来る。其の他合作社は一公共倉庫及春米機を設け、農民の藏穀、春米の用に供して居り、之等を實施以來成果大いに著はれ、農民の収入は従來に十倍したのである。

農村金融救済處の職務は、(一)農村合作豫備社の指導並に監督、(二)農村實況及當地の農業需要事項の調査、(三)農民の貸借收支の調査、(四)各縣農村金融救済の指揮及監督である。現在該處は其の第一歩として指導員を各縣に派遣し、農村合作豫備社の組織を指導し、貸出を開始し、且つ省北部の崇安、浦城、建寧、泰寧、順昌、將樂、沙縣、永安、邵武及西部の連城、龍岩、寧洋、漳平、上杭、永定等の十五縣に先づ合作社の成立を決し、四省農民銀行も亦省内に分支店を設置することにし、其の資本は本店より先づ五十萬元を支出し、農村金融救済處と聯絡をとり、福州に設立する分店は、専ら閩北の農民への貸出を取扱ひ、厦門に設立する支店は、閩西の農民への貸出を取扱ふものと云はれた。福州には、福州農工銀行等があるが、農民との關係は淺く、四省農民銀行の分支店が設置された曉には、農村金融は大いに活動す

ることであつた。

民國二十四年六月省政府では、軍事委員會委員長行營の命を奉じ、農村金融救済處を農村合作委員會に改組し、又各幹部職員を命じた。同會は同年九月成立し、會内は指導、貸付、編輯、文書、事務、會計、運輸の八課に分れ、會外は行政督察區の方法に倣つて、七視察區に劃し、爾來一箇年工作進行の速度及支出經費の節約は他の各省を凌いでゐる。同二十四年十月より翌十一年四月迄の間二十四縣に互り辦事處を設立した。

農村合作委員會成立後、同年十一月一日より、合作社登記事務を開始した。其の登記は、即ち優良組合に對しては、同社の正當活動及發展に對して合法的保護を與へ、劣惡組合に對しては嚴格な取締を爲し、事務開始以來合作社數は著しく増加し、民國二十四年十一月現在組合數百十七(信用四二)、組合員數四千七百七十五(信用一、二二八)、出資口數五千三百三十四(信用一、三三三)、出資金總額一萬一千三百九十四元(信用二、六六六元)が、翌二十五年七月現在には組合數一千九百七(信用一、六二七)、組合員數六萬五千九百三十五(信用五一、七九三兼營)、出資口數七萬二千九百九十三(信用五七九、兼營一五、七)、出資金總額十四萬七千二百三十一元(信用一四、三六〇元、兼營三)に達した。其の他聯合會は區及縣に設け、區聯合會は民國二十五年三月現在の組合數一、組合員數十三、出資口數二十一、出資金總額二百十元が、同年七月現在には組合數十二、組合員數二百六十六、出資口數七百九十八、出資金總額七千九百八十元に達し、縣聯合會は、民國二十五年四月以降同年八月迄各月現在は、組合數一、組合員數十、出資口數七十、出資金總額三千五百元である。

農村合作委員會の民國二十四年十一月以降、翌二十五年八月迄に於ける貸付金額は、百五十二萬三千四百八十五元であり、實物貸付は、即ち仙遊に肥料粉六千四百九十包、長樂に豆粕五萬箇、福清に豆粕六千箇、落花生粕二千九百二十擔、龍溪、同安、雲霄、漳浦、仙遊の各縣に爪哇甘蔗苗五十七萬八千株であり、運輸工作としては邵武、建甌、崇安、泰寧、南平、沙縣に鹽一千九百包、崇安、南平、建甌に米二千餘石、福州に米二千餘石、穀物二千餘斤を夫々運搬した。

本省の各種合作社は多く信用組合に屬し、販賣を兼ねる組合は、極めて少數であり、信用及貸付に偏し、販賣及利用を疎略にするの觀がある。其の主因は、(一)農村經濟の當面の重要問題として、農民が資金に缺乏し借金をなし、換金を急ぐのあまり農産物を安價にて手放し、農民の手許餘裕資金のない爲である。又農民が肥料、牛、農具を購買し、或は堤塘、抽水機等の施設を爲し得ず、生産の増加を計る利用資金を缺く爲である。(二)販賣利用組合の組織は信用組合の組織に比して繁雜さは數倍である。例へば共同販賣の如き、管理經營に宜しきを得ぬ場合は、經費の支出は多く、収入が少く、又利用組合の如き管理宜しきを得ぬ場合は、人員の不和より生産を低減し、紛糾が起り易い爲である。是を以て農民救済方法としては、農民に資金を貸付くる事は實に先決問題であるが、組合組織運用の訓練の順序として、先づ社員に簡單な信用業務を行はせ、經驗の積むに従つて販賣や利用を運營せしめ、販賣の業務は社員の商品を合作社に販賣せしめ、利用の業務は社員の土地を合作社に經營せしめるにある。此の兩方法は民衆の間に信用を得る迄は必ず疑惑を生ずるから、貸付を行ひ、後に販賣と利用を指導し、農民の組合利用を促進し、農民の資金が充實してからは、販賣生産組合の名はなくも、自然に販賣生産の目的に到達し得る。例へば農民銀行より借款後其の農産物の高價を待つて手放す。是

れには農業倉庫を必要とする。農民が負債せず、農産物を抵當にさへしなければ、收穫後自己の自由意志に依り販賣することを得、農民は借入金爲して、肥料、種子、牛等を購入することが出来、其の生産を増加するに至る。

農村合作委員會の各縣に於ける民國二十四年十一月以降、翌二十五年八月迄の貸付歩合は、閩侯縣が最も多く、三〇・五%を占め、その他仙遊縣の七・八一%、長汀縣の五・七二%、連江縣の五・四五%等が相次ぐのである。

本省の合作社聯合社は、民國二十五年十一月現在十數箇で、加盟數の多きは三十社を越えてゐるものがある。株金は十元であるが、只閩侯縣聯合社は五十元、龍溪縣南聯合社は二十元である。其の業務は多くは販賣組合、又は信用兼販賣組合であり、其の中間侯縣の十社は何れも苜蓿、珠蘭等の販賣を業務としてゐる（福建省統計時報第三卷第九期訂正）。

各縣合作社では、又食糧補給計畫の一として、公積金を準備し、社田及社耕辦法をも實施してゐる。即ち建設廳では非常時期に於ける糧食需要の増加に對し、之れが應給の生産向上を謀る爲に、社田及社耕辦法を制定し、各縣合作社に施行方を通令した。大要各社を單位として縣政府より荒蕪地を貸下げ、勞力は社員が分擔し、勞賃を給せず、收益は經費支出以外の一部分を社員に配當し、殘額を各社倉庫に公積金として貯蓄し、三年内に社田若干を購買し、以て同社永久の財産と爲すことになつて居る。左に各縣合作社施行の社田及社耕辦法を誌す。

(甲) 社田 各合作社は先づ適當の荒地を選定し、社員總會に於て借用することに決議の上、縣合作指導員辦事處經由或は直接縣政府より借下げ、其の期間は縣政府で指定する。各社員は一畝以上の生産を殖やす墾作勞力を擔任すべきと同時に、出来る限り冬耕、早稻を併作し、貯藏力ある農作物を耕作すべきことに爲つて居る。

(乙) 社耕 墾耕一切の勞力は社員が勞賃なしで分擔し、勞力提供の不能なる社員は代りを雇つて勞作せしめ、農具、食費は自辨が原則となつてゐる。肥料は自辨或は社の株金、公積金を流用し、若し特殊事情ある場合には縣合作辦事處經由建設廳に肥料借用を申請することが出来る。

(丙) 社穀 墾耕した土地の收益中、經費に二割以下、社員配當に四割以下を支出し、殘額四割以上を社穀として各社倉庫に貯藏し社の公積金とする。農倉兼營なき社に在ては適當の房屋を賃借して貯藏する。各社は三年以内に公積金を利用して社田若干を購買し、同社永久の財産と爲すべきも、此の非常時期に當り社穀を販出するには、豫め縣合作辦事處經由を以て建設廳の許可を受けねばならぬ。各社各季の收益及處分計算書も、其の都度報告すべきものである（民國二十一年十一月商報）。

終りに最近の閩南五縣（漳州、漳浦、東山及海澄等）の農村合作社の狀況を記述せんに、閩南に合作社が設置されて以來、技術的指導、農業の改良及低利資金の貸下に對し、一般農民をして、其の利益に浴せしむること多く、民國二十五年春期の收穫は前年次の約百萬擔に對し倍加して二百萬擔に達し、且つ物價騰貴の爲に一般農村の經濟は漸く改良に赴いた。閩南五縣に設けられた合作社數は二百四十社に上り、五縣の農民は八萬餘人で、合作社に加入する者は約一萬三千餘人を占める。組合株數は約一萬五千株で、毎株の金額は二元であるが、其の種類は二元より二十元に至り、株金總額は三萬餘元に達する。合作社組織の内容は、信用、供給、消費、生産、公用、運銷（運搬販賣）の七項に分れ、之等七項を合併處理するものは聯合社である。其の貸借方法は、（一）現金貸借であり、事業の大小及種類に従つて金額の多

寡を定め、信用は個人本位である。毎月利息は八厘とし、返還は收穫時期と定める。(一)肥料の貸付があるが、其の法は現金貸借と略同じく、現に合作社の閩南五縣に在る貸付の農具、肥料、現金等は其の額二十萬元に達するが、五月末には五十萬元に上る見込である。借人は小作人が最も多數である。従來富農の貸借法は十八元の現金或は同額の肥料を貸付し、收穫時には穀六擔(一擔の値段六元)を返還せしむるから、數箇月の内に富農は倍額の利息を得るが如くに、貧農の血を搾取すること甚しいものがあつた。省政府建設廳第五區合作指導員潘澤興の言に依れば、合作社が豆粕等肥料を自ら運搬し、直接農民に貸付する結果、本市の肥料商人は莫大の打撃を蒙り、政府に救済方を陳情せんとしてゐるが、政府としては農業振興上已むを得ざるのこととして居るから、商人も宜しく合作社に参加し、共同經營を爲し、農業發展の爲に資することになれば、兩々相俟て利益あることである(民國二十六年四月全閩新日報)。

左に民國二十六年度福建省行政計畫中に於ける合作事業に關する現状及之が計畫を掲げる。

- (一) 全省合作事業の普及を計る。二十五年内に於て本省の已に實現した合作事業は四十四縣あり、尙ほ永春、漳平、明溪、松溪、平和、寧洋、屏南、華安、政和、金門、永定、大田、壽寧、霞浦等十八縣及び廈門市に在つては、未だ設立しないが本年度内に續々人を派し設立する。
- (二) 特産運銷合作を實施す。本省各縣特産、例へば沙縣の筍業、古田の紅麴業、德化の陶業、泰寧の木材、平潭の柴業、建陽の澤瀉(慈姑)、閩侯の苜蓿、長汀の紙業、連江、平潭、長樂、東山各縣の漁業等は、生産或は運銷合作社の組織を指導する豫定とす。又龍溪、閩侯の柑橋、安溪、龍溪の蔗業、莆田、晉江、仙遊の龍眼、崇安、福鼎等の茶業、南平、

順昌の冬筍等は、信用運銷合作社を組織せしめ、且つ本年度内に各種手工業及區民の合作社を試設する。

- (三) 合作倉庫を設立す。合作金庫の經營業務は、各合作社及聯合社の放款、存款にして、併せて貯蓄事務を處理す。本年度に於ては資金十四萬四千八百元の捻出を計り、四期に分ち定額に達せしめる。前年度に於ける省政府の交付せる合作基金十萬元を合計すれば二十四萬四千八百元の上る。
- (四) 各縣に於ける合作資金を作る。本省合作區域擴大するに従ひ、所要資金も亦増大せざるを得ず。故に期を分ち各銀行に紹介して放款せしめる。第一期五十八萬元、第二期百三十萬元、第三期二百六萬元、第四期百六萬元とし、期を逐ひて各縣に於ける需要情況を參酌し、適當に之が分配を爲る。
- (五) 社員の生産技術を改良す。積極的に農村合作社々員の農業或は工業の生産技術を改良する。改良方法は之を大別すればイ)技術人員を供給し、ロ)技術上の機械及設備を計畫し指導し、ハ)技術團及著名なる工廠、農場等と連絡し、以て生産の進歩を易からしめる。
- (六) 社員の生活用品を供給す。暫定的に食鹽、石油、麵粉、布疋、糖、藥材各項の物品は省より供給運送する。全省を四區に分ち、各區の需要情況を斟酌して隨時に供給する。

## 第二 農業倉庫

本省の農村合作委員會が民國十四年成立以來、各縣は農村合作社千餘を組織して三百餘萬元を支出した。猶ほ農村日用品供運處を作り、省立銀行から三十萬元を借り入れ、食鹽と石油の二品を取り扱ひ、之を各縣の農村合作社に送りて





同	邵	壽	政	松	建	建
安	武	寧	和	溪	陽	甌
—	—	—	—	—	—	—
三三	一〇	二	二五	一五	七	一
潭	龍	長	平	海	仙	甯
平	岩	泰	和	澄	遊	田
—	—	—	—	—	—	—
三五	—	—	—	—	—	—
計	武	華	晉	上	永	
—	—	—	—	—	—	
三四	—	—	—	—	—	
二五八	—	—	—	—	—	
	一	三	—	—	—	四

第三 農 會

本省の農會は民國二十四年末現在に於ては省農會及市農會なく、縣農會六、區農會八、鄉農會二百八十三、合計二百九十七を算する。

(二十五年中國經濟年鑑)

第八項 農事改良計畫

第一 福建省農林改良計畫中の農業改良事項(民國二十三年二月、同二十四年六月建設廳報告第六册)

一 一般計畫

福建省の氣候、土質は農林業に適し、各地に於ける特産物、例へば竹木、桐油、茶、樟腦、干箱、椎茸、甘蔗、煙草、

柑橘、橄欖、龍眼、荔枝、芭蕉等の如きものの産出量は多額に上るが、農民は近代的知識皆無の爲に、生産技術は毫も改良せられず、經濟組織も亦貧弱である、殊に各地は多年不安で農村衰微し、外國品は其の隙に乗じ侵入し、各地特産物の蒙つた影響は甚大である。尤も之に先立ち各縣に苗圃を設立し、農場をも附設して生産の促進を圖つたが、其の組織は粗笨で、成績は殆んど見るに足るものがない。

建設廳では農村復興を計らんが爲に、民國二十三年各農村改良總場を設立し、試験研究の中心たらしむると共に、之が指導監督の機關たらしめて居る。更に年度を定め又區域を分ち農村漁牧各種の試験場を設け、以て技術の改良及生産の増進を期してゐる。其の豫定計畫は次の如くである。

(一) 水稻の改良

本省の糧食は米を主とする。閩江の流域は産米が最も多いが、近年天災、人禍相踵いで起り、田園は荒廢し、外國米が大部輸入され、民國二十二年の外米輸入高は二百四十餘萬擔、價額一千六百餘萬元を算し、之に各省よりの移入を加へれば三百二十餘萬擔、價額二千餘萬元に達し、一面外米の輸入杜絶せば寒心すべきものがあるを以て、茲に産米改良は誠に喫緊事である。

最近の見積に依れば全省の農田面積は二千三百餘萬畝で、其中籼、粳、糯の作付見込面積は一千六百餘萬畝である。若し近代科學を應用して育種及栽培法の改良に努むれば、最低限度毎畝當り年白米一擔の増加を得て、自給の域に達する。更に若しも耕地面積を擴大し、農村金融の調整に力を注ぎ、運輸方法を改善し、外米の稅率を高むれば、自給は勿

論のこと尚ほ餘剰を生じ外省に供給し得る。

長樂農場は既に設立され、現に水稻の改良試験を行つてゐる。將來更に漳浦農場、邵武農場及浦城農場を逐次設置し、水稻の育種栽培等の改良試験を行ひ、根本對策を樹立し、人民の生活を裕かにせんことを切望する。

#### (二) 甘藷の改良

甘藷は本省に於て米に次ぐ重要な糧食であつて、凡そ傾斜地及瘠地に多く之を栽培し、殊に省南部一帯に於て最も作付が多い。且つ糧食として用ふる外に、酒精原料ともなり、將來酒精工業が発達すれば需要は更に増加する故に、本總場では甘藷の在來種中より各種の用途に適する優良品種を選出し、又新種をも輸入し、栽培試験を行ひ、以て生産増加を期する豫定である。又生産の比較的豊富な地區、例へば晉江、漳浦、邵武、浦城等の農場から先づ夫々實行に移すことにする。

#### (三) 甘蔗の改良

本省の福清、興化、漳州、泉州等は、何れも甘蔗の生産地であつて、曾ては此處で造られた冰糖は、北支、臺灣、日本等に輸出された。漳泉一帯の産額は年々僅かに數百萬元であるが、最近外國糖と競争の結果、既に衰落して、毎年の輸出は六、七十萬元に過ぎないに對し、外國糖の輸入は十倍の六、七百萬にも達する。民國二十一年糖類の輸入税率引上に依り、外國糖の價格が暴騰し土糖は暫らく息をふき返したものの、尚ほ外國糖と競争し得ないのは、其の生産方法が外國糖の如く機械刀を利用した大量の生産、生産費の低廉、品質の良好等の諸點に於て及ばないのにも因るが、亦製

糖原料の品質不良で含糖量少く、製品の生産費が高い上に品質が低劣であるからである。

現在建設廳は製糖工場を積極的に設立せんとしてゐるから、將來實現の曉には原料甘蔗の需要も大となるを以て、本場は之に鑑み、特に適地を選んで外國の優良品種を試植し、尚ほ一面に於ては更に在來種の育種改良に注意を拂ひ、以て將來本省獨特の優良品種を育成し農村に普及せんとする。其他例へば栽培法の試験、病蟲害防除の試験等は緊急に實施し、農民を指導し實地應用すべきである。試験工作は晉江、漳浦、莆田等各農場に於て夫々爲さしめてゐる。

#### (四) 茶の改良

茶は本省の特産であると共に、輸出品の大宗である。省の北部、南部及東部各地に産する紅茶、綠茶は、福州、廈門より輸出し、其の額は一千萬以上に上る。民國二十年の輸出高は二千餘萬元に達したが最近激減した。其の原因は茶産地に土匪が蟻踏した爲に生産逐減し、而も國際貿易上錫蘭、印度、日本茶に販路を奪はれた爲である。且つ各國共茶税を引上げたので益々壓迫が加はり、遂に支那茶は殆んど其の地位を喪失した。製造方法を改良し、品質の向上を計り、他方更に輸出税率の引下げを爲し、生産並に輸送費を低下せば、往時の盛況を挽回することは容易である。

現在福安及邵武の農場に於ては、栽培方法の改良試験を行ひ、優良品種を育成し繁殖に努め、生産の増加を期する豫定である。更に工場を附設し製法を改善し、又茶農より委託製造を爲して逐次品質の優良化を期し、國外の需要に應じ得んとする。

#### (五) 葉烟草の改良

煙草は又本省の特産品であり、十餘年前の輸出は年七、八萬擔、價額二百萬元を示したが、最近の輸出數量は將さに三分の二の減少である。蓋し匪禍猖獗を極めた爲に生産激減し、又紙巻煙草の流行に依り愛煙家が多くそれに移行したので、省外移出も不知不識の中に減少し、省内市場も亦紙巻煙草に奪はれたのである。外省よりの煙草の移入は年七十餘萬元で、紙巻煙草の輸入は年六百餘萬元に達する。

本省永定産の葉煙草は全國に盛名を馳せ、往時の産額は年四百餘萬元に達した。其の他例へば龍岩及其の他各地にも相當賣行を見せてゐるから、之を以てしても本省各地は煙草栽培に適し、種植改良を忽かせにしてはならぬことが知られる。仍て先づ煙草名産地たる永定縣に農場を設定し、在來の優良品種を選択し、栽培法を改良し、一面には外來優良種をも輸入し、試植を行ひ、更に葉煙草製造事業を起し盛運を取り返すべきである。

#### (六) 柑橘類の改良

本省の福州、漳州は柑橘類の名産地である。福州では紅橘が最も多く、年輸出高は平均約十萬擔内外、毎年の生産額は約二十餘萬擔、價額一百餘萬元に上る。南部には椪柑、蕉柑、文旦等が最も多く、毎年の輸出高は三十餘萬擔を算し、年に依つて増減はあるが未だ曾て衰頹の現象を呈してゐない。只近來米國のオレンジ及レモン等の輸入が増加し、毎年少く三千餘擔、價額七、八萬元前後を示し、加ふるに臺灣よりも最近輸入してゐる。若し此の儘に放置すれば省内外市場を奪はれるばかりでなく、或は省内の需要も外國の供給に俟たねばならぬ。然し農民を指導し、新法に依る栽培増殖及病蟲害防除等を行はしめ、品質の向上、數量の増加を計り、尙ほ國の内外より優良品種を輸入し、栽培試験を

行ひ、本省の風土に適する優良種を増殖せしめ、積極的に之が普及に努めば、本省柑橘の生産は長足の進歩を示すことになる。仍て先づ主産地たる福州及龍岩(漳州)に試験所を設け、試験の中心地とし、更に各地に模範果園を作り之が普及を計りつゝある。更に採收、貯藏、包装、催色及運輸方法を改善して萬全を期する豫定である。

#### (七) 芭蕉實及鳳梨の改良

芭蕉實及鳳梨は南部一帯の漳州、漳浦、南靖等の各縣に多量に産出し、毎年各省に移出してゐるが、在來種は何れも貴等品種で栽培本數は多いが、外國品と到底競争にならず、却つて輸入が多額に上つてゐる。

今後は南部の漳浦農場、晋江農場等で之が試験栽培を爲し、在來種を改良し、且つ國外の優良種を試植して増殖に努め、將來廣く農村に普及すれば、生産の増加を計ることは難事ではない。

#### (八) 龍眼及荔枝の改良

龍眼及荔枝は亞熱帯果樹であつて、本省では福州及南部の莆田、仙遊、漳州、泉州、同安等に最も盛に産出する。年額は未だ確實の統計はないが、加工品たる乾龍眼、乾荔枝に就いて見ても、年移輸出額は百餘萬元に達する故に、其の産量の相當額に上るを知るべきである。只農民は栽培及増殖方法に就き保守的であるから、優良品種を十分に増殖せしむることが出来ぬ。又病蟲害の防除法を實施することも出来ぬが之等に因る損失は甚大である。

今後は晋江及莆田の農場に於て各地の龍眼と荔枝の優良種を搜集し、之が繁殖に努め、病蟲害の防除法を研究し、且つ包装、貯藏、輸送法等に就いても改良を加へ、産量、品質共に増進せしむる豫定である。

## (九) 牧畜の改良

本省の牧畜事業は極めて貧弱である。農家の家畜飼養は甚だしく、況んや大規模經營に依る牧畜業者は未だ曾てないのである。福州に就いて見ても豚、鶏等の大部は皆温州よりの移入に係り、鶏卵移入丈けでも年々相當額に上つてゐる。南部一帯の農家は比較的到家畜を飼養する者が多いが、尙ほ僅かに自給し得るのみである。品種は本省の家畜、家畜は何れも土種である。

仍て先づ優良品種を購入し之を繁殖せしめ、更に在來種と交配し、本省の飼養に適する優良種を育成し、多數繁殖せしめて農村に分配し、副業収入を増加すべきである。家畜病害の豫防及救済方法にも意を用ひ、慮外の損失を減少せしむる方針である。尙ほ福州、龍溪、建甌、連城等に種畜場一箇宛を設くる豫定である。

## (十) 土壤及肥料の調査分析試験

農業生産と土壤、肥料との關係は甚だ密接であり、土壤と肥料との關係は亦甚だ複雑である。兩者の配置宜しきを得ざれば、農業經營の利は收め難い。本省では土壤及肥料に關する各種の試験及調査が缺如してゐる爲に、經濟的植物を栽培せんとするも、之が目的地的土壤適否が不明な爲に遂に其の儘に委せられる。無知な農民は土壤の如何を問はず、勝手に栽培して居るが、大部の失敗は土質に合はぬ爲である。

又本省肥料の種類は複雑で、從來民間では多く天然肥料を用ひたが、最近では化學肥料の輸入甚だ多く、之を使用する者も亦少くない。只知識に乏しい爲に時に配合を誤り、爲に作物の收量は上がらず、土質は劣化し、金錢上の損失は勿

論甚大であるが、而かも生産要素たる土地が瘠薄化する損失は勿論更に大である。仍て土壤、肥料の化學的分析實驗所を設け、本省各地の土壤を調査し成分區圖を作り、且つ土壤を蒐集分析し、其の成分の性質を分類し、農民に説明し、彼等に土地の選擇方法を授けることにする。又肥料方面では全省各地のあらゆる肥料の種類を蒐集し、化學的分析試験を爲し、各地の土質及作物の種類に應じ施肥の標準量を定め、之が成績を適時公布し、農民に對する施肥栽培の指南車たらしむべきである。

## (十一) 肥料の製造

本省農民の用ひる肥料は人糞尿、草木灰、豆粕が主である。豆粕支けは大部滿洲國より移入するが、其の他は本地に於て供給する。最近十年間の外國製人造肥料の輸入額は年約三百萬元に上り、國幣の流出は憂慮すべき現象である。惟ふに人造肥料の効力は速かに現はれ易く、農民は皆之を利用するのであるが、近年其の施用が當を失した爲に、却つて田地に害があることを知られた。仍て當面の對策としては堆肥を奨励するの外、先づ福州に一骨粉製造工場を設け、燐質肥料の供給を計る豫定である。即ち本省に於ける骨角製品の小工業は相當盛んであり、廢物たる骨角の殘屑は肥料に用ひられはするが、加工してないから効力の發生が遅々たるものである。故に廣く之を収集し加工し、良好な肥料として廉價に農民に販賣することにする。

## (十二) 農具の改良

農具の良否は農業勞働の能率と甚大の關係を有し、農産物の多寡も之に依つて支配せられる。然るに本省農家使用の

器具は尙ほ舊態を脱せずして毫も改良せられず、爲に能率は低劣で外國製農具に比較すれば格段の相違がある。仍て小規模の農具製造工場を設け、新式農具を製造し、有効の成績を見て之を極力普及する方針である。

(十三) 調査及成績の普及

本省の農林状態に就いては、從來精確な調査がなく、指導上著しく不便を感ずる。仍て調査員を選任し各地に派し、各縣政府技術員と共に深く農村に入り、農民に接近して克明に調査し、精密な報告を作成せしめ、農村施設の標準たらしめる豫定である。

而して農村試験で成績の見るべきものあらば、大いに之が普及を計るべきであるが、斯る方面は本省では先例がない。蓋し各地の農村機關は殆んど農民と連絡をとつてゐないから、従つて又普及及成績もない譯である。本省在來の優良品種に改良を加へると共に、他地より優良種を輸入し、栽培、飼育等一切の試験を行ひ、依つて得た優良種の普及及價値のあるものは之を冊子に作製し、廣く宣傳し繁殖に資し、農民の仕事に便宜を興へ、普及改良の實績を擧ぐべき方針である。

二 試験機關の設立及各地成績

(一) 試験研究機關の設立

本省農業試験研究機關の設立を年度別に見るときは、左記の如くである。

民國二十三年度には長樂縣長樂農場を設立し、水稻の改良研究を計畫し、民國二十四年度には閩侯縣福州柑橋試驗地

を設置し、柑橋類の改良研究を計畫し、龍溪縣漳浦農場を設立し、水稻、甘蔗、果樹、牧畜の改良研究を計畫し、福安縣福安茶葉改良場を設立し、茶の栽培及製造の改良を計畫し、福州種畜場を設立し、牛、羊、豚、鶏の改良を計畫し、福州土壤肥料化驗所を設立し、土壤肥料の調査分析を計畫し、永安縣永安煙草改良場を設立し、葉煙草の改良を計畫し、民國二十五年には晉江縣晉江農場を設立し、農藝及園藝作物の改良を計畫し、建甌縣建甌種畜場を設立し、牛、羊、豚、鶏の改良を計畫し、閩侯縣農具製造工場を設立し、新式農具の製造及舊式農具の改良を計畫し、民國二十六年には莆田縣莆田農場及邵武縣邵武農場を設立し、各農藝及園藝作物の改良を計畫し、連城縣連城種畜場を設立し、牛、羊、豚、鶏の改良を計畫し、民國二十七年には浦城縣浦城農場を設立し、農藝作物の改良を計畫し、閩侯縣骨粉製造場を設立し、骨粉の製造を計畫する豫定である。

(二) 各地成績

(イ) 長樂農場

元海軍漚田局は農事試驗場を一箇長樂縣第四區の觀天津地方に設置し、其の水田面積三百二千餘畝を占めてゐるが、當時の建築物及一切の設備は、民國十九年の事變に際し、焚燬掠奪に遭ひ烏有に歸してから、耕地荒廢して以來久しく年月を経過してゐる。同二十三年建設廳は長樂連柄港の漚田工程處を復興し、暫時同處に保管されゐたが、同二十四年春本廳に各地農場設立の議が起り、同地を利用することとし、引續きを終ると同時に組織規程を定め、創設費及經常費を豫算に計上し、二月二十四日正式に之が成立を見、名稱を福建省農村改良總場長樂農場と改め、内部の工作に取り掛つた

のである。本場の方針及事業は左の如くである。

開墾 同場は荒廢以來年月を経過し、耕墾困難である上に、建設廳の農場に引繼がれた時已に農繁期であつたから、全部の耕作は到底出来なかつた。依つて民國二十四年度は僅かに七千餘畝を開墾して種植試験を行ひ、其の他は皆農民に貸與し一年耕作を爲さしめ、且つ耕作程度を觀て補償を與へて奨勵した。人力鋤を以て墾すこと數度、且つ長時間水を入れ漸く挿秧が出来たので、已に全部開墾し二期米を植付けた。深耕犁を使用してゐるから、比較的到手數が省かれ、且つ效果も學がつてゐる。

區劃決定、道路築造 耕地を新に劃分し九區の井字型とし、農道も之に従ひ井字型の大なるものを修築した。其の幅員寬き處は四・五米、狭くも二米、長漳公路の農場支線と連接せしめてゐる。路基の一方には排水溝を設け、幅員一・八米乃至三・〇米、他の一方は灌溉溝で幅員一米である。

場合の建築 農場を去る三支里許の鶴上郷の民家を借上げ、臨時事務所を設け、原との建築敷地を擴張し八畝にし、場合建築敷地とする豫定である。

乾燥場設置 農産物の收容、脱穀及乾燥等の爲には、比較的廣い乾燥場を要するので、場合敷地の西南角に面積約一畝を土盛り平坦とし、乾燥場を造る豫定である。

試験工作 試験としては(一)水稻の育種であり、稻種の蒐集、收穫量の比較試験、混合選種、純系選種等を爲し、(二)水稻の栽培試験で、豐凶考照試験、施肥量標準試験、用水量試験等を爲し、(三)甘蔗の栽培で、品種比較試験、甘蔗栽培試験

を爲す豫定である。

氣象觀測 氣象要素は農業生産と極めて密接な關係に在るから、本場開設以來先づ雨量計、溫度表、濕度表、蒸發器等を購入し百葉箱を設置し、民國二十四年四月一日より記録を開始した。

農事講習班の開設 本場附近の住民は多く文盲であつて知識の程度低く、將來農業振興上支障を來すを以て、省立長樂農業職業學校に農事講習班を附設し、農事常識の養成を爲すことにし、授業料を免除し、每班定員五十名、授業時間毎夜七時より九時迄三箇月間で修了する。發表以來申込者多く全部の收容は不可能である。六月十六日講習を開始したが、滿期となれば更に第二回以降繼續し所期の目的を達成する豫定である。

#### (ロ) 其他縣立農場

其他縣立農場としては龍溪縣立農林試驗場、漳浦縣立苗圃及農場、海澄縣立苗圃及農場等あれど、何れも小規模のものであり、蔬菜園、果樹園等も若干ある。龍溪縣立農林場には普通作物の外に、以前から栽培してゐる臺灣改良甘蔗二畝及臺灣の改良種である「佐久間」種の蓖麻一畝があるが生育は頗る佳良である。

#### (ハ) 民間農場企業

省南部一帯の人民には農業に投資する者が相當あり、或は獨資で或は合資で土地を購入し、農場企業を經營してゐる。殊に龍溪、南靖、漳浦、海澄一帯は最も多い。其の經營は一定してゐないが、果樹を栽培する者、甘蔗を作り又は之に依つて製糖する者は漳浦、長泰、南靖、思明、南安各地を通じ八公司ある。

民國二十六年一月元旦福建省政府主席陳儀の發表した經濟建設計畫中の一節には「福建省は亞熱帯に位し全省は沿海に於ける僅かの平野を除くの外は盡く山地である。此の種地形は我等一千數百萬人の經濟生活形態を決定するもので、全省一億七千餘萬畝の總面積中、農業上耕作可能の土地は僅かに二千數百萬畝に過ぎず、百分の十二にも當らざるものである。而して此の二千數百萬畝の耕地から毎年各三、四千萬擔の米及甘薯及又は三百萬擔の麥の生産あるも、之等を含して八、九箇月の食用に充當出来るのみである。而して被服原料たる棉花、羊毛は皆無で、之等は凡て省外より求めなければならぬ」と前提し、農事改良方針に付左の二項目を説いてゐる。

甲 荒地の開墾

本省は連年の變亂に依り人民は流離所を失ひ、荒廢せる土地は總計一、二百萬畝以上である。又一方失業せる農民は耕地を求むるも得られず、之が久しきに互る場合小は寇盜と爲り、大は土匪と爲り、荒地多ければ人民を窮せしめ、失業人多ければ地方を亂れしむるものである。亂と窮とは民衆生活に關係する所頗る多きのみならず、國家に影響する所も大である。荒地を開墾する一方無用を化して有用と爲すべく、土地を完全に利用して生産物を増加し、一方失業者に職を與へ、其の力を盡さしめば、禍亂は減少する。本省に就いて云へば、若し荒地を開墾し、之を十分の一増加せしむれば、毎年一、二箇月の糧食不足問題も、其の一部を解決し得るが、同時に生活不能の人も少からざるが故に、建設工作を行つて之等の人々を救済せしむべきである。荒地を開墾する所以は本省の經濟的發展の必要條件にして、單

る荒地開墾問題ではない。農民の招集方法、資本の準備方法、土地の處理方法等も極めて複雑であり、且つ簡單なるものではなく、凡て之等は慎重に考究されねばならぬ。荒地開墾は概略次の三種に分つことが出来る。(一)は公有公營で、省政府或は縣政府に於て經費を準備し、農人を招募し、新式技術を應用して直接經營を廢し、農夫は唯雇傭的地位に在らしめ、荒地開墾の利益は政府の所得に歸せしむるものである。(二)は公有社營で、荒地開墾の農民を指導して合作社を組織せしめ、共同して荒地を開墾せしむるもので、其の所有權は之を政府に、使用權は之を合作社に屬さしめるものである。(三)は公有私營或は私有私營で、開墾する農民に荒地を所有せしめ、或は租稅又は地價を出さしむるものである。此の三種の辦法は畢竟其の何れか一種を行ふが適切である否やは實施後の成績に待たねばならぬ。本省は先に兩區を選定し、公有公營、公有社營の兩辦法を實施試驗してゐるが、其の結果如何に依り更に各地に推行にせんとしてゐる。

乙 農業技術の改良(種子、肥料、灌溉、農具、農産製造、畜産改良等)

我が國の農民は其の性保守的にして耕作方法に對しても舊習を墨守し改革する所を知らず、各種農作物に於て力を盡すこと多きも收穫の少き所以である。現代歐米諸國の農業技術は進歩著しく、支那の土地の如きも之等の新法を應用して耕種すれば其の收穫も自然増加する筈である。若し本省現在の稻田面積に對し、每畝米五十斤を能く多産するものとするれば、全省では毎年六、七百萬擔の米を多く産出すべく、本省目前の不足米を補ふに足る筈である。之が爲に農業技術の改良は經濟發展の重要な途徑と云ふべきである。本省は農業技術の改良に對しては現在次の三工作を準備してゐる。(一)は研究上のことで、優良種の育生と劣等種の淘汰である。尙ほ農具の改良、肥料の製造方法、其の他種々の工作



がある。之等は凡て時に依り、土地に依り不同があり、試験研究を要する。本省は曾て數箇所の農場、農學校を設立して此の種の工作に従事したが、之は長期間を要するのみでなく、人才の集中、經濟的財力を要するものである。本年は完備せる一試験場を設けて全省の農業技術の中心とすべきものを研究せしめ、且つ人才を招聘し、設備の擴充を計り、農業上の新技術の發明を爲さしむる計畫である。而して本省に於て財力に餘裕が出来れば、將來之を以て農科大學に擴充せしむる基礎とする考である。(二)は推廣方法で、改良せる農業技術を果して農民が普遍的に接授し、充分に之を利用することなければ、農業の改進、農民の利益上裨補する所少き譯である。則ち新技術の推廣は其の研究と同様に重要なことである。昨年本省は一農民師資訓練所を創立し、中等農科の卒業生を集めると共に、耕種に經驗ある農夫をも併せて相當なる訓練を施した。説明の目的は即ち農民指導者の養成教育にして、農業上の新技術を能く青年農民に傳授するに在つた。本省は將來農師資訓練所を以て農業上の新技術を推廣する中心と爲し、試験場は其の研究の結果を該所に供せしめ、該所は試験所の研究で得た所を各地の農民に周知せしむるものとする。本年後半に於て先づ二十縣に命じ農民職業補習學校を設置せしめ、一校毎に廣大なる農場を有せしむると共に、該校の校長、教員、實習指導員は凡て農民師資訓練所の卒業生を任命充當せしむることとした。該校の生徒は當地に於ける耕種に經驗ある青年農夫を招集し、一箇年に卒業するものとし、學課以外に他面農場に於て實際に耕種せしめ、其の所得は彼等に歸せしめる。斯くの如くにして彼等は新技術を獲得し又能く生活を維持し、讀書の爲に頭腦を働かし、又體力を養ふことを得るものであり、此の補習教育は自然認識されて來た。今後此の種の補習學校は將來二十縣より四十縣、六十二縣に及ぼすもので、若し全省六十

二箇所の農業學校に於て毎校平均卒業生百人とすれば、全體で六千二百人の新農業教育を受けたる農夫が出来ると譯で、五年後には三萬餘の新農夫が出来ることになる。而して新農夫の一人が其の親戚、朋友に對して相當の影響を與へるものとすれば、農業上の新技術推廣工作は容易に實現することが出来る。而して一般農民が新農業技術の必要を感じるに至り、之を多く利用するに於ては、農具製造所、肥料製造所を始め種々の農業的機關に至る迄自然と發達すべく、農業部内の産業革命も之より開始するものと云ふことが出来る。(三)は應用方面で、新農業の技術的實地應用に關して、我々は農民の組織せる各種の合作社を指導しなければならぬ、又其の實施を普遍ならしむる爲に、我々は農民合作社を以て新技術應用の中心とすることを要する。此の他我々が特に提唱する次の二項がある。第一は灌漑に關する注意である。元來我が國の耕作方法は歐洲の夫と同じでない。歐洲に於ては施肥を爲さざれば收穫を増加せしむることが出来ぬが、支那は僅かに水利を改良して灌漑を計れば豊富なる收穫を得ることが出来る。故に夏の禹王も力を溝洫(田間の水道)に盡し、孔子も之を賞讃して居る。近世に至つては水利を修めず、旱災頻々として起る故に、農田の水利を改良せんとする次第である。我々は之を廣く提唱する必要があると共に、農民を指導して行かねばならぬ。第二は畜産の改良である。畜産は農村の副業で、速かに改良方法を考ふべきである。現在鶏、家鴨、豚、羊等は己に之が改良に著手し居れど、唯馬、驢等は平時に於て農業及交通上裨益する所多きのみならず、國防上より見ても頗る重要である。而も本省の馬驢等は其の品種不良なるにより、先づ之が研究に著手して以て改良すべきである。

農業教育に至つては、當然農業技術上の必要工具を改良しなければならぬ。本省の農業教育は二つに分けられる。一

は農民教育で、成年農夫の教育に對しては則ち農民職業補習學校を設立し、農民の子弟教育に對しては則ち一般に鄉村の小學があり、主として農業上の課程と生活とに意を注ぎ、農村の爲に教育を完成せしむるものである。二は農業専門教育で中位の人才に對しては則ち全省に完備せる高級農業職業學校を設立し、試驗場と合同せしめ、高級の人才に對しては則ち農科大學或は農業専門學校を設立する計畫であり、初級農業職業學校に至つては其の學生の年齢低く、科學智識少く、其の實際的材能は青年農民に及ばず、其の農業上の知識根柢に於て大差があり、此の種校學卒業後の學生は單なる一農夫とも君傲されず、又一技士とも見做されざるものであり、現在殆んで用ゐられる所がない爲に、此の種の學校は今後其の設立を停止する筈である。

附錄一 長樂縣農場水稻試驗報告(民國二十五年三月編)

序

福建省政府建設廳は本省農業の發展を圖る爲に、民國二十四年二月長樂農場を開設し、省農林改良總場及本場の計畫經營で一箇年間に一切の基礎工作は略々出來上り、農場の形を整へるに至つた。本農場は長樂第一區平原の中心に位し、又電力灌溉區域の内に在る。本場の成立に依つて、本省稻作改良の基礎的試驗と研究に遺憾なきを期するのならず、稻作の指導、調査、研究等の事項も積極的に行ひ、以て本省の稻作改良發展の方針を樹立することを期し、本場設立の使命を果し、本場開設の目的を達成すべきである。本場の技術的方面の計畫遂行に従事してより一年半を経過したが、其の間に實施した試驗及調査は(一)長樂縣第一區水稻栽培慣例調査、(二)水稻用水量査定試驗、(三)水稻農區考照試驗、(四)水稻

施肥標準量査定試驗、(五)水稻育種試驗とする(民國二十五年三月十九日陳振鐸識)。左に調査者の試驗報告中長樂縣第一區水稻栽培慣例調査を抄録する。詳細は南洋協會編臺灣支部南支調査資料福建々設報告第二輯に譲る。

左記

一、調査項目

- (一) 土地の高低土壤の性状及一般農地事情の調査
- (二) 稻作經營に必要な種子、肥料、勞力等の數量價格及一般經濟概況事項の調査
- (三) 稻の收穫高、地租額及納稅方法等の調査
- (四) 水利概況、水租負擔等の調査
- (五) 農民副業の概況に關する調査
- (六) 民國二十五年(漑田局復興後)と同二十四年(同局復興前)の米收穫高との比較調査
- (七) 將來の水稻改良に關する調査

二、調査期日

- 第一期米—七月十一日至同月二十二日—六日
- 第二期米—十一月六日至同月十日—五日

三、調査者

第一期米一六名 第二期米一十六名

四、調査区域及調査戸數

郷數二十五 調査戸數第一期米九十九戸、第二期米百四十八戸

五、調査に用ひたる單位及物價

斤量—一市斤—二分の一公斤(五〇〇瓦)

畝數—一市畝—六公畝三分の二(六六六・三/三平方米)

尺度—一市尺—三分の一公尺(三分の一米)

物價表 (每百斤)

精米	三・五〇
豆	四・〇〇
堆肥	〇・二〇
人糞	〇・一〇
綠肥	〇・一〇

六、調査の結論

(一) 各郷の第一期米、第二期米の畝當り平均收量は其の差頗る大きい。第一期米で最も多いのは四六四・一斤、最も少いのは三二三・八斤とし、第二期米で最も多いのは四六一・五斤、最も少いのは一九〇・六斤、平均收量は第一期

米は四〇六・六斤、第二期米は三一九・八斤で、兩期合計約七〇〇斤である。

(二) 第一、二期米の間に差の多いのは、海岸附近の灌漑排水の比較的悪い區の五郷で、平均收量から見ても第一期米は二期米に比して五九%餘多いが、水利便である福州附近は第一、二期收量は略々等しく、或は第二期米は第一期米に比して多い。

(三) 農耕用費の支出は各郷大差がある。最も多いものは畝當り一、二期合計二〇・九〇元、最も少いもの一〇・八八元、平均一五・二二元である。就中肥料費は最も多いものは七・六元、最も少いものは四・一元、各郷平均五六・八元である。

(四) 小作人の收支は大抵略々相償ひ、損失のあるものも其の額は甚だ少い。利益一期全區平均〇・三四元、二期一・六五元である。

(五) 水稻の産量を増加するには、單位面積畝當りの栽植株數を適宜増加すべきである。收量の比較的良い區は二期挿苗數は何れも一期よりも多い。一般に一期平均九、五三一株に對し二期平均六、八一八株である。

(六) 小作料の收量に對する比率は、最高は第一期收量の七〇%、第二期收量の四五%を占め、最低は第一期二九%、第二期一四%を占め、平均第一期三九%、第二期二二%である。

(七) 各郷小作農の小作料支拂法は頗る區々であり、一期全部支拂ふものがあり、一期に八分、二期に二分、一期に六分、二期に四分、一、二期に五分宛のもの等がある。其の中一期七分、二期三分が普通である。二期調査のときも

同様である。それは二期の收穫が常に少い爲である。

- (八) 漑田局復興後本區域の米作量は確かに増加してゐる。前後兩年を比較すれば後年の收買増加は著しい。第一期増收率は畝當り七七・一％で、前年に比し三〇〇斤を増加し、第二期の増收率は九八％で、前年に比し二一七斤を増收し、一、二期を通じ畝當り五一七斤を増收した。前年災害を蒙つた面積を當漑漑區域面積六萬畝の半數三萬畝として計算すれば、後年の増收は合計十五萬擔前後で、價額五十二萬餘元に當る。

附録二 閩西地方の計口授田計畫(昭和十一年六月臺灣總督府警務局保安課編福建事變概説)

福建省西部に於ては民國二十二年(一九三三年)十二月十九路軍移住後、同地方にソヴェト區域を收復した當時、閩西善後委員會の手に依つて土地整理辦法として古世又は孫文地權平均の精神の基く、所謂計口授田法の施行計畫を立てたが、人民政府は翌二十三年瓦解したので、本計畫は實現せられなかつたが、江西省に於ける赤區の土地公有制と共に、支那經濟史上若干の參考資料と爲るべきを以て左に五項に分ち其の内容を略述する。

一 閩西善後處授田細則

- (一) 本細則は「耕者有其田」を以て原則とし、「計口授田」に依據し耕地農有の實現を主張す
- (二) 計口授田執行區域に在つては、一切の土地所有權は總て國家に歸し、耕作農民は使用權及收益權を受く
- (三) 凡そ眞正耕作に従事する農民には性別年齢を分たず、均しく同量の土地を授與す
- (四) 鄉村中眞に耕作に従事する農民は、過去に於て地主、富豪、中農、貧農、佃農、雇農たるを問はず、一律平等

に土地を授與す

- (五) 凡そ國家の爲に服務する現役軍人及地方に服務する警察官、青年義勇團、或は保衛團丁は、普通農民と同様土地を授與す。必要あるときは民衆の議決に依り優待することを得。其の得べき田は軍人、警察官、團丁等未だ職務を離れざる以前に在るものにして、家族あるものには其の家族に授け耕作せしめ、無家族者には留田と爲し、其の職務解除を俟つて授受耕作す
- (六) 凡そ鄉村間の土劣、匪徒及僧尼、道士、宣教師、堪輿(地相)、賣卜者、神巫等迷信を以て職業とする寄生搾取分子には土地を授受するを得ず、但し在來の職業を放棄し、確實に耕作し得るものに對しては情形斟酌の上土地を授與す
- (七) 凡そ罪を犯し獄に投ぜられ、半年以上監禁せられ未だ執行完了せざるものには土地を授與せず。但し出獄後は普通農民と一律に待遇す
- (八) 各郷の留田は郷委員會より労働餘力あるものに授與耕作せしめ、納税は普通土地税に比較し三分の一を増し、其の増加した税額は郷委員會に交付し本郷公共建設の用に充つ
- (九) 各郷留田は總て郷委員會之を管理す、他郷に在りて未だ歸郷せざる生産分子の家族、労働餘力者は留田を優先領耕することを得
- (十) 各郷は授田に際し村を以て單位とし、本村の人口、土地及び原耕状態に按照し、多きより抽き、少きを補ひ、